岡山県立大学

社会貢献年報 2016

社会貢献年報 2016 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長　辻　英明

本学は、1993 年に開学し、これまで有為な人材を輩出してきました。2005 年に本学の社会貢献の拠点となる組織として地域共同研究機構を設置し、現在、当該機構は、産学官連携推進センター及び地域推進センターから構成されています。これらの組織は、企業との共同研究や技術相談などの推進、地域が期待する産業や学術・文化の振興等の地域貢献を行っています。

一昨年度、文部科学省における地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に、本学を代表校とする「地域で学び、地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」が採択されました。本事業は、教育改革、域学連携、産学連携の３つの取り組みで構成され、岡山県下の大学とチームを組み、岡山県下の自治体、岡山県の経済団体などと連携し、地域で活躍できる人材を育成して地方創生につながる取り組みを行い、地元定着率を高めることを目的としています。教育改革では、副専攻として岡山創生学を設け、学生を地域社会と交流させ、いわば地域連携教育を通して地域で活躍できる人材育成を行い、域学連携では、自治体や民間と協働して子育てや高齢者支援などを通して住みやすい地域づくりに貢献し、産学連携では、地場産業支援に加え、企業の情報と学生の要望を取り入れた雇用マッチングシステムを開発して雇用創出と地域への就職推進の環境整備を行います。本事業は、本学が第二期中期計画において策定している 3 つの運営方針の一つである「戦略的な地域貢献の推進」に合致する取り組みであり、今後、本学は、本事業を通じて、学生参加のもとで地域連携教育を実施するとともに、従来の活動とは異なった地域連携活動を積極的に推進します。

毎年、本学の社会貢献の活動をまとめて社会貢献年報として公表しています。

この社会貢献年報 2016 は、企業及び地域住民の立場に立って、平成 28 年度（2016 年度）の社会貢献活動をまとめて編集したものです。皆様には、この社会貢献年報 2016 をご高覧頂き、本学の社会貢献活動について理解を深めていただきますことをお願いいたします。

今後も、地域から期待され、地域に貢献する大学を目指して、さらに充実した社会貢献活動を行いますので、皆様のご支援をお願い申し上げます。

2017 年 5 月

目　　次

社会貢献年報 2016 の発刊にあたって

１　本学の社会貢献についての概要 1
２　地（知）の拠点としての活動 5
２．１　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+） 5
２．１－１　事業の概要 6
２．１－２　「教育改革」に関する活動 7
２．１－３　「域学連携」に関する活動 １０
２．１－４　「産学連携」に関する活動 １９
２．１－５　広報活動 ２３
２．１－６　各種委員会の開催 ２６
２．１－７　平成２９年度以降の計画 ３０
２．２　地域への貢献 ３４
２．２－１　公開講座 ３４
２．２－２　岡山県生涯学習大学主催講座 ３６
２．２－３　アクティブキャンパス ３８
２．２－４　吉備創生カレッジ ４９
２．２－５　高大連携活動 ５０
２．２－６　糖尿病相談室の活動 ５１
２．２－７　附属図書館の活動 ５２
２．２－８　異文化理解の活動 ５６
２．２－９　健康・スポーツ推進の活動 ５８
２．２－１０　ボランティア活動 ６１
２．３　行政への貢献 ６３
２．３－１　岡山県への貢献 ６３
２．３－２　市町村への貢献 ６４
２．３－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係） ６６
２．３－４　共同研究・受託研究等（行政関係） ６７
２．４　企業等への貢献 ６８

２．５　人材の育成・輩出 ６９
２．５－１　保健福祉学部 ６９
２．５－２　情報工学部 ７６
２．５－３　デザイン学部 ７９
２．６　その他の貢献 ８１
２．６－１　各種委員等への派遣（行政関係以外） ８１
２．６－２　職員表彰 ８２
３　県立大学の各組織での活動 ８５
３．１　地域共同研究機構 ８６
３．１－１　体制 ８６
３．１－２　領域・研究プロジェクト活動 ８７
３．１－３　OPU フォーラム 2016 ..... ８８
３．１－４　情報発信 ９５
３．２　産学官連携推進センター. ９８
３．２－１　企業等と連携した研究活動 ９８
３．２－２　アクティブ・ラボ １００
３．２－３　学外組織との連携・協働活動 １０１
３．３　地域連携推進センター. １０５
３．３－１　地域連携プロジェクト １０５
３．３－２　各種連携活動 １０７
３．４　保健福祉推進センター. １１２
３．４－１　晴れの国鬼ノ城カレッジ １１２
３．４－２　各種研究会活動 １１３
３．４－３　一日保健福祉推進センター １２７
３．４－４　岡山県立大学子育てカレッジ １２８
４　外部資金 １３５
４．１　平成２８年度の実績. １３６
４．２　科学研究費. １３８
４．３　今後の課題. １３８
巻末資料 １３９

１．　本学の社会貢献についての概要

１　本学の社会貢献についての概要

大学の責務は、教育・研究・社会貢献である。社会貢献に関しては学校教育法及び教育基本法の平成１８年・１９年の改正で、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」に加えて、「成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」とされている。本学では、教養教育改革、グローバル化及び地域貢献の３つの運営方針を掲げているが、その内の一つの地域貢献に戦略的に取り組むためには、自治体・産業界等との連携を密にし、地域が抱える課題の解決に向けて地域を志向した教育、研究、社会貢献活動を進める必要がある。折しも平成２７年度の文部科学省の COC+事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（地（知）の拠点 COC+）」に本学が代表校として「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」が採択された。本事業は、おかやま創生に向け、産学官民が一体となってオール岡山（本学を含め 29 機関）で進める人材育成の事業である。教育改革、域学連携及び産学連携による活動を通じて、若者の地域連携教育を実践し、地域の活性化とともに、地域を志向する人材の輩出及びこれら人材の受け皿づくりを行うことで、若者の地元岡山への定着を図るものである。平成 28 年度は事業協働機関との活動拠点として地域創生コモンズを真庭市、総社市、備前市及び笠岡市に設置し、事業活動を展開している。本学は、公立大学の設置の使命からも、地方創生を県レベルで推進するための県の代表校として本事業を本学運営の戦略的地域貢献の中核として位置付け、地域の要望に応じた人材育成を推進している。

本学では、自治体や企業等のニーズに応えることを基本に、課題発見・解決のためのイノベーションにつながる取り組みとして、教員の豊富な研究シーズや知識・技術をベースに、さらに異分野複数教員の共同研究による全国的な競争資金及び学内特別資金を活用した実用化基盤研究「領域・研究プロジェクト」や教員とコーディネータが積極的に地域社会に出かけていく「アクティブ・ラボ（出前研究室）」等を推進している。また、本学独自の県民の健康づくり支援や子

育て支援、超高齢社会における福祉・健康の増進など、地域に根ざした活動で着実に実績を上げている。

本学は、岡山の地（知）の拠点として地域社会とともに成長し、岡山県民の誇りとなる公立大学として、地域を担う人材育成を強く意識し、地域を志向し貢献する所存である。

２．　地（知）の拠点としての活動

２．１　地（知）の拠点大学による

地方創生推進事業（COC+）

２．２　地域への貢献

２．３　行政への貢献

２．４　企業等への貢献

２．５　人材の育成・輩出

２．６　その他の貢献

２．１　地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

２．１－１　事業の概要

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業)」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、平成 27 年度、文部科学省と総務省が取組みを開始した事業である。この COC+事業に対して、本学を代表校とする 29 機関が申請し、選定された「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」(以下、本事業という）は、若者の地元定着率の 10%向上を目的として、教育改革、域学連携及び産学連携により地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行う事業である。教育改革では、岡山創生学を副専攻として新設し、実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図る。また、平成 29 年度に導入するクォーター制も見据えながら長期インターンシップやボランティアに係る科目を開講･実施する。域学連携では、自治体、NPO 等と協働で子育て、高齢者・障害者支援等を実践し、住み易い地域づくりに貢献する。産学連携では、地場産業の支援による産業活性化を推進し、魅力的な雇用創出に努めるとともに、雇用マッチングシステムを開発することで雇用開拓と若者の地域への就業機会を拡大する。そして、協働機関との連携の場として地域創生コモンズを設置し運営する。

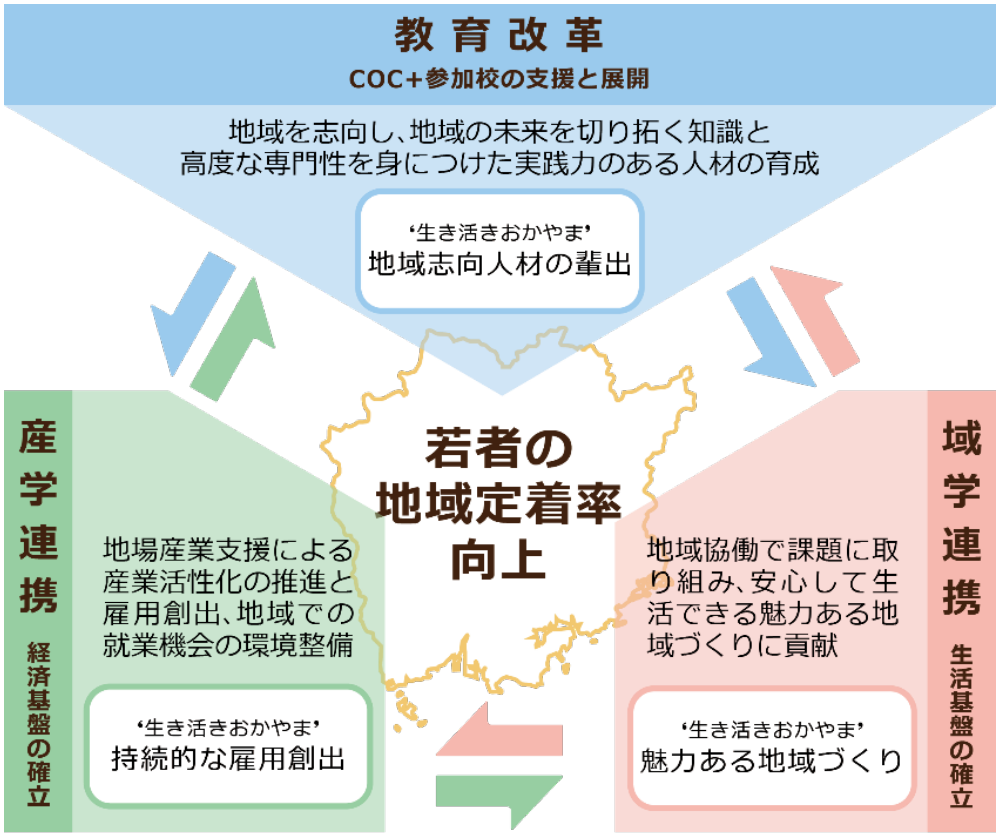


図 2.1.1-1：事業の概要

２．１－２　「教育改革」に関する活動

（１）副専攻「岡山創生学」

本事業における三つの柱の一つである「教育改革」において、「おかやま」を志向する学生を育成するための副専攻「岡山創生学」を創設した。本副専攻では、学生が、学部・学科における専門教育（主専攻）とは異なる分野の知識や考え方を学び、専門教育を補完するだけでなく、社会に対する視野を広げ、柔軟な発想力や応用力を養うことを目的としている。図2.1.2-1に「岡山創生学」における学びのプロセスを示す。まず、地域を知り、体験することから始まり、コミュニケーションと協働を通じた学びを経て、地域の抱える課題の発見およびその解決プロセスを考えることに取り組む。このような学びの流れに沿って構築した段階的なカリキュラムの履修を通して、社会の中での自分の役割を考え、様々な課題に向き合い、解決できる知識や技術を身に付け、社会で活躍するために必要なジェネリックスキル（社会人基礎力）を磨く。最終的には、認定基準を満たす学生に「地域創生推進士」という称号が授与される。

平成28年度には、副専攻「岡山創生学」を開設し、全学部１年次生417名に対して、地域を知る機会の場として「おかやまボランティア論」、「おかやまを学ぶ」の講義科目、さらに地域活動の体験の場としてフィールドワークを行う「おかやまボランティア演習」の演習科目を開講した。

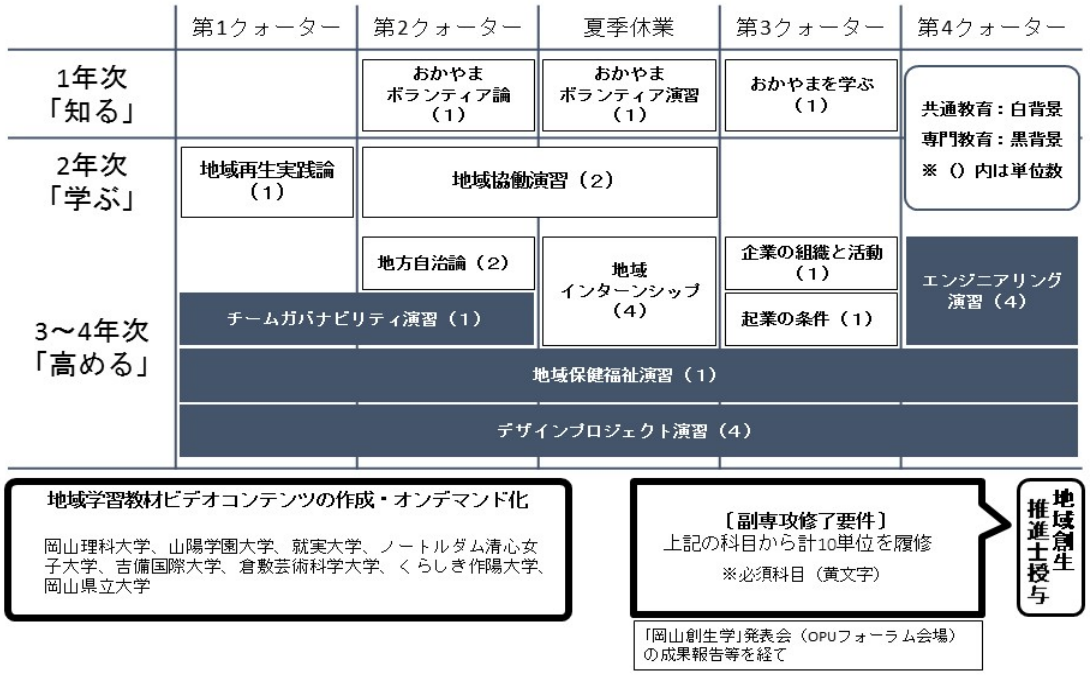


図2.1.2-1：副専攻「岡山創生学」のプログラム

（２）「おかやまボランティア論」

前期開講の「おかやまボランティア論」では、4年後に社会人となる大学生が、市民としての地域活動とは何かを考え､そのきっかけづくりの場となることを目指した。そして、本講義と連動してフィールドワークを行う「おかやまボランティア演習」につなぐため、主にその体験場所となるNPO法人および社会福祉協議会等からゲストスピーカーを招聘し、ボランティア・NPO活動、社会貢献の活動の意義や目的について理解を深め、主体性、創造性、社会性の重要性を自覚することを学びの目的とした。図2.1.2-2に「おかやまボランティア論」の講義担当者と講義風景を示す。

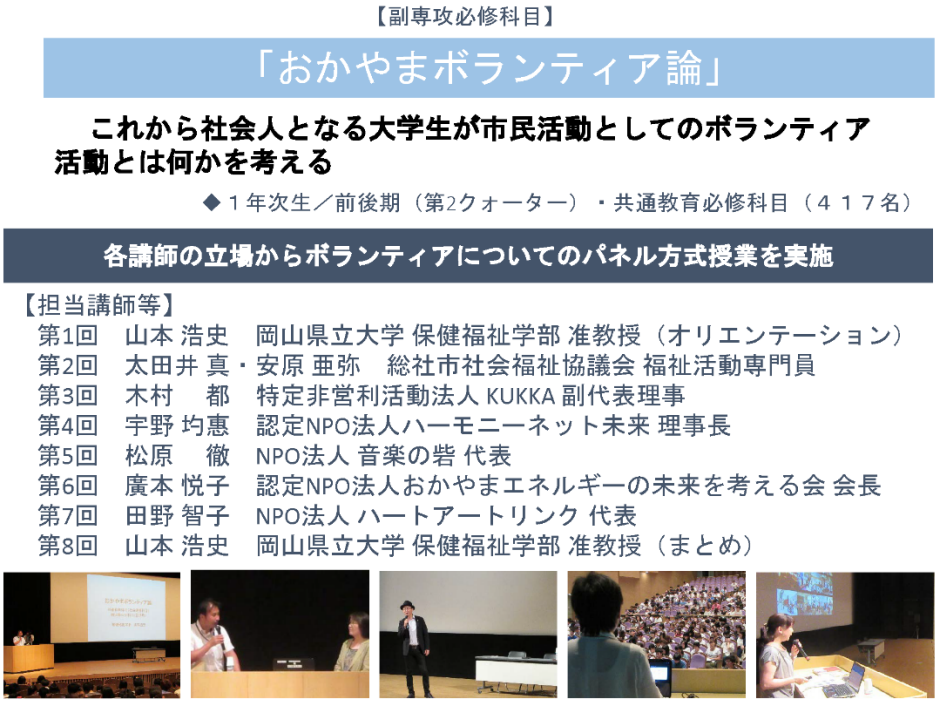


図2.1.2-2：「おかやまボランティア論」の担当者と講義風景

（３）「おかやまボランティア演習」

夏季休業期間を中心に実施した「おかやまボランティア演習」では、(2) の講義科目「おかやまボランティア論」での学習を踏まえ、119名の学生が「おかやま」のフィールドで3日間の実習を行った。第1回の授業では、地域活動に参加するための事前学習として、活動先ごとのグループでの顔合わせや諸注意、活動を通しての目標設定等のグループワークを実施した。その後、8月6日の備前市での活動から、10月2日の真庭市での活動まで、図2.1.2-3に示す受け入れ先で実施した。活動内容は、子どもの活動見守り・遊びの環境づくり・学習支援や、地域イベントの手伝い、自治会活動への参加などである。最終回の授業で実施した事後学習（振り返り学習）では、学生は主体性を持って取り組み､地域活動や社会貢献の意義について実体験を通して理解を深め、地域を理解することができたとの報告があった。現在、履修者の中には、受

け入れ先のNPO法人の取組へ継続して参画する学生もおり、体験的な学びから持続的な地域活動へつながるケースもみられた。

【副専攻必修科目】

「おかやまボランティア演習」

「おかやま」のフィールドで、自らボランティア活動を行うことによりボランティア活動や社会貢献の意義について理解を深める

◆１年次生／夏季休業期間・共通教育選択科目（１１９名）

内容	受入先一覧
◇事前学習 オリエンテーション ◇実習３日間 グループごとの活動 ◇事後学習 グループワーク、振り返り・発表・まとめ	●NPO法人 KUKKA（倉敷市） ●NPO法人 総社商店街筋の古民家を活用する会（総社市） ●認定NPO法人 ハーモニーネット未来（笠岡市） ●NPO法人 岡山NPOセンター（岡山市） ●NPO法人 勝山・町並み委員会（真庭市） ●NPO法人 岡山市子どもセンター（岡山市） ●認定NPO法人 おかやまエネルギーの未来を考える会（岡山市） ●総社市 総社市社会福祉協議会（総社市） ●備前市 片上地区 支え合いの会（備前市） ●笠岡市 社会福祉協議会（笠岡市） ●早島町 社会福祉協議会（都窪郡早島町）

図2.1.2-3：受け入れ先一覧

（４）「おかやまを学ぶ」

後期に開講した「おかやまを学ぶ」では、少子化高齢化に代表される県内課題が地域経済、社会福祉に与える影響を、行政担当者及び本学教員から学び、地域の魅力を知り、地域志向への意識を持つことを目的とした。8回の担当者を図2.1.2-4に示す。

【副専攻必修科目】

「おかやまを学ぶ」

「おかやま」の地域課題が地域経済、社会福祉等に与える影響を学び、地域志向の意識を高める

◆１年次生／後前期（第3クォーター）・共通教育必修科目（４２０名）

地域の課題を学び、地域の魅力を知るための授業を実施

【担当講師等】

第1回　井上 祐介　岡山県立大学 保健福祉学部 助教
第2回　井村 圭壮　岡山県立大学 保健福祉学部 教授
第3回　平石 貴博　総社市 総合政策部 政策調整課 主事、
　　荒木 菜緒　総社市 保健福祉部 健康医療課 主事（卒業生）、
　　小宮山尚久 総社市 総務部 税務課 主事（卒業生）

第4回　臼井 洋輔　備前市立備前焼ミュージアム 館長
第5回　稲田 隆司　真庭市 健康福祉部 部長
第6回　茂見 一壽　笠岡市 政策部 企画政策課 課長補佐、
　　安東 康宏　笠岡市 教育委員会 生涯学習課 主任学芸員
第7回　國友 道一　公益財団法人 特別史跡 旧閑谷学校顕彰保存会 事務局長
第8回　谷口 敏代　岡山県立大学 保健福祉学部 教授（まとめ）

図2.1.2-4：「おかやまを学ぶ」の担当者

（５）アンケート結果

上記3科目の最終回に共通アンケートを実施した。その問いのうち、岡山創生学の初年次での主眼「地域社会には、様々な問題が潜んでいることについて視野を広げることができたか」に関する問いへの回答結果を図2.1.2-5に示す。これによれば、約92%の学生が地域課題に対する知見、視野が広がったと回答しており、岡山創生学の初年度は、成功裏に進んでいることを示している。

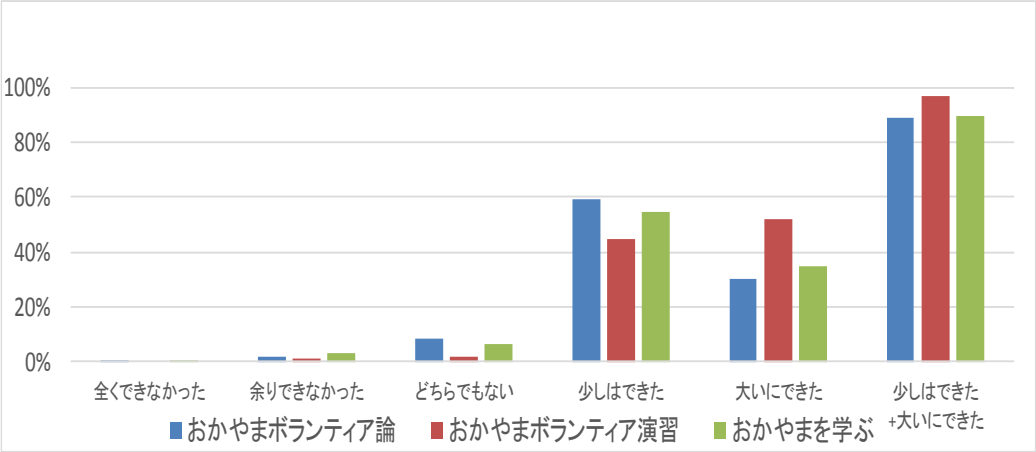


図 2.1.2-5 :「岡山創生学」履修者に対するアンケート結果

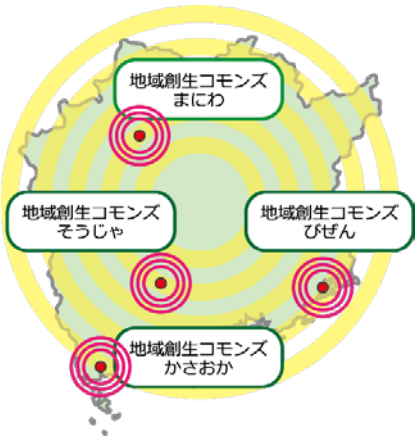
２．１－３　「域学連携」に関する活動

本事業の三つの柱の一つである「域学連携」活動の一環として、学生の地域志向教育の場であり、また、産学官民の地域活動の場である「地域創生コモンズ」を、真庭市、総社市、備前市及び笠岡市に設置した。また、COC+参加大学、自治体、NPO 団体等と連携して、これらのコモンズを中心とした域学連携活動を実施した。

２．１－３－１　地域創生コモンズ

「地域創生コモンズ」は、参加大学や自治体、NPO 法人等の事業協働機関が連携して、活動する拠点となるものである。さらに、地域課題の掘り起こしや解決策に対して、「岡山創生学」の地域実践科目（特に、平成 29 年度に副専攻「岡山創生学」科目として新たに開講される約 10 日間にわたるフィールドワークを伴う演習科目「地域協働演習」）との連携も図りながら学生の参加を促し、地域を志向した教育を推進するための拠点としての機能を持つ。

本事業では、事業協働機関であり、本学と連携協定を締結している総社市、笠岡市、備前市及び真庭市に設置した。協働の場である地域創生コモンズの施設等のハード面の提供は自治体が行い、自治体と NPO 法人等が協力して運営し、日常的に地域の様々なセクターの方々との対話の場としての機能も持つ。



◎地域創生コモンズ まにわ
開所日：平成28年4月25日（月）
所在地：真庭市勝山振興局1階
真庭市勝山53-1
◎地域創生コモンズ そうじゃ
開所日：平成28年10月14日（金）
所在地：総社市清音福祉センター2階
総社市清音軽部1135
担当窓口：総社市総合政策部政策調整課
担当窓口：笠岡市政策部企画政策課
◎地域創生コモンズ びぜん
開所日：平成28年11月9日（水）
所在地：備前市日生地域公民館1階
備前市日生町日生241-87
担当窓口：備前市総合政策部企画課
担当窓口：真庭市勝山振興局地域振興課
◎地域創生コモンズ かさおか
開所日：平成29年3月18日（土）
所在地：笠岡諸島交流センター内
笠岡市笠岡2435-2

地域創生コモンズ まにわ

地域創生コモンズ そうじゃ

地域創生コモンズ びぜん

地域創生コモンズ かさおか

図 2.1.3-1-1：地域創生コモンズの場所と開所式

２．１－３－２　自治体等との協働事業

（１）「地域創生コモンズ まにわ」を中心とした活動

主たるテーマは、まちづくり・まちおこし支援活動の推進であり、平成 28 年度の主な活動実績は以下のとおりである。

①大学合同勝山まちあるきワークショップ（平成 28 年 7 月 24 日）

「地域創生コモンズ まにわ」を活用した「勝山」まちあるきワークショップを実施し、ノートルダム清心女子大学、山陽学園大学、本学の学生及び教職員 22 名が参加した。前半は真庭市勝山振興局の職員、真庭市地域おこし協力隊、真庭市地域アドバイザーから勝山地区でのまちづくりの取組や地域を選択した理由等について説明があり、後半は山陽学園大学の澁谷俊彦教授のアドバイスに基づいて、町並み保存地区のまちあるきを行い、空き家状況・活用事例等を見学し、「地域創生コモンズ まにわ」にて当日の振り返りを行い、参加学生から見た勝山地区の印象等について話し合った。

図 2.1.3-2-1：「勝山」まちあるきワークショップの実施風景

②インターネットによる中継公開講座（平成 28 年 8 月 27 日）

「地域創生コモンズ まにわ」に対して、本学で開講される公開講座をインターネットでの中継配信を実施し、真庭市在住の 8 名が参加した。題目は「地域と世界を繋ぐインターネット」で、岡山県立大学情報工学部の荒井剛助教による講義及び演習を行い、講義では、インターネットを通して活用できる様々なサービスと、インターネット技術や通信技術の基礎との関係について説明があり、演習では、Google 社のサービスを利用した体験を行った。

図 2.1.3-2-2：公開講座のインターネットによる中継配信

③真庭市社地区大祭神輿担ぎへの参加（平成 28 年 10 月 9 日）

協働機関である真庭市からの協力依頼を受け、真庭市社地区の秋の大祭(式内八社)に本学の学生支援団体 PZL の学生 9 名が参加した。また、本学だけでなく、岡山大学、岡山商科大学の学生と一緒に、地域の方々と神輿を担ぎ、交流した。

社地区は式内八社(平安時代中期から記載されている神社)の歴史を後世につなぎ、地域資源を活用していくため、「社地域振興協議会」を立ち上げ、地域での取組を進めている。

図 2.1.3-2-3：真庭市社地区大祭神輿担ぎ

④シネマニワ「映画とまなぶシリーズ 2016」ワークショップへの参加

真庭市勝山の「往来館ひしお」等で開催されたシネマニワ「映画とまなぶシリーズ 2016」ワークショップに本学デザイン学部の学生 7 名（延べ数）が参加した。参加したワークショップでは、実際の録音機材を使用して、町中の音を録音するフィールドワークとして、それぞれ録音した音が、どこの場所で録音された音なのか、周囲音・環境音を意識させる講座を実施した。また、最終講座ではワークショップ参加者による脚本づくりから映画撮影までを 2 日間にわたり実施した。

図 2.1.3-2-4：シネマニワ「映画とまなぶシリーズ 2016」ワークショップ

⑤かつやまゲストハウスプロジェクト（平成 28 年 10 月～）

真庭市勝山の玄関口である新町商店街の空き家を対象に自治体と施主の協力のもと、地元 NPO 法人や工務店との協働事業として実施し、来年度以降も継続する取組である。平成 28 年度は、本学のデザイン学部を中心としたプロジェクトチームが発足し、ミーティングを重ね、改修模型が完成した。

図 2.1.3-2-5：かつやまゲストハウスプロジェクト

（２）「地域創生コモンズ そうじゃ」を中心とした活動

主たるテーマは、子どもの余暇活動、子育て支援・学習支援等の推進であり、平成 28 年度の主な活動実績は以下のとおりである。

①開所記念シンポジウムの開催（平成 28 年 10 月 14 日）

関係者約 40 名が出席し、「地域で育てる未来の子ども～地域における学習支援・体験学習を通じて～」と題し、「子育て王国」を目指す総社市、地域ぐるみで子どもの学習支援や体験学習に取り組んでいる地域の団体及び本学教員から、それぞれの取組が発表され、地域で取り組む子育て支援のあり方を議論した。コーディネータおよびパネリストは以下のとおりである。

図 2.1.3-2-6：開所記念シンポジウム

【コーディネータ】近藤　理恵　岡山県立大学 保健福祉学部 教授
【パ ネ リ ス ト】柳澤　泰洋　総社市 総合政策部 部長
三宅　厚自　NPO 法人きよね夢てらすきよねスポーツくらぶ理事
高山　和成　NPO 法人総社商店街筋の古民家を活用する会　理事
中島久美子　「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会 代表
京林由季子　岡山県立大学 保健福祉学部 准教授

②地域における中高生の学習及び体験活動支援プログラム（4 回／年）

現在総社市が実施している学習支援を受けている、生活保護世帯の中高生と児童扶養手当全額受給世帯の中学生、計 21 名を対象に大学生による学習支援と国際文化のプログラムの参加を通じて、将来に対して夢を持ち、主体的、能動的に生きていく力を培うことを目的に実施した。本学保健福祉学部の学生を中心に留学生及び教職員が参加した。

図 2.1.3-2-7：支援プログラムの実施風景

実施期間：平成 28 年 10 月から平成 29 年 3 月までの間に 4 回（土曜日）
ア）国立民族博物館で、世界の人々の暮らしを知ろう
イ）韓国と中国の人々の暮らしを知ろう
ウ）映画から、世界の人々の暮らしを知ろう
エ）日本の朝食をつくろう

（３）「地域創生コモンズ びぜん」を中心とした活動

主たるテーマは、地域資源を活用した食・アート・ICT による教育支援活動の推進であり、平成 28 年度の主な活動実績は以下のとおりである。

①開所記念シンポジウムの開催（平成 28 年 11 月 9 日）

関係者約 40 名が出席し、「地域で育てる未来の子ども～食・アート・ICT 体験の学びを通して～」と題し、「教育のまち備前」を市の将来像に掲げる備前市及び子どもの学習支援や体験学習に取り組んでいる地域の団体から、それぞれの取組が発表され、地域で取り組む新しい教育のあり方を議論した。コーディネータおよびパ

図 2.1.3-2-8：開所記念シンポジウム

ネリストは以下のとおりである。

【コーディネータ】佐藤洋一郎　岡山県立大学 情報工学部 教授

【パ ネ リ ス ト】湊　　照代　NPO 法人ふれあいサポートちゃてぃず 代表

森　　泰三　岡山県立備前緑陽高等学校 教頭

森下矢須之　財団法人 BIZEN 中南米美術館 理事長 兼 館長

青木　智宏　株式会社ベネッセコーポレーション小中学校事業部 事業推進課放課後プロジェクトリーダー

岡武　俊樹　備前市教育委員会教育部 生涯学習課 課長代理

②備前市における地域連携活動による食育の推進

ア）栄養委員・備前市民を対象とした食育

「備前市栄養教室」において健康講話と調理実習を行った。「魚食のススメ～魚を食べて、頭も体も健康に～」では、栄養学科が行った備前市の魚食の実態調査の結果や魚食のよさについて住民に紹介するとともに地元の野菜と魚をたっぷりとれる魚食のススメメニューの調理実習を実施した。このメニューは備前市広報誌で紹介された。

図 2.1.3-2-9：調理風景

〈主菜〉　　アジのトマト煮

〈副菜〉　　なすとピーマンのマリネ

〈汁物〉　　えび殻だしのお味噌汁

〈デザート〉米粉ブランマンジェ

図 2.1.3-2-10：地元の野菜と魚をたっぷりとれる魚食のススメメニュー

イ）備前市食育推進専門委員会への参加

備前市役所において開催された「備前市食育推進専門委員会」に本学保健福祉学部栄養学科公衆栄養学研究室の学生 4 名が参加した。会議では備前市の健康課題の解決にむけて「魚と野菜の摂取をふやすために」どんな取り組みを進めていけばよいか話し合う場となった。そこでまず前年度学生が実施した備前市の小学生を対象とした魚

食の実態調査の結果を報告して話題提供し、その後、備前市の食育に拘わる団体や行政の関係者の方たちと、学生も一緒になってグループワークによりアプローチ方法を検討した。

図 2.1.3-2-11：備前市食育推進専門委員会

③備前まなび塾+体験教室（ロボットプログラミング）への協働

（平成 28 年 10 月 16 日）

NPO 法人ふれあいサポートちゃてぃずの主催で市内の小学生を対象とした「備前まなび塾+体験教室（ロボットプログラミング）」が開催され、サポートスタッフとして本学ロボット研究サークル「メヒャニカ」の学生 4 名が参加した。前半はタブレットを使ってプログラミングし、市販ロボットを動かす体験を行い、後半は「メヒャニカ」が今夏のレスキューロボットコンテストでレスキュー工学大賞を受賞したロボットのデモ走行および子ども達への操縦体験を実施した。

図 2.1.3-2-12：備前まなび塾+体験教室（ロボットプログラミング）

（４）「地域創生コモンズ かさおか」を中心とした活動

主たるテーマは、笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援活動の推進であり、平成 28 年度の主な活動実績は以下のとおりである。

①笠岡市における健康イベントへの共同開催（2 回／年）

笠岡市民を対象とした糖尿病予防に関する健康イベント「健康まつり in かさおか（平成 28 年 11 月 27 日）」を共催。血糖値測定及び身体機能測定を実施し、本学保健福祉学部看護学科及び情報工学部人間情報工学科の学生、教職員が参加した。

また、笠岡市健康医療課主催の健康イベント（平成 29 年 3 月 5 日実施）に本学学生 5 人と教員 2 人が後援として参加し、歩行機能や血管機能などの身体測定を実施した。

図 2.1.3-2-13：健康イベントの実施風景

②笠岡諸島交流センターオープン記念式典およびイベント

笠岡市笠岡の住吉港に市が整備を進めていた旅客船ターミナル「笠岡諸島交流センター」が完成し、平成 29 年 3 月 18 日に全面オープンした。開館当日は、島での健康づくり等をテーマにしたシンポジウム、トークショーおよび COC+参加大学の学生によるポスターセッション等の他、片山工業株式会社のウォーキングバイシクルの試乗や COC+参加自治体から地域の食ブースが展開された。今後、笠岡諸島の高齢者の健康増進支援などを計画する学生がフィールドワークなどを実施する際に活用する。

図 2.1.3-2-14：開所記念シンポジウム

２．１－４　「産学連携」に関する活動

本事業の三つの柱の一つである「産学連携」活動の一環として、雇用マッチングシステムの開発、長期インターンシップの開発及び産業振興活動を実施した。

２．１－４－１　雇用マッチングシステム

現在の就職活動用システムでは、業種、勤務地、福利厚生等の限られた項目について、学生側の要望のみに基づいて対象企業の検索が行われており、マッチングという観点からは不十分であり、いわゆるミスマッチの一つの要因となっていた。また、地域の中小企業の情報が学生に十分伝わる環境ではなかった。そこで、本事業では、地域定着率の向上を図るために、本事業では、地域の中小企業、事業者のみを対象として、

・企業が求める人材イメージと学生の能力やキャリアとの間のマッチング

・学生が求める企業イメージと企業の理念や環境との間のマッチング

を行い、その結果を学生に提示するといった、学生と地域企業との出会いの場を提供する新たな「雇用マッチングシステム」を開発する。人材イメージとしては、学生の能力やキャリアに関する詳細なデータベースである「学生ポートフォリオ」の諸項目で表現し、企業イメージとしては、中小企業、事業者の詳細な特性、特徴を表すデータベースである「企業ポートレート」の諸項目で表現する。（図 2.1.4-1-1 参照）

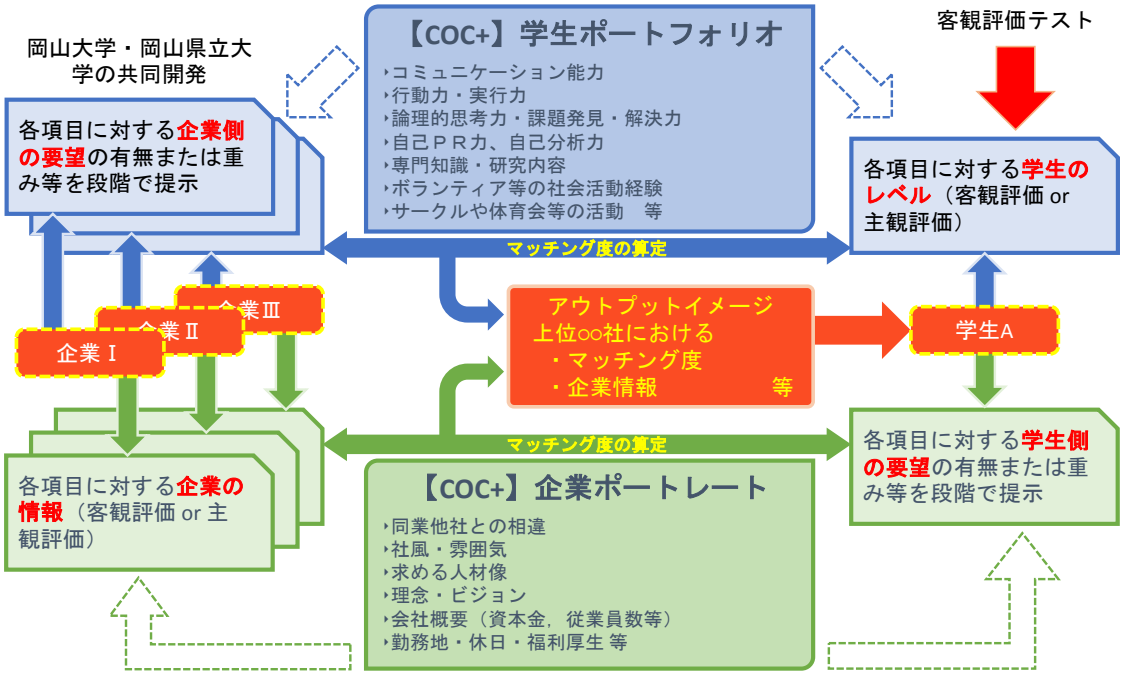


図 2.1.4-1-1：「雇用マッチングシステム」の概要

平成 28 年度においては、「学生ポートフォリオ」及び「企業ポートレート」の項目について、岡山大学、県内経済団体、岡山市等から提供された情報等をベースとして、県内経済団体、SEO 参加企業等を対象としたアンケート調査を実施し、選定作業を進めている。また、「雇用マッチングシステム」自体についても、岡山大学と共同で、平成 29

年度後半での試験運用に向けて、開発を進めた。開発のための仕様の項目は以下の通りである。

① 学生ポートフォリオについて
② 企業ポートレートについて
③ 学生ポートフォリオと企業の要求のマッチング機能
④ 企業ポートレートと学生の要求のマッチング機能
⑤ スマートフォン及びタブレット型端末向けページ作成機能
⑥ デザイン
⑦ アクセスログ管理機能
⑧ 閲覧者制限機能

なお、マッチングの際の評価関数としては、下記を実装したが、平成 29 年度に実施予定の試験運用の結果に基づいて追加・修正する。

・ベクトル空間における方向余弦
・ベクトル残差の RMS 実効値
・バラツキの標準偏差
・学生の要求値以上
・ベクトルの単純差の平均

開発したシステムにおけるマッチング結果の出力形式を図 2.1.4-1-2 に示す。ただし、出力企業数については、指定可能としている。

雇用マッチング

学籍番号：I16A0001
推奨企業の情報は以下の通りです。

評価式：A(1) ベクトル空間における方向余弦

順位	企業コード	企業名
1	C16002	株式会社ABC
2	C16003	株式会社あいうえお
3	C16001	株式会社オープンソース・ワークショップ (企業紹介ページ)
4	C16005	ねこあつめ株式会社
5	C16004	有限会社　あかさた商事

企業への要求と企業ポートレートからの類似性判断

順位	企業コード	企業名
1	C16003	株式会社あいうえお
2	C16001	株式会社オープンソース・ワークショップ (企業紹介ページ)
3	C16002	株式会社ABC
4	C16004	有限会社　あかさた商事

図 2.1.4-1-2：マッチング結果の出力形式

２．１－４－２　長期インターンシップ

オール岡山体制の 29 協働機関が連携し、地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行うことを目的とした取り組みの一つとして、平成 30 年度に長期インターンシップ（地域インターンシップ、エンジニアリング演習）を実施する。「地域インターンシップ」は、3 年次の夏季休業中に共通教育科目として開講し、「エンジニアリング演習」は、3 年次の第 4Q に専門科目として、情報工学部を中心として開講する。長期インターンシップは、1 カ月程度の期間を想定しており、業種や職種選択時におけるミスマッチの回避、社会人基礎力に関する自己レベルの把握等、キャリア教育としての効果の向上を目指している。（図 2.1.4-2-1 参照）

図 2.1.4-2-1：長期インターンシップ

「エンジニアリング演習」に関する受け入れ企業の開拓活動としては、県内経済団体加盟企業、一般社団法人システムエンジニアリング岡山（以下 SEO）加盟企業等を対象とした「エンジニアリング演習」の実施に関するアンケート調査等を実施した。その結果、2 月末現在で 20 社が受入を表明し、インターンシップの内容等についても検討を行った。また、「地域インターンシップ」については、総社市役所において平成 29 年度に試行を実施する予定であり、笠岡市、備前市及び真庭市とも協議を行った。

２．１－４－３　人材育成・産業振興

（１）経営者セミナーの開催

本学デザイン学部と就実大学経営学部が互いの教育資源を活用し、企業の経営力向上と地域創生につながる統合的地域ブランディングを目的とし、平成 28 年 10 月 21 日～平成 29 年 3 月 22 日まで月に１回、真庭市の久世エスパスランドで「地域活性化のための地域中小企業経営者セミナー」を全 6 回開催した。（図 2.1.4-3-1 参照）

図 2.1.4-3-1：経営者セミナーのリーフレットと開催風景

（２）メディカルフィットネス講座の開催

平成 28 年 8 月 22 日に、本学が総社市、片山工業株式会社との間で「健康増進施策推進に関する連携協定」を締結した。この連携活動の一環として、本学情報工学部及び他大学の教員、学生等が協働し、平成 28 年 9 月 10 日～平成 29 年 3 月 4 日まで「健康づくり体験フェスティバル in 県大(県大メディカルフィットネス講座)」を全 10 回開催した。初回、最終回では健康関連指標・身体機能の測定を行い、測定結果は本学で教員から直接フィードバック（一部郵送）を行った。

図 2.1.4-3-2：県大メディカルフィットネス講座の実施風景

（３）ものづくりに関する技術講習会の開催

ミクロものづくり岡山の分野別研究会の一つである解析シミュレーションネットOKAYAMA の画像解析等グループと共催で、「画像解析に関する技術講習会」を開催した。この講習会では、「OpenCV による画像処理入門」と題して、画像処理アプリケーションソフトウェアの開発を体験した。OpenCV(正式名称:Open Source Computer Vision Library)はオープンソースの画像処理用ライブラリで、コンピューターで画像や動画を処理するのに必要な種々の機能が実装されている。BSD ライセンスで配布されていることから学術用途だけでなく商用目的でも利用できるという特徴を持つ。実施概要は下記の通りである。

1. 日　時：平成 29 年 3 月 14 日（火）14 時～17 時
2. 場所等：総社市窪木 111　岡山県立大学（8122 室）
3. スケジュール

14：00～14：05　開会

14：05～14：25　OpenCV の紹介

講師：小枝　正直　氏　（大阪電気通信大学）

14：25～16：45　WinPython と OpenCV を用いた画像処理アプリケーションの制作

講師：山内　仁　氏　（岡山県立大学）

小枝　正直　氏　（大阪電気通信大学）

16：45～17：00　質疑応答

２．１－５　広報活動

（１）おかやま COC+ホームページ開設（平成 28 年 8 月 1 日）

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業の公式サイトを開設した。

トップページ　事業概要ページ　新着情報ページ

図 2.1.5-1：COC+ホームページの概要

（２）おかやま COC+リーフレット

平成 28 年度版として、おかやま COC+リーフレットを作成した。学内および各種団体への事業説明等での資料としても活用した。

図 2.1.5-2：おかやま COC+リーフレット

（３）副専攻「岡山創生学」新入生向けリーフレット（A4 版）

平成 28 年度版として、新入生に向けた副専攻「岡山創生学」の PR のため、リーフレットを作成し、入学式での配布および新入生オリエンテーションで活用した。また、各種団体への事業説明時での資料としても活用した。

図 2.1.5-3：副専攻「岡山創生学」新入生向けリーフレット

（４）副専攻「岡山創生学」高校生向けパンフレット（A5 版）

平成 28 年度版として、入学を希望する高校生に向けた副専攻「岡山創生学」の PR のため、パンフレットを作成し、県内高等学校へ配布した。また、学内および各種団体への事業説明等での資料としても活用した。

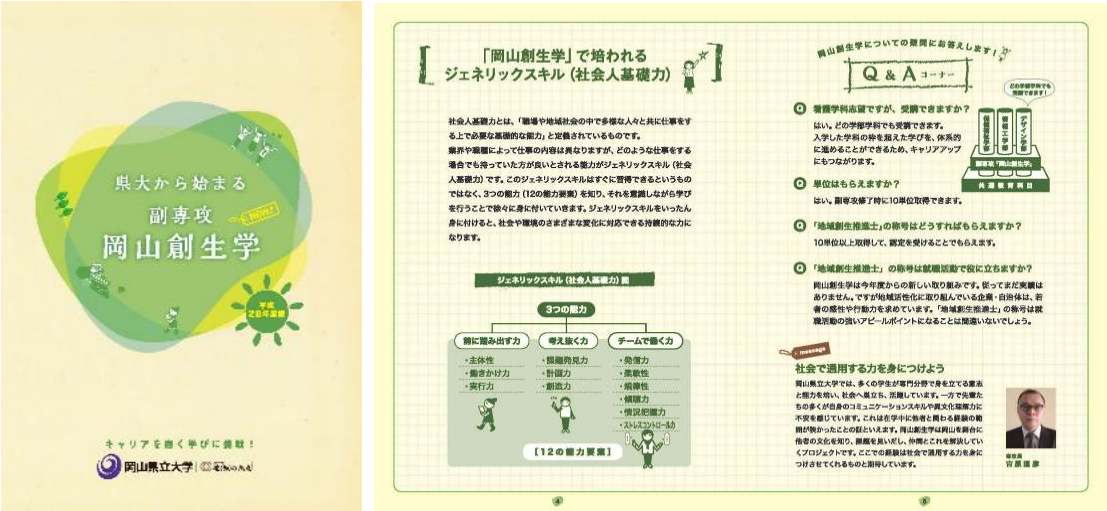


図 2.1.5-4：副専攻「岡山創生学」高校生向けパンフレット

（５）おかやま COC+ 平成 27 年度事業実施報告

地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業の平成 27 年度事業実施報告書を刊行した。

図 2.1.5-5：おかやま COC+ 平成 27 年度事業実施報告書

２．１－６　各種委員会、シンポジウム等の開催

本 COC+事業の協働機関による協議の場として設置したおかやま COC+推進協議会および本 COC+事業で最も重要な活動と位置付けられる「教育改革」に関する協議の場として設置したおかやま COC+教育プログラム開発委員会を開催した。また、本 COC+事業の評価を行う場として設置したおかやま COC+外部評価委員会を開催した。

(1)おかやま COC+推進協議会の開催

□日　時：平成 28 年 5 月 20 日（金）10：00～11：00

□場　所：岡山県立大学 本部棟大会議室

□参加者：

岡山県立大学、岡山理科大学、吉備国際大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、岡山県、岡山市、倉敷市、総社市、備前市、岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、岡山県産業振興財団、中国銀行、トマト銀行、岡山経済研究所、山陽新聞社、岡山 NPO センター

□議事内容

（１）平成 27 年度事業報告（案）及び 平成 27 年度自己評価書（案）について

渡辺機構長から、COC+事業の平成 27 年度事業報告（案）及び平成 27 年度自己評価書（案）について説明があり、ともに原案どおり承認された。また、辻議長から、おかやま COC+推進協議会規程第 4 条により設置されている、おかやま COC+外部評価委員会において、6 月 8 日（水）に評価を受けることが報告された。

（２）平成 27 年度決算（案）について

渡辺機構長から、COC+事業の平成 27 年度決算（案）について説明があり、原案どおり承認された。

（３）平成 28 年度事業計画（案）及び平成 28 年度事業予算（案）について

渡辺機構長から、COC+事業の平成 28 年度事業計画（案）及び平成 28 年度事業予算（案）について説明があり、質疑等が行われた後、原案どおり承認された。

（４）その他

辻議長から、副専攻「岡山創生学」の説明、地域創生コモンズの利用促進及び本事業の推進に向けた協力依頼があった。また、司会者から事業実施報告書に対する意見提出について依頼があった。

（2）おかやま COC+外部評価委員会の開催

□日　時：平成 28 年 6 月 8 日（水）14：00～16：00

□場　所：岡山県立大学 本部棟中会議室

□参加者：

外部評価委員：計５名（◎：委員長、○：副委員長、順不同・敬称略）

◎肥後　功一（島根大学教育学研究科教授）

○青木　信之（広島市立大学理事長・学長）

岩谷可奈子（日本放送協会岡山放送局長）

工代　祐司（香川県審議監）

中田　　晃（一般社団法人公立大学協会事務局長）

岡山県立大学：

辻学長（おかやま COC+推進協議会委員長）

渡辺副学長（おかやま COC+推進協議会副委員長）

徳田事務局長（おかやま COC+推進協議会委員）

佐藤 COC+推進室長（おかやま COC+推進協議会委員）

山北 COC+推進室副室長（おかやま COC+推進協議会委員）

白神 COC+推進室副室長（おかやま COC+推進協議会委員）　他 2 名

□議題等

（１）平成 27 年度 COC+事業の実績評価の点検及びその評価について

□評価結果

外部評価報告書において、「平成２７年度は、事業初年度で、かつ、限られた期間であったものの、本事業で取り組む「教育改革」、「域学連携」及び「産学連携」の平成２８年度からの本格的な実施に向けた準備という観点からは、概ね計画どおりに各取組が実施されたものと評価する。」との報告がなされた。

（3）おかやま COC+シンポジウム 2016 の開催

□日　時：平成 29 年 2 月 28 日(火)14:00～16：45

□場　所：岡山コンベンションセンター　1 階イベントホール

□参加者：181 名（大学等教育機関 36 名、自治体・官公庁 13 名、経済団体･企業 9 名、その他 12 名、本学関係者 107 名、外部講師・パネラー4 名）

□概　要

・開催挨拶　辻　英明（おかやま COC+推進協議会　委員長／岡山県立大学長）

・基調講演

講師：島根大学大学院教育学研究科　教授 肥後　功一氏

題目：「地域と共に育つ人を育てる

～これからの時代が求める人材育成と大学教育～」

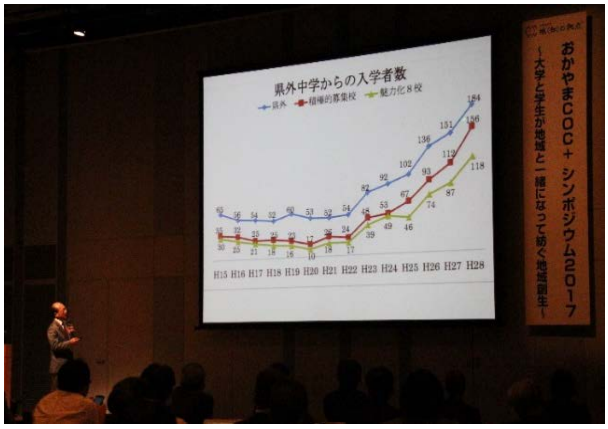


図 2.1.6-1：講師近影および講演風景

・パネルディスカッション　　―未来創生を担う学生の地域連携学修と支援―

岡山県立大学や COC 選定大学の教員や学生が、COC+の取り組みや感想などを紹介。今後の地域連携教育のあり方についての意見をそれぞれ発表した。

○「平成 28 年度の取組概要」

おかやま COC+推進協議会副委員長　　渡辺富夫

○事例発表

・「おかやまボランティア演習の実施報告」

岡山県立大学保健福祉学部　准教授　山本浩史

・「おかやまボランティア演習を履修して」

岡山県立大学　１年　瀬良梓、小林悠理

・「地域における人材育成」

認定 NPO 法人　「ハーモニーネット未来」理事長　宇野 均惠

・「私の成長 -くらしき若衆『小若』認定を受けて - 」

くらしき作陽大学 ２年生　岡本 真実

・「高校での取組について」

岡山県立備前緑陽高等学校教頭　森　泰三

コーディネータ：COC+推進室副室長　山北　次郎

コメンテーター：基調講演講師　　肥後　功一

図 2.1.6-2：パネルディスカッション風景

・閉会挨拶 おかやま COC+推進協議会 副委員長　渡辺富夫

・情報交換会（17:00～18：30）

会　場：Puni（プニ）岡山店

（岡山市北区駅元町 15-1 リットシティビル 2Ｆ）

参加者：28 名（学外 12 名、学内 16 名）

（4）第１回 おかやま COC+教育プログラム開発委員会の開催

□日　時　　平成 28 年 7 月 22 日（金）14:00～15:15

□場　所　　岡山県立大学本部棟大会議室

□出席者　　委員 23 名出席

岡山県立大学、岡山大学、岡山理科大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、岡山県、岡山市、倉敷市、笠岡市、総社市、高梁市、備前市、真庭市、岡山県中小企業団体中央会、岡山県産業振興財団

□議事内容

（１）　平成 28 年度活動計画及び予算について

渡辺機構長から、おかやま COC+推進協議会で承認された平成 28 年度 COC+事業計画及び COC+事業予算並びに文部科学省へ提出した「平成 28 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」について説明があった。

（２）平成 28 年度実施状況について

ア 副専攻「岡山創生学」の実施状況

榊原委員（岡山県立大学）から、副専攻「岡山創生学」平成 28 年度実施状況について、今年度開講の「おかやまボランティア論」「おかやまボランティア演習」「おかやまを学ぶ」の３科目についての概要説明があった。

イ　事業協働機関の活動状況

【雇用マッチングシステム】

佐藤委員（岡山県立大学）から、雇用マッチングシステムの概要について説明があった。

【地域志向授業及び課題解決型演習に関する教材や教育システムの準備状況】

岡山理科大学、就実大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学から、教材開発について報告があった。

【映像コンテンツの配信】

佐藤委員（岡山県立大学）から映像コンテンツの配信の調査状況について報告があった。

【COC 大学の活動紹介】

吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学から報告があった。

（３） 地域連携教育ワーキンググループについて

渡辺機構長から、映像コンテンツ作成や配信に関して、詳細な議論を行うために、参加大学を中心としたワーキンググループを本委員会の下部組織として立ち上げ、年に 1、2 回議論した後に、まとめた内容を第 2 回の本委員会で報告したい旨の提案があり、了承された。

また、雇用マッチングシステムについても今後、同様の組織を立ち上げたいとの報告があった。

２．１－７ 平成29年度以降の計画

２．１－７－１ 平成29年度の計画

［Ａ］教育改革（本学 COC+推進企画委員会、主体は本学内教育改革 WG 及び大学教育開発センター）

①：副専攻「岡山創生学」の内、1 年次生を対象とする「おかやまを学ぶ」「おかやまボランティア論」及び「おかやまボランティア演習」の 3 科目を引き続き開講・実施するとともに、平成 29 年度開講科目「地域再生実践論」及び「地域協働演習」を開講・実施する。

②：副専攻「岡山創生学」の 30 年度開講科目「地域インターンシップ」「エンジニアリング演習」の地域演習科目プログラムの検討を継続するとともに、デザイン学部 3 年次生を対象に開講する「デザインプロジェクト演習」を 30 年度から全学部生を対象とするため、本年度は、デザイン学部以外の希望学生の参加により試験的に実施する。

③：本学内域学連携 WG 及び地域連携推進センターと共に、協働機関である大学、自治体、地域の方々に加え、大学生も参加することを前提に、地域のニーズに基づくワークショップ型地域協働講座の実施・評価を行う。

④：学内組織と共に、クォーター制の実施を通して、本事業の目標に照らし合わせて問題点の抽出を行うとともに、改善策を検討する。

⑤：COC+参加校の岡山大学が 27 年度から開発している「雇用マッチングシステム」について、本学内産学連携 WG 及び産学官連携推進センターも含めて点検し、改良を加えた後、試験運用を実施する。

⑥：副専攻「岡山創生学」で 29 年度に開講する「おかやまを学ぶ」、「おかやまボランティア論」及び「地域再生実践論」を対象にオンデマンド化に向けた準備を行う。

［Ｂ］域学連携（本学 COC+推進企画委員会、主体は本学内域学連携 WG 及び地域連携推進センター）

①：本学内教育改革 WG、本学共通教育部とともに、平成 28 年度までに総社市、笠岡市、備前市及び真庭市の協力を得て整備した地域創生コモンズを活用し、「岡

山創生学」の実践科目の実施及び30年度以降の計画の検討、また、地域ごとの課題解決に向けた域学連携活動を推進する。

②：本学内教育改革WG、本学共通教育部と連携し、「岡山創生学」の地域演習科目である「地域インターンシップ」について、要件の検討、受入れ先の拡充活動等を、28年度に継続して連携自治体と協働で行う。

③：連携自治体（総社市、笠岡市、備前市及び真庭市）と次の域学連携活動を28年度に継続して実施する。

総社市：子どもの余暇活動、子育て支援・学習支援　等

笠岡市：笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援　等

備前市：特産品を用いた食育推進活動　等

真庭市：まちづくり，まちおこし支援活動　等

また、29年度の実績や実施の過程で生じた課題に基づき、事業継続の際の実施内容及び計画の策定を行うとともに、新たな活動の掘り起こしを行い、戦略的な域学連携活動に向けて取り組む。

［Ｃ］産学連携（本学COC+推進企画委員会、主体は本学内産学連携WG及び産学官連携推進センター）

①：本学地域連携推進センター、本学内教育改革WG、自治体及び産業界の協働機関と連携し、受け入れの内諾を得ている岡山県内企業を対象に、「エンジニアリング演習」等の長期インターンシップに係るプログラムの具体的な実施計画を検討するとともに、引き続き受け入れ企業を開拓する。

②：「雇用マッチングシステム」における「学生ポートフォリオ」と「企業ポートレート」の管理機能、マッチング機能及び入出力インタフェース機能の拡充に関する改良を行った後、試験運用を実施し、平成30年度の本格運用に向けたさらなる改良を行う。これと並行して、自治体や産業界の協働機関と連携し、学生へのアンケート結果等に基づいて、「企業ポートレート」の項目の精査を行うとともに、参加企業の拡充を図る。

③：本学情報工学部、岡山県産業振興財団、ミクロものづくり岡山等との協働により、岡山県内の主要な地場産業であるものづくり・ICT分野（デジタルエンジニアリング）の技術力向上に資するシステムの開発を継続するとともに、本学地域連携推進センターと協働自治体の協働により、商品開発やデザインによる観光振興等による地域の魅力発信の仕組みの検討を継続する。また、本学保健福祉学部、岡山県産業振興財団等と連携し、ヘルスケア産業、食品産業等の分野での共同研究を継続して実施する。

［Ｄ］【COC+参加校との計画】

①：平成28年度に引き続き、おかやまCOC+教育プログラム開発委員会や中間成果報告シンポジウム等で、各COC+参加校で実施する地域志向科目に関する報告や

議論を行い、地域志向科目の内容や実施方法に関する課題や解決法に関する知見を共有し、参加校への展開を検討する。さらに、COC+参加校へ展開することを前提として、各 COC+参加校で実施する地域志向型講義と課題解決型演習で用いる地域学習教材や教育システムを開発する。特に、COC 大学については、COC 事業で培った実績・成果を活用し、地域創生に向けて、28 年度に継続して地域学習教材等を開発・制作する。

②：各 COC+参加校でのコンテンツの作成時における知見の提供を受け、副専攻「岡山創生学」の開講科目及び 28 年度に COC+参加校（岡山理科大学、山陽学園大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学）が作成した地域志向型ビデオコンテンツを対象にオンデマンド化に向けた準備を行う。

③：小中高大連携の実績がある COC+参加校の知見を共有し、複数の大学が協働することを想定した小中高大連携活動を実施するための準備を 28 年度に引き続き行う。

④：28 年度に引き続き、「学生ポートフォリオ」システム、「雇用マッチングシステム」を併用した実践型社会連携教育のコーディネートシステムの COC＋向けシステム運用に向けた検討を継続する。

［Ｅ］【事業協働機関の全体計画】

①:本学内 COC＋推進本部会議を平成 28 年度に継続して毎月開催する。これに加え、事業協働機関で構成するおかやま COC＋推進協議会を 2 回開催する。29 年度では、本協議会を 5 月と 2 月に開催し、時期に応じて、年度単位の事業計画、予算・決算、成果等を審議するとともに、本補助事業のすべての情報を共有する。また、おかやま COC+教育プログラム開発委員会は、6 月と 1 月に開催し、本事業の中核となる教育プログラムの立案・実施状況の点検を担当するとともに、教育プログラムに関する情報を共有する。さらに、おかやま COC+外部評価委員会は、5 月に開催し、28 年度実施事務を対象に、本補助事業の成果に関する評価を実施する。

②：本補助事業を推進するために、5 名の COC＋コーディネーター（統括担当、教育担当、域学及び産学担当（3 名））及び 3 名の事務職員（事務、域学及び産学総括担当、補助金等担当、事務担当）の雇用を継続するとともに、地域連携教育担当特任教員 1 名を新たに雇用する。

③：28 年度に整備した本補助事業独自のホームページ等を活用し、業務の進捗状況や成果の発信を継続するとともに、事業報告書やパンフレット等を作成し、事業協働機関をはじめ、事業推進に関わる全ての関係各所への配布を継続する。また、事業協働機関内外の地元報道機関等と協働して、幅広い層への情報発信を継続する。さらに、シンポジウム、ワークショップ等の開催を継続するとともに、中間成果報告書を作成する。

［Ｆ］その他

①：本補助事業の協働地域全体に向けた展開についての協議を継続する。

２．１－７－２　平成30年度以降の計画

平成 30 年度以降には、基本的には、平成 29 年度までの計画の継続である。ただし、平成 30 年度以降は補助金予算額が当初予算額から逓減されることとなっており、これへの対応が重要となる。

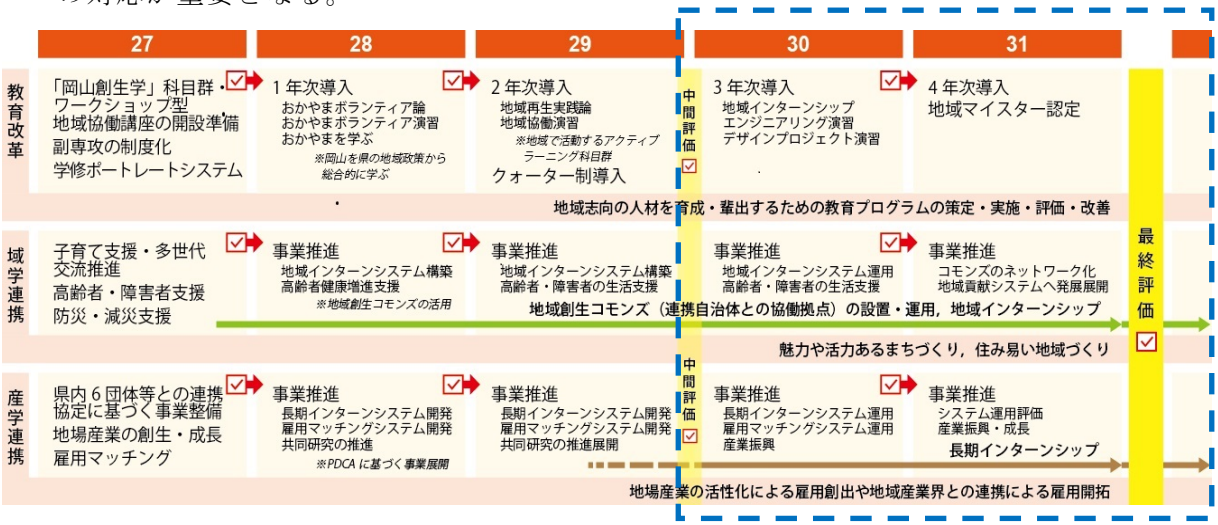


図 2.1.7-1：平成 30 年度以降の計画

２．２　地域への貢献

２．２－１　公開講座

Ａ．概要

本学では毎年、一般県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、情報工学部担当で、そのテーマを「地域を活かす情報技術」とし、8 月から 9 月の土曜日に、5 日間 10 講座を実施した。

Ｂ．日程等

テ ー マ：地域を活かす情報技術
担当学部: 情報工学部
受講対象: 県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人
そ の 他 ：全体の３分の２以上出席の者に修了証書を交付した。

日　程		テーマ	講　師
8 月 27 日（土）	13:30～13:40	開　講　式	学　長　辻　英明
	13:40～15:10	地域と世界を繋ぐインターネット	助　教　荒井　剛
	15:20～16:50		
9 月 3 日（土）	13:30～15:00	計算機に岡山弁をしゃべらせる ～計算機から見た岡山弁の特徴～	教　授　菊井玄一郎
	15:10～16:40	幼児のように言葉と行動を学習するロボット	教　授　岩橋　直人
9 月 10 日（土）	13:30～15:00	地域企業との共同研究 ～実験と解析で機械材料特性を見出す～	准教授　福田　忠生
	15:10～16:40	地域で学び地域で未来を拓く “生き活きおかやま”人材育成	教　授　渡辺　富夫
9 月 17 日（土）	13:30～15:00	日常生活を支える計測技術	教　授　穂苅　真樹
	15:10～16:40	電子楽器テルミンに学ぶ通信の技術	准教授　岸原　充佳
9 月 24 日（土）	13:30～15:00	日常生活の眼・カメラ・画像	助　教　滝本　裕則 准教授　山内　仁
	15:10～16:40		
	16:40～16:50	閉　講　式	学部長補佐　金川　明弘

Ｃ．開催状況

（１）参加者

居住地	人数	比率
総社市	13	38.2%
倉敷市	5	14.7%
岡山市	12	35.3%
その他	4	11.8%
計	34	100.0%

・受　講　者　数：３４名
・修了証交付者数：２１名

年齢	人数	比率
10 歳代	4	11.8%
20 歳代	1	2.9%
30 歳代	2	5.9%
40 歳代	4	11.8%
50 歳代	5	14.7%
60 歳代	12	35.3%
70 歳以上	6	17.6%
計	34	100.0%

○ 開催状況

（２）参加者からの意見・感想

- コンピュータが IoT や AI へと発展している世の中で、「岡山弁をコンピュータでしゃべらせる」「言葉と行動を学習するロボット」あるいは「ぺこっぱ」などが紹介され、岡山県立大学では独自の研究をされていることがよく分かった。
- テーマ・講師が毎回違っており、幅広い知識を得ることができた。
- 産学一体となって取り組みをされており、すばらしく感じた。
- デザインに対する基本的な考え方、方法を教えていただいた。この考え方、見方で物を鑑賞したいと思う。
- 情報工学の分野において多種多様なものがあり、さらに深く知っていきたいと感じた。
- 奥が深く、受講して「もっと知りたい」と消化不良感があったので、入門編＋少し上級編の２回開催してもらえれば良い。

Ｄ．今後に向けて

今回の講座では、「地域」と「情報」を関連付け、各教員の研究内容や地域連携活動の実績を取り入れた講義・演習を実施した。初日には、「地域創生コモンズまにわ」において中継を行い、遠隔地においてもインターネットを介して交流できることを体験いただいた。

毎回の授業後は積極的な質疑応答がなされ、受講者の学習意識の高さが窺えた。一方で、学びを更に深めたいとの意見もあり、今後はテーマを絞ることにより満足度の高い内容を検討することが必要である。

２．２－２　岡山県生涯学習大学主催講座

Ａ．概要

岡山県の特性を活かした学習講座を開設・体系化して学習機会を提供することで、県民の学習意欲を高め、地域における生涯学習の一層の振興を図るために、平成６年に設置されたのが岡山県生涯学習大学である。岡山県立大学は平成２３年度から参加協力を行っており、本年度は「主催講座（現代的課題を学ぶコース）」として参加した。

Ｂ．日程等

テ ー マ：地域とデザイン～ローカルからグローバルまで～

担当学部：デザイン学部

受講対象：県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

日　程		テーマ	講　師
7月2日（土）	13:15～13:30	開　講　式	学　長　辻　　英明
	13:30～14:30	地域のチカラってどんなもの？ ～観光にまつわるデザインから～	准教授　西田　麻希子
	14:40～15:40	産地のやきものとデザイナーの関わり	講　師　作元　朋子
7月9日（土）	13:30～14:30	「つかいやすさ」をデザインする	准教授　益岡　了
	14:40～15:40	間伐材の可能性	准教授　南川　茂樹
7月16日（土）	13:30～14:30	ラテンアメリカデザイン	准教授　真世土マウ
	14:40～15:40	漢字アニメーションを通した日本語学習への興味喚起	講　師　山下　万吉
7月30日（土）	13:30～14:30	災害への備えとデザインの役割	准教授　齋藤　美絵子
	14:40～15:40	簡易な３Ｄプリンタの導入方法と活用事例	准教授　三原　鉄平
8月6日（土）	13:30～14:30	台湾老街（歴史的町並み） ～台湾の地方都市を中心に～	准教授　西川　博美
	14:40～15:40	デザインにおける基礎と縁の下の力持ちについて	教　授　山下　明美
	15:40～15:50	閉　講　式	学部長代理　難波久美子

C. 開催状況

（１）参加者

居住地	人数	比率
岡山市	12	42.9%
倉敷市	4	14.3%
総社市	6	21.4%
その他	6	21.4%
計	28	100.0%

・受　講　者　数：　２８名

・修了証交付者数：　２２名

年齢	人数	比率
10歳代	3	10.7%
20歳代	1	3.6%
30歳代	5	17.9%
40歳代	1	3.6%
50歳代	4	14.3%
60歳代	8	28.5%
70歳以上	6	21.4%
計	28	100.0%

○ 開催状況

（２）参加者からの意見・感想

- 研究の多様さが深く、しかも深く追求されているのに感銘を受けた。
- 作家としての意見とデザイナーとしての意見の両方を聞け、作品を作るという点では同じであっても、考え方は大きく異なる事が分かり、とても面白かった。
- デザイン関係については、今まで聞いたことがなかったが、実践にも役立つ内容でとても有意義だった。
- デザインと流行、マーケティングにも広げた内容があればよい。
- 2 回～3 回となってもよいが、もう少し詳しく学びたい。

Ｄ．今後に向けて

本事業は岡山県生涯学習センターの委託事業であり、本年度で５度目の開催にあたり、環境・自然保護、高齢社会と介護、科学技術、健康づくり等、現代的課題について学ぶことを目的とする「主催講座（現代的課題を学ぶコース）」での開催とした。

平成 28 年度は、デザイン学部が主体となり、各教員の研究テーマを基に多彩な講座を実施した。昨年度と比べて１講座あたりの時間数が減少したが、視聴覚教材を使用した講義は概ね好評であった。次年度以降は、岡山県生涯学習センターの事業見直しのため本講座は廃止するが、今日までに培われたノウハウを活かして、本学独自の公開講座を充実させていく。

２．２－３　アクティブキャンパス

Ａ．概要

アクティブキャンパスは、従来の定置型のサテライトキャンパスに変えて、平成１９年度から移動型の情報発信基地として設けたものである。アクティブキャンパスでは、県内の団体・施設等からの要望に応え、本学として主体的に社会人に向けた公開講座や専門分野に関する研究会の開催等を行う。具体的には、①企業関係者等との交流や共同研究の相談などの産学官連携事業、②本学における最新の研究内容、デザイン作品等に関する情報の発信事業、③社会人を対象とした公開講座等の開催事業、④その他本学の地域貢献活動の推進に必要な事業について、本学の社会活動を審議する機関「社会活動委員会」で事業計画を承認するとともに、必要な支援を行うものである。

Ｂ．開催状況

（１）岡山医療安全研究会

概　要：医療従事者、事務職員、大学教員等を対象として、第 9 回岡山医療安全研究会（テーマ：医療事故調査制度）を開催した。

講師として、北野文将氏（名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部・弁護士）、東宮淳子氏（東海大学医学部付属病院医療監査部医療安全対策課専任医療安全管理者・看護師）、永井裕之氏（患者の視点で医療安全を考える連絡協議会等代表）をお呼びした。北野氏は「医療事故調査制度の概要」、東宮氏は「医療安全管理者として医療事故調査制度に備える―東海大学医学部付属病院での取り組み―」、永井氏は「患者・遺族の立場から医療事故調査制度に提言すること」のテーマで講演を行った後、意見交換をした。いわゆる東京都立広尾病院事件のご遺族である永井氏の講演は、医療安全に込める深い思いの詰まったものであった。

日　時：平成 28 年 9 月 24 日（土）（計 1 回）

場　所：岡山国際交流センター（イベントホール）

参加者：117 名

担　当：保健福祉学部看護学科

教授　沖本克子（代表者）

助教　高林範子、助教　犬飼智子、助教　網野裕子

関西福祉大学看護学部　准教授　鈴木千絵子

（２）ELNEC-J in 岡山県立大学

－超高齢社会における質の高いがん看護・緩和ケアに向けて－

概　要：エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的知識と看護実践能力を高めることを目的とし、アメリカで開発された ELNEC の日本版を ELNEC-J の指導者とともに講義とグループワークで実施した。本カリキュラムは、日本ホスピス緩和ケア協会により緩和ケア病棟、在宅緩和で従事する看護師は受講するよう推奨されている。今年度は、定員 20 名に対し 28 名の受講があり修了者には、認定証が授与された。

回数	日	内容	参加者
第１回	10 月 15 日(土)	「エンド・オブ・ライフにおける看護、倫理、コミュニケーション、喪失・悲嘆・死別、臨死期のケア」の講義と演習	28 名
第２回	10 月 16 日(日)	「文化への配慮、痛み・症状マネジメント、高齢者の問題まとめ」の講義と演習	28 名

場　所：岡山大学医学部保健学科棟

担　当：保健福祉学部看護学科　准教授　名越恵美（代表者）

助教　井上かおり、犬飼智子、助手　山形真由美

（３）若手看護師の就業継続支援

−アロマとハーブを使った若手看護師交流会の開催−

概　要：岡山県内の若手の看護師を対象に、補完代替療法やリラクセーション手法としてのアロマセラピーを主なテーマとした交流会を計 4 回開催した。アロマセラピーを自身のセルフケアに活用することを目的とし、メンタルケアや疲労回復に有用な精油の使い方を紹介したり、クラフトづくりも体験した。患者ケアに有用なアロマセラピーについて学びたいという希望も聞かれたため、今後の活動では科学的知見やケア技術の紹介なども取り入れたい。

回数	日	内容
第1回	7 月 8 日（金）	講義 アロマの基礎知識 実習 好きな香りでバスソルトづくり
第2回	9 月 2 日（金）	講義 アロマの作用メカニズム 実習 口臭撃退！マウスウォッシュづくり
第3回	10 月 21 日（金）	講義 アロマの心理作用 実習 お部屋すっきり香りスプレーづくり
第4回	12 月 2 日（金）	講義 アロマトリートメント 実習 フット&ハンドトリートメント

場　所：レンタルサロンリモーネ
担　当：保健福祉学部看護学科
　　准教授　井上幸子（代表者）
講　師：山懸晶子（アロマセラピスト）
参加者：17 名
参加費：300 円（材料・ハーブティー代）

（４）地域における食育・健康教室の実施

概　要：地域住民を対象に地産地消の推進及び生活習慣病の発症予防を目的に野菜や魚摂取の増加を目指した食育教室及び骨密度測定も含む健康教室を実施した。

<table>
<tr><th>開催日</th><th>場所</th><th colspan="2">内容</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td>5 月 31 日(火)</td><td rowspan="2">岡山市
吉備公民館</td><td rowspan="2">住民主体の健康づくり、特に生活習慣病の発症予防を目的とした健康教室を実施した。</td><td>ロコモティブシンドロームにならないための講話</td><td rowspan="2">岡山市吉備学区栄養改善協議会栄養委員 86 名</td></tr>
<tr><td>7 月 14･15 日
(木･金)</td><td>体組成･骨密度測定、食生活チェックと健康相談</td></tr>
<tr><td>7 月 6 日(水)</td><td>備前市民会館</td><td colspan="2">生活習慣病予防、特に脂質代謝異常症の改善のための講話と、地元の野菜と魚を用いた地産地消の食育講座を実施した。</td><td>備前市栄養委員と一般参加者 25 名</td></tr>
<tr><td>8 月 6 日(土)</td><td rowspan="2">総社市
保健福祉センター</td><td colspan="2" rowspan="2">総社市の食育推進特に地元の野菜や果物をつかい、成長期及び働き盛りの子育て世代での野菜の摂取量を増やす目的で、講話と野菜を使った料理講習会を実施した。</td><td>小学生　25 人</td></tr>
<tr><td>9 月 3 日(土)</td><td>小学生の保護者 20 人</td></tr>
</table>

担　当：保健福祉学部栄養学科教授　久保田恵

（５）地域病院・診療所における外来糖尿病患者に対する集団栄養指導

概　要：地域の病院・診療所の外来患者に対し、糖尿病の食事療法についての集団指導を実施した。

開催日	場所	内容	参加人数
7 月 14 日(木)	河合内科西口クリニック	食事療法についての講義を行った。	7 名
11 月 10 日(木)		間食の付き合い方についての講義を行い、低エネルギーデザートの試食を行った。	5 名
11 月 11 日(金)	長野病院	低エネルギー食事のデザートの考案と食事療法についての講義を行った。	27 名

担　当：保健福祉学部栄養学科准教授　平松智子（代表者）
河合内科西口クリニック院長　河合洋二郎
長野病院医師　八幡愛美、管理栄養士　吉田亜弥子

（６）岡山県子育てネットワーク交流集会

概　要：民官学協働による子育て環境の改善と支援のあり方を考え、活動の視野の広がりや活性化をもたらすことにあわせ、母親に傾斜しがちの子育て支援をジェンダーの視点から見直すため、ジェンダー論の第一人者である東京大学大学院総合文化研究科教授：瀬地山角氏による「子どもを育てるのに男も女もないじゃろう～お笑いジェンダー論」をテーマとし、講演とワークショップを行った。講演では、わかりやすくユーモアを交えた語り口で、様々な最新データをもとにジェンダー不平等を女性の問題だけとせず、男性の生き方や少子高齢社会を乗り越える社会全体の問題として考える必要性や男女共同参画を目指した新しい社会を構築することの意味が語られた。ワークショップでは、多彩な参加者が交流できるグルーピングに配慮し、それぞれが考える男女共同参画による家庭生活と社会のあり方について様々な視点から討議がされた。これからの子育て支援実践や地域活動の方向性について参加者それぞれが見出す成果を得た。

日　時：平成 29 年 1 月 29 日（日）

場　所：岡山県立図書館

参加者：63 名

担　当：保健福祉学部保健福祉学科　准教授　中野菜穂子

（７）ＯＰＵキッズダンスワーク～障がいのある子もない子も一緒にダンス～

概要：障がいをもつ子どもとその家族の余暇活動を芸術的側面から支援し、連携の在り方を探る目的で開催した。ダンス活動を通して、表現することの楽しさを知り、人との交流による豊かなコミュニケーションを体験する。

回数	日	内容
第1回	6月26日（日）	ダンスワーク①
第2回	7月18日(月・祝)	ダンスワーク②
第3回	8月25日（木）	ダンス作品練習
第4回	9月19日（月・祝）	ダンス作品仕上げ
第5回	10月23日（日）	ステージ発表・リハーサル
第6回	10月29日（土）	ステージ発表・本番
第7回	3月11日（土）	実践の振り返りＤＶＤ鑑賞会など

場　所：きよね夢てらす、岡山県立大学講堂・リズムダンス室

参加者：延べ 120 名

担　当：保健福祉学部保健福祉学科　准教授　新山順子

協　力：保健福祉学部保健福祉学科　子ども学専攻３・４年生学生有志
総社おたまじゃくしの会　アイキューブデザイン川口亮　NPO 法人きよね夢てらす

（８）～『ふるさと』を一緒に歌おう～「人と人がつながるコンサート 2016」

概　要：多様な世代・文化の交流による地域への愛着と福祉意識の育成をねらいとし、「人と人がつながるコンサート」を実施した。

1.「人と人がつながるコンサート」の練習

4 月 11 日、5 月 9 日、6 月 6 日、7 月 4 日、8 月 1 日、9 月 26 日、10 月 17 日、11 月 7 日、12 月 5 日、1 月 16 日、2 月 6 日、3 月 6 日（計１２回）

場　所：岡山県立大学

参加者：学生、教員、市民、毎回約 15 名（延べ１８０名）

2.「人と人がつながるコンサート」の練習（精神障害者施設入所者の参加支援）

9 月 10 日、10 月 2 日（計２回）

場　所：たいようの丘多機能事業所

参加者:施設利用者、職員、市民、教員　毎回約３０名　（延べ６０名）

3.「人と人がつながるコンサート」

10 月 29 日（計１回）

場　所:岡山県立大学講堂

参加者:学生、教員、障害者施設利用者、職員、保育園児と保護者 約２００名

１）２）３）の参加者の合計　約４４０名

担　当：保健福祉学部保健福祉学科

教授　坂野純子（代表者）、教授　吉永早苗、准教授　新山順子

（９）自動検証技術コンソーシアム技術情報交換会

概　要：車載コンピュータシステムの自動検証技術に関する情報共有を目的としたコンソーシアムの立ち上げ準備の一環として、参画企業の技術者および関連分野への就職を希望する学生を対象とした、関連技術の紹介やチュートリアルを行った。

日　時：平成 29 年 1 月 16 日（月）　14:10～16:05

場　所：本学

内　容：「自動検証技術コンソーシアムの活動内容について」

講　師：岡山県立大学　有本和民

「企業技術者のサバイバル術」

講　師：株式会社東芝　高島大三郎

「光通信とそれを支える通信用回路技術」

講　師：NTT　三浦直樹

参加者：55 名

担　当：情報システム工学科　教授　有本和民（代表者）　准教授　横川智教

（10）岡山オープンソース技術研究会

概　要：県内のオープンソース技術に興味のある技術者・学生を対象に、地域のオープンソースコミュニティの活性化、ソフトウェア技術者の交流支援を目的とし以下の二つを代表に多くの勉強会イベントを支援・共催した。

日・場所	イベント	内容	参加者
5 月 14 日(土) 本学	オープンセミナー2016@岡山	中四国最大級のオープンソースイベント(2008 年より本学開催，下記写真)	160 名
12 月 17 日(土) 本学	合同勉強会　in　大都会岡山 -2016 Winter-	県内の IT 技術勉強会の合同イベント	80 名

また、オープン CAE 勉強会@岡山と題し近年注目を集めているオープン CAE 技術の勉強会を連続的に開催し、多数の講演・発表を行った。年度内は 4 月 23 日、6 月 18 日、 8 月 27 日、10 月 22 日、2 月 11 日の計 5 回、会場は本学の教室を利用した。

担　当：情報工学部 助教　芝　世弐（代表者）助教　荒井　剛 助教　天嵜　聡介

（11）高品質ソフトウェア開発に関する勉強会～医用システムの高性能化・高信頼化に関する技術動向～

概　要：ソフトウェアシステムの高品質化のための技術動向に関する、理論・実践の両面からの幅広い知識や技術の共有を目指して、医用システムの高性能化・高信頼化に関する研究に従事する専門家による講演を実施した。

日　時：平成 29 年 3 月 27 日（月）　14:00　～　16:00

場　所：本学
内　容：「ハードウェア設計検証へのモデル検査技術の導入」
講師：岡山県立大学　横川智教
「医用システムへの形式的検証の適用」
講師：川崎医療福祉大学医療技術学部　宮崎仁
「医用システムの高性能化手法」
講師：川崎医療福祉大学医療技術学部　近藤真史
参加者：5 名
担　当：情報システム工学科　准教授　横川智教（代表者）　助教　天嵜聡介

（12）地域の健康生活力及び教育力の向上に係る支援活動

概　要：①地域住民組織への出前講演や支援活動、②小・中・高・特別支援学校の児童・生徒（教員、保護者）を対象とした講習会等を通して、地域住民の健康向上および児童・生徒の科学教育・スポーツ活動に貢献するイベント等を実施した。

	開催日・場所	内容	参加者	担当者
1	5 月 22 日（日） 笠岡市六島	笠岡諸島の運動会（笠岡市六島）に参加し、介護予防測定（身体組成，運動機能など）を実施した。（笠岡市ならびに NPO 法人かさおか島づくり海社からの依頼）	笠岡諸島島民 約 60 名	綾部准教授、大山助教、学生 5 名（うち、2 名は大学院生）
2	7 月 28 日（木） 真庭市（地域創生コモンズまにわ）	地域住民の方や職員の方を対象として身体組成、動脈硬化、歩行分析等の身体測定を実施した。	約 30 名	犬飼教授、高戸教授、綾部准教授、齋藤准教授、柳原准教授、学生 9 名

担　当：情報工学部人間情報工学科　教授　佐藤　洋一郎（代表者）
教授　穂苅　真樹（コーディネータ）
准教授　綾部　誠也（コーディネータ）
学科全教員（企画、担当他）

（13）犬島 ESD ワークショップ「いぬじま探検隊 PARTⅢ」

概　要：小学生（3、4 年）を対象とした ESD（持続可能な社会に向け行動する人材の育成）ワークショップ「いぬじま探検隊 PARTⅢ」を岡山市の犬島自然の家で開催した。森下眞行研究室のゼミ生を中心にデザイン学部の 1 年生サークルが初参加し、ワークショップの材料づくりから当日の制作指導まで協力して実施するなど、ワークショップ全体を通じて学生スタッフとの交流も活発に行われた。

日　程：　平成 28 年 8 月 23 日（火）～24 日（水）

場　所：　岡山市立犬島自然の家（岡山県岡山市東区犬島 119-1）

参加者：　12 名（総社市内 11 名、岡山市内 1 名）

スタッフ：学生 11 名（院生 1 名、4 年 2 名、3 年 3 名、1 年 5 名）、教員 1 名

実施内容：ワークショップ①　いぬじまグリーンマップづくり（犬島）

ワークショップ②　空き缶のキャンドルホルダー（自然の家ピロティ）

ワークショップ③　廃材カードゲームで遊ぼう！（自然の家）

ワークショップ④　買い物袋で凧づくり（自然の家）

（14）新しいくらしのかたち

概　要：足守の陣屋町歴史地区における新しい暮らしについて考える取り組みを行った。まず前半期間に、この地区の現状を把握するために、歴史地区に残る民家の実態調査を行った（写真１）。そして町並みがどのように変化していったのかを確認する作業を行った。後半期間には、この調査から明らかになった町並みの現状のデータを元に、これからの陣屋町足守のまちづくりについて、地域住民を交えて意見を出し合うワークショップを実施した（写真２）。なお、この取り組みは、社会福祉法人施設『ももぞの学園』（岡山市）と『無有建築工房』（大阪市）を協力者として実施した。

写真１

写真２

日　時：【前期日程】平成 28 年 6 月 18 日、7 月 2 日、7 月 7 日、7 月 14 日、7 月 22 日
【後期日程】平成 28 年 9 月 27 日、10 月 27 日、11 月 18 日、11 月 23 日
場　所：足守陣屋町まちなみ保存地区
参加者：【前期日程】28 名（うち本学学生 10 名）【後期日程】50 名（うち学生 30 名）
担　当：デザイン学部デザイン工学科　准教授 西川博美（代表者）准教授 津田勢太

（15）学生・市民協働型地域貢献事業「鬼もうち、福もうち」

概 要：鬼をテーマに、鬼も家に迎えよう。
この企画自体を屋根として考え、そのひとつの屋根の下にみんなが集まって、人と人がつながっていく（商店街の人と県大生、鬼と人間）というイメージで、アートによる展示やライブなどを毎年２月の節分の月に開催する。総社に伝わる歴史文化の伝承と、県内外からの学生と地域との交流を大切にした、持続可能なアートによるまちづくりを目的とする。今回の体感型インスタレーション展示（うらしらう）は、この目標を達成することができた。
日　時：平成 29 年 2 月 24 日～26 日　10：00～17：00
場　所：旧堀和平邸　（総社市総社 2 丁目 5-20）
参加者：展示期間中　108 名
担　当：デザイン学部 教授　森下眞行 、准教授　真世土マウ（代表）

（16）　素材体験型ワークショップと研究発表会

概　要：造形デザイン領域の教員 4 名と学部 3 年次生 11 名が、幅広い世代の一般市民に向けて、糸やセラミック等の様々な素材を体験できるワークショップを実施した。同時に展覧会形式による研究発表会を実施し、セラミックやテキスタイルの素材を利用した授業課題作品や産学官連携事業のデザイン成果物等を展示公開した。

日　時：平成 29 年 2 月 7 日から 2 月 12 日（計 6 日間）

場　所：山陽新聞社さん太ギャラリー及び社屋ロビー

参加者：展示期間中　110 名

担　当：デザイン学部造形デザイン学科　助教　樫尾聡美（代表者）、
教授　難波久美子、准教授　島田清徳、准教授　真世土マウ

２．２－４　吉備創生カレッジ

Ａ．概要

岡山県は、全国的にも充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内１５の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成１８年４月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、平成１９年度には「環太平洋大学」が加わり、１６大学となった。さらに、特別会員として４短期大学及び１高等専門学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講したが、同時に、山陽新聞社でも、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。この２つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成１９年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合された。

本学は、中期計画及び年度計画で講師派遣を行うこととしており、本年度は次の６講座を提供した。 開催場所はいずれも吉備創生カレッジ・さん太キャンパス、講義の回数は３日であった。

期	日　時	担当教員	講座名	内　　容
前期	H28.4.20 ～6.29	デザイン学部 教授 福濱　嘉宏	小石川養生所の建築 （歴史講座）	徳川吉宗によって建設された小石川養生所の建築について、最新の研究成果にもとづいて解説を行い、学んでもらう。
	H28.5.20 ～6.24	情報工学部 准教授 徳永　義孝	再生可能エネルギー発電 （社会講座）	温室効果ガス削減などの観点から着目され、展開されてきている再生可能エネルギーの発電技術と電力自由化に関し、現状と課題について学んでもらう。
	H28.6.13 ～6.27	保健福祉学部 准教授 岡﨑　愉加	思春期の性に関する子育て （医療福祉講座）	子どもを取り巻く性の問題は多様化しており、性に関する教育や健康支援は、地域・学校・医療・家庭にとって重要な課題であるが思春期の特徴や性の現状、性に関する最近の話題などについて理解を深めてもらう。
後期	H28.10.3 ～10.24	デザイン学部 准教授 益岡　了	日本の工業デザイン史 （社会講座）	近代デザイン思想は産業の工業化とともに誕生し、日本にも伝わり、我が国の工業デザインは第二次大戦後に大きく発展したが、それらの思想の受容と進展、将来的な可能性について理解を深めてもらう。
	H29.1.17 ～1.31	保健福祉学部 助教 井上　祐介	高齢社会と地域 －日韓比較－ （地域づくり講座）	急速に進む高齢化は日本と韓国に共通する点であるが、日韓の高齢化の現状、医療福祉制度と地域政策、また韓国での生活体験や食文化について解説を行い、学んでもらう。
	H29.2.28 ～3.29	情報工学部 准教授 井上　貴浩	人とロボットの類似点相違点 （科学講座）	人のあらゆる身体運動は滑らかであり自然であるが、日常生活にありふれた動作がロボットでは実現できない。その理由を最新研究を交えながら概説し、学んでもらう。

２．２－５　高大連携活動

高校名	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
和気閑谷	保健福祉	教授	井村　圭壮	総合的な学習の時間	20	3	H28.6.20
倉敷鷲羽	保健福祉	教授	井村　圭壮	福祉・看護・保育系に進む高校生に伝えたいこと	10	3	H28.7.13
邑久	保健福祉	教授	井村　圭壮	社会福祉系学部で学べること	30	1.3	H28.7.20
倉敷古城池	保健福祉	准教授	佐藤　美恵	研究関連の講義	40	2	H28.9.20
倉敷南	保健福祉	教授	川上　貴代	食と健康	57	1.2	H28.10.4
	デザイン	講師	作元　朋子	デザインから見る陶芸の魅力	10		
岡山龍谷	保健福祉	教授	井村　圭壮	福祉・保育・看護・栄養への進学について	40	1.2	H28.10.14
清心女子	保健福祉	教授	伊東　秀之	総合的な学習・物質科学課題研究※	15	2.3	H28.11.22 12.7
玉野光南	情報	教授	佐藤洋一郎	総合的な学習の時間	37	2	H28.11.28

※　講義内容等の※印は連携講座（高校が単位認定を行うことができるもの。）

２．２－６　糖尿病相談室の活動

Ａ．概要

糖尿病相談室は、糖尿病患者および予備軍とその家族を対象とした個別相談と市民を対象とした体操教室、認定看護師のフォローアップ研修、総社市から依頼された子育て相談とがん検診の場での血糖値の測定を実施した。

Ｂ．活動実績

①糖尿病相談室の利用者

今年度は７回開催予定で現在６回の相談が終了し２５名の利用者があった。

＊前年までは月２回程度の１４回相談室を開設していたが、血糖測定などの依頼が５回追加となったために、相談室の開催を７回に減らして実施した。

②体操教室の実施

１０月に太極拳の先生を講師に迎えて実施し、１４名の参加者があった。

③認定看護のフォローアップ研修

３月２６日のフォローアップ研修には本学の修了者および県内で勤務する糖尿病看護認定看護師５３名が参加した。

専門看護師を講師に招き２時間の講義とグループワーク３時間の研修を行った。

④総社市から依頼された血糖測定の実施

・子育て世代の血糖値測定：２回：　２０名

・がん検診後の血糖値測定：３回：１３０名

Ｃ．今後の展望と課題

糖尿病相談の「個別相談」は、一回の利用者は２～３名、年間平均２５～２６名が限界であること、実習や演習の一環としての利用が難しいことから、今後のあり方を検討していく必要がある。

２．２－７　附属図書館の活動

１．地域との連携協力

（１）地域への一般開放

本館は、平成２１年度より教育研究に支障のない範囲で、一般開放を行っている。館内では自由に蔵書の閲覧ができるほか、OPAC専用端末による蔵書検索や所蔵している文献の複写、DVD・ビデオなどの視聴が可能となっている。また、今年度から１８歳未満の方の利用も可能とした。

なお、学外の方が入館するには、申込書への記入及び表１に示す証明書等の提示が必要となっている。更に、利用者カードを申請することにより図書の貸出も可能である。貸出の対象と冊数及び期間は表２に示すとおりである。

表１：利用資格

区　　分		入館に必要なもの
県　内（注1）	１８歳未満の方(注2)	学生証（生徒手帳）又は身分が証明できるもの
	大学関係者(注3)	所属大学の学生証又は身分が証明できるもの
	上記以外の１８歳以上の方	身分が証明できるもの(注4)
県　外	県外の方	

（注 1）県内居住者等とは、岡山県内に居住又は通勤・通学をされている方
（注 2）小学生以下の方がご利用の場合は、保護者の同伴及び申込書への署名が必要
（注 3）岡山県大学図書館協議会加盟校の方
（注 4）運転免許証・保険証等又は公共料金郵便物の住所が記載されているもの（コピー可）

表２：貸出の対象、貸出冊数及び貸出期間

貸出の対象	貸出冊数	貸出期間
(1) 岡山県大学図書館協議会加盟校の教職員・学生	５冊まで(図書のみ)	１４日以内
(2) 本学卒業生など		
(3) 県内に居住または通勤・通学し、許可を受けた方	３冊まで(図書のみ)	

貸出については、本学における教育研究を優先するため、定期試験開始日の２週間前から試験期間終了日までの約１ヶ月間は行わないこと、ならびに、貸出期間内でも返却の依頼をする等の制約を設けている。平成２１年度から利用者カードを発行し、平成２９年３月末現在までの発行枚数は、２，４８０枚、今年度の学外の方への新規利用者カード発行枚数は１６４枚であった。また、表３、表４より、学外者の中でも一般の方が全体の約８割を占め、総社市内のみならず広い地域の方々に利用されているのがわかる。平成２８年度の一般の方への貸出は９０５冊であった。

表３：学外者図書館利用実績（H28.4.1～H29.3.31）

区　　分	延人数（人）	比率（%）
他大学の学生	５３	３．１
他大学の研究者	７	０．４
大学以外の学生	１０	０．６
大学以外の研究者	３	０．２
本学卒業生	１６９	１０．０
上記以外（一般の方）	１，４６３	８５．７
計	１，７０５	１００．０

表４：居住地別のカード交付実績

（H28.4.1～H29.3.31）

区　　分	人数（人）
総社市	４２
岡山市	５８
倉敷市	４１
県内他の市町村	１９
県　外	１
計	１６１

（２）岡山県内図書館との連携

本館は、岡山県立図書館（以下「県立図書館という」が中心となって行っている「岡山県図書館横断検索システム」、「岡山県図書館間相互貸借システム」に参加している。このシステムは岡山県内の公共図書館や加盟している大学図書館の図書資料を一括で検索することができるほか、借りたい資料が近隣の図書館にない場合でも、県立図書館を通して他の図書館から無料で取り寄せることが可能となっている。

平成２８年度にこのシステムを通じて県民へ貸出した冊数は、１０８冊であった。

また、本館は県立図書館の返却窓口及びインターネット予約資料の受渡館にも指定されている。県立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、県立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「岡山県立大学附属図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができる。平成２８年度に返却窓口として利用された本は６７７冊、インターネット予約で受渡館として利用された本は３００冊であった。

（３）国際交流

本学で研修を受けるため、7月８日～７月２７日に来学したメキシコのモンテレイ工科大学プエブラ校の学生１３名及び引率教員１名が、図書館の見学を行った。学生たちは、研修期間中に図書の閲覧や調べ物をするなど、館内を有効に活用していた。

（４）高校生のための大学授業開放に伴う臨時開館

８月２０日に行われた「高校生のための大学授業開放」では、臨時開館を行い高校生及び保護者の方５５名が館内を見学した。来館した高校生は、専門書の多さに驚きながら、入学してもっと勉強したいと意欲を語っていた。

（５）大学見学に伴う館内案内の実施

総社東小学校の児童１０名と引率者２名、倉敷工業高等学校ファッション技術科1年生の生徒４０名がそれぞれ授業の一環として大学の施設見学に来学した際、館内の案内を行った。生徒たちは電動書架を動かしてみたり、興味のある本を閲覧したりと館内を興味深く見学していた。

児童から質問を受けている様子
（総社東小学校）

興味のある本を閲覧している様子
（倉敷工業高等学校）

（６）大学祭に伴う臨時開館及びリユース市の開催

大学祭初日に開館し、一般の参加者も館内を自由に見学した。当日はギャラリーとしての利用申込みもあり、ビブリオバトルの開催やデザイン学部の作品展示なども行われ、７２２名の参加者がイベントや展示を楽しんだ。

また、同時にリユース市（図書館所蔵図書のうち、重複や改版等により除籍とした図書を有効活用することを目的とし、低価格にて販売）を開催した。一日限定ではあったが１２１名の参加者が来場した。

ビブリオバトルの様子

ギャラリー展示の様子

リユース市会場の様子

（７）中学生の職場体験

職場体験学習の場として総社市内の中学生１名を受け入れた。館内の利用方法や蔵書検索の仕方、貸出・返却時の応対などの指導を行った後、実際にカウンターで貸出・返却業務、配架作業、汚損した本の修復作業などを体験してもらった。学生からは「書架整理でブックカバーが外れている本を見つけれたことが一番印象に残っています。とても楽しい３日間でした。この経験が将来に生かせたらいいなと思っています。」というお礼の手紙をいただいた。

本の貸出手続きをしている様子

返却図書の配架をしている様子

（８）障害福祉サービス事業所利用者の職場体験

職場体験学習の場として岡山市内の就労移行支援センターの利用者１名を受け入れた。館内の利用方法や蔵書検索の仕方、貸出・返却時の応対などの指導を行った後、実際にカウンターで貸出・返却業務、配架作業、汚損した本の修復作業などを体験してもらった。図書館や書店での就労を目指しているだけあって、積極的に質問をし、熱心に業務に取り組んでいた。

業務内容の説明を行う様子

２．２－８　異文化理解の活動

語学教育推進室では、学内の語学教育の責任を担いつつ、同時に地域に開かれた組織を目指し、国際社会を生き抜くために必要とされる語学力や異文化理解を促す事業を企画、地域の方々にも広く公開し、参加を呼びかけている。

（１）映画上映会（国際交流センターとの共催）

語学力の向上や異文化理解のために外国語映画の上映会を開催した。本年度は、英語音声映画（日本語字幕付き）を 4 本、韓国語映画（日本語字幕付き）を 1 本、上映した。内訳は以下のとおりである。上映は水曜日および木曜日の午後であり、場所は国際交流センターで行われた。

表．映画上映の内訳

日時	タイトル	上映時間	参加人数
5 月 26 日（木）	サウンド・オブ・ミュージック	174 分	46
6 月 30 日（木）	プラダを着た悪魔	120 分	41
10 月 13 日（木）	スラムドッグ＆ミリオネア	120 分	6
11 月 17 日（木）	カンナさん大成功です	120 分	16
12 月 21 日（水）	チャーリーとチョコレート工場	120 分	7

（２）スピーカーズ・コーナー

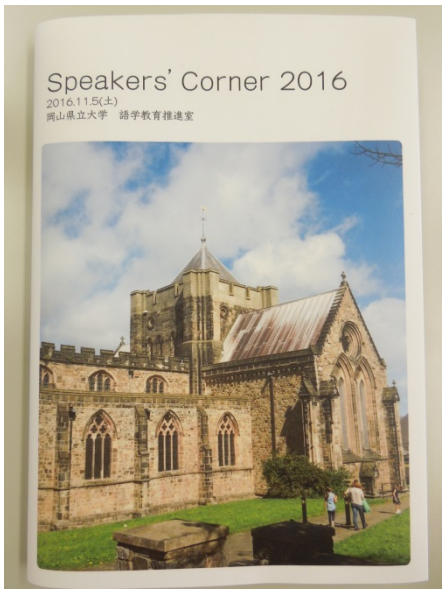
スピーカーズ・コーナーは、コンテストという競争形式ではなく、学生の自由な発想のもとに外国語でのスピーチをすることができるイベントである。学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋の大学祭 1 日目に行われる恒例行事となっている。本年度は、11 月 5 日（土）に学部共通棟（東）8903 において開催された。出場者は、英語のみならず、韓国語の出場者も含まれた。参加者は、発表者 14 名を含め 66 名となった。以下、出場者の所属と演題を示す。

表．発表の内訳

発表者	演題
デザイン学部造形デザイン学科 1 年	The Great East Japan Earthquake（英語）
保健福祉学部看護学科 3 年	韓国で過ごした日々を振りかえって（韓国語）
デザイン学部デザイン工学科 1 年	I Love Cats（英語）
保健福祉学部看護学科 3 年	初めての韓国で（韓国語）
保健福祉学部看護学科 4 年 保健福祉学部看護学科 4 年	Trivia of Star Wars（英語）
情報工学部情報通信工学科 1 年	異文化理解（韓国語）

情報系工学研究科２年	Studying English in Australia（英語）
情報工学部情報通信工学科１年	日本と韓国の世界遺産（韓国語）
デザイン学部デザイン工学科１年 デザイン学部デザイン工学科１年 情報工学部人間情報工学科２年 情報工学部スポーツシステム工学科３年 情報工学部スポーツシステム工学科３年	バンガー大学語学文化研修報告（英語） Host Family, School Life, Food, Sightseeing, & Cultural Differences

なお、各出場者（チーム）に対して２ページを割いたフォトブックを作成し、広報に役だてた。



（３）海外研修等

語学教育推進では、学生の異文化理解を進めるために海外研修にも携わっている。本年度４月 28 日（木）３限より、学部共通棟（南）大教室 8206 において 27 年度の海外研修等の発表が行われた。

平成 27 年度は、ウェールズ・バンガー大学（夏）、豪州・アデレード大学（春）、韓国・梨花女子大学（春）に語学教育推進室の教員の引率のもと、語学研修が行われ、その報告がなされた。

平成 28 年度は、ウェールズ・バンガー大学（夏）に５名参加、韓国・梨花女子大学（夏）に１名参加、豪州・アデレード大学（春）に 15 名参加した。いずれの研修に関しても、国際交流センターの協力のもとで、語学教育推進室の教員が事前・事後指導と引率を行った。

２．２－９　健康・スポーツ推進の活動

（１）概要

岡山県立大学健康・スポーツ教育推進室は、スポーツを通じて学生・教職員の親睦と健康維持ならびに大学スポーツ施設の有効利用を目指して平成 27 年度に開設された。

大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、スポーツを通じて学生・教職員の親睦と健康維持を目指し、さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康・スポーツの面から地域に貢献することを目指している。

（２）管理体制の実質化

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な「スポーツ施設管理者主任」を２名置いている。

屋内スポーツ施設管理主任（体育館・プール）

屋外スポーツ施設管理主任（陸上競技場・野球場・グラウンド(サッカー場)・テニスコート）

スポーツ施設管理主任の所掌事項は主に以下の３点である。

①施設・用具の点検と要望の把握

②施設・用具の補修補充に関する協議・実行・報告

③施設・用具の安全使用と整理整頓等の啓発

（３）施設・設備の充実

スポーツ施設の地域開放をにらみ、野球場の表土の補充、陸上競技場フィールド内の芝の養生を行った。学外者も安全に施設を利用できるよう、老朽化して使用者に危険が及ぶ可能性がある設備について調査、適切な処分を行った。

（４）公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項

平成 21 年 10 月より実施してきた本学の体育施設の地域開放の対象を、岡山県内に住所及び勤務する者を主な構成員(1/2 以上)とする団体へと拡大している。

（５）大会・行事

① 地域貢献スポーツ大会

ア　岡山県立大学杯第４回少年少女サッカー大会

平成 28 年 12 月 17 日（日）、陸上競技場・サッカー場、参加人数：500 名超

イ　岡山県立大学学長杯第 23 回グラウンド・ゴルフ交歓大会

平成 28 年 12 月 2 日（金）、陸上競技場・サッカー場、参加人数：約 160 名

少年少女サッカー大会の様子

グラウンド・ゴルフ交歓大会の様子

（６）今後の展望と課題

公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項が施行され、地域へのスポーツ施設の貸し出しが行われて８年目であるが、小学生・中学生を中心に増加してきた利用数は横ばい傾向にある。今後は、県大メディカルフィットネス講座等の事業を通じて、幅広い世代が本学の体育施設を活用できるよう整備することも必要と思われる。一方で施設の老朽化も進んでいるため、安全で快適に利用していただけるバリアフリー対策の再検討も含め、補修・管理をしていく予定である。

（７）関連資料

体育施設の地域開放について（公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項）平成21年11月1日から貸付対象施設の貸し出しを開始した。

①　貸付対象施設および本年度貸付実績

野球場　　22件

グラウンド（サッカー場）　2件

②　貸付対象者

１）岡山県内に住所を有する者及び岡山県内に勤務する者を主な構成員（1/2以上）とする団体

２）その他理事長が特に使用を認めた者

③　利用可能時間帯

１）時期　　通年（12月29日から翌年1月3日を除く）

２）時間　　9:00～日没まで（19：00を限度）

④　予約申込

受付は、平日9:00～17:00まで、事務局総務課窓口

⑤　受付期間

希望日の前月の1日から15日の間

⑥　貸付許可

理事長は、健康・スポーツ教育推進室長の意見を聞いて適当と認められるとき許可する。なお、施設使用の公平を図るため必要があるときは、同一申請者が施設を使用する回数又は時間を制限する場合がある。

⑦　利用料金

施設名	金額（1時間当たり）	
野球場	一般	2,000円
	高校生以下	500円
グラウンド（サッカー場）	一般	2,000円
	高校生以下	500円

⑧　貸付条件

１）施設使用に当たっては、本学の諸規程や指示に従うとともに、使用開始時及び使用終了時に体育施設管理人に報告し、確認を受けること。

２）施設の使用中に生じた事故及び損害について、借受人がその一切の責任を負うこと。

⑨　問い合わせ先

岡山県立大学事務局総務課　℡：0866－94－2111（代）

２．２－１０　ボランティア活動

（１）地域ボランティア

大学へ寄せられた県内の市町村や社会福祉法人などからの学生ボランティアの募集について、学生の自主的活動団体ＰＺＬに情報提供したほか、学内掲示板への掲示による告知や関係する部・サークルへの連絡調整を行った。

（２）東日本大震災復興支援ボランティア

平成２３年度から始まった東日本大震災復興支援ボランティアでは、大学コンソーシアム岡山を通じて毎年数名の学生がボランティア活動に参加できることになっていたが、参加大学で派遣人数の割り当てがあるため、希望者全員が参加することはできなかった。

このため、平成２７年度からボランティアに関する連携協定（本学とＡＭＤＡ、総社市の３者協定）により、本学独自に東日本大震災復興支援に学生ボランティアを派遣することとし、２８年度は学生８人と教職員１人が同行した。

第２回目の今回は８月１９日(金)から２３日(火)まで（往き帰りの２日はバス車中泊）の５日間の日程で実施した。

８月１９日(金)
　午後　岡山県立大学　出発
８月２０日(土)
　午前　宮城県南三陸町　到着
　　語り部ガイドによる町内視察（防災対策庁舎、旧戸倉中学校など）
　　昼食後気仙沼に移動
　午後　気仙沼復興商店街にて講話（復興商店街の現状と今後について）
　　復興商店街のイベント手伝い
　夜　　紫会館（被災当時は避難所として使用）で仮設住宅集会所での交流会出しもの練習
８月２１日(日)
　午前　リアスアーク美術館で学芸員による講話(被災直後の写真、被災物の展示見学)
　午後　岩手県陸前高田市「奇跡の一本松」見学
　　岩手県大槌町　到着
　　町内視察（旧大槌町役場、ひょうたん島）
　夜　　大槌町で様々な支援を行っている３組織からの活動紹介
　　仮設住宅集会所での交流会出しもの練習

８月２２日(月)

午前　大槌町視察（城山公園にて）

大槌町吉里吉里地区仮設住宅集会所にて住民の方と交流会

学生全員によるダンス披露、お茶会

午後　現地出発

８月２３日(火)

午前　岡山県立大学　到着

実施後のアンケートによれば、学生たちは被災地の実情を自分の目で確かめたいという動機で参加していた。被災地は復興に向け一歩一歩進んではいるが、若い人たちの減少やインフラの遅れなど多くの課題を抱えていることを再認識したとの声が多かった。

今回は住民の方とのふれあいや交流の時間が多くあり、その中で出会った人々からいろいろなことを感じ学んでいることが伺えた。参加した学生は、今後もボランティア活動を続けたいという人が多く、大学に機会の提供をしてほしいという要望もあった。

また、今回の活動内容は、ポスター形式にして学生会館２階に展示し、貴重な経験を他の学生に伝えることができた。

２．３　行政への貢献

２．３－１　岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。

本学は保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から構成されているが、以下のような委員の応嘱状況である。

	岡山県	岡山県 教育委員会	岡山県 教育庁	合計
保健福祉学部	１４	0	1	１５
情報工学部	7	0	0	7
デザイン学部	5	1	0	6
合計	２６	1	1	２８

保健福祉学部では、介護保険審査会、社会福祉審議会、子ども・子育て会議、健康おかやま２１推進会議、食の安全･食育推進協議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、都市計画審議会、芸術文化賞選考委員会などに貢献している。

情報工学部では、高度情報化推進協議会、工業技術センター外部評価委員会などに貢献している。

デザイン学部では、都市計画審議会、屋外広告物審議会、文化財保護審査会などの他に、土地開発審査会、環境影響評価技術審査会、おかやまＵＤシニアアドバイザー会議などにも貢献している。

また、共同研究・受託研究等の詳細は６７頁を参照されたい。デザイン学部では学部の特色を活かし、受託研究としてポスターやグッズ等のデザイン、動画やウェブサイトの作成等を行っている。

その他にも本学として、岡山県生涯学習センターの委託を受け、「岡山県生涯学習大学主催講座」を開催している。詳細は３６頁を参照されたい。

２．３－２　市町村への貢献

県内市町村及び県外への委員の応嘱状況は以下のようになっている。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
国	0	3	0	3
総社市	16	1	4	21
岡山市	3	1	1	5
倉敷市	1	0	3	4
津山市	1	0	0	1
真庭市	1	0	0	1
新庄村	0	0	1	1
笠岡市	1	0	0	1
備前市	1	1	1	3
美作市	2	0	0	2
美咲町	0	0	1	1
浅口市	2	0	1	3
早島町	1	0	0	1
鳥取県	0	1	0	1
奈良県三郷町	1	0	0	1
三重県亀山市	0	0	1	1
滋賀県大津市	1	0	0	1
滋賀県守山市	1	0	0	1
合計	32	7	13	52

活動の内容は、保健福祉学部の応嘱が圧倒的に多く、内容的には地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。

なお、総社市との間では、平成 20 年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポート受ける相互支援体制を形成している。

（総社市との主な連携事業）

［連携活動において地域に貢献したもの］

①　共同研究等の実施

【共同研究・受託研究等実績（行政関係）67 頁を参照】

②　市民向けＰＲ事業

ア　「夏休み県大探検」【8 月 10 日（水）ＡＭ、３学部対応】

・参加者　　72 名（市内小学生 46 名と保護者 26 名）

・テーマ　　「食べ物の色の変化を観察しよう！」
「不思議なカメラを使って遊ぼう！」
「うなずきロボットの動く仕組みをさぐろう！」
「瞳の大きさで興味がわかる？！」
「県大『おっ！』体験」

イ　「夏休み工作教室」【8 月 19 日（金）ＰＭ、デザイン学部対応】

・参加者　　35 名（小学生高学年 16 名と保護者 19 名）

・内　容　　「県大はんが工房」
～お気に入りの写真をもとに
ドライポイント版画を制作しよう～

③　県大そうじゃ子育てカレッジ

【保健福祉推進センター実績（128 頁）を参照】

④　総社市防災訓練【11 月 20 日（日）】

・会　場　　総社市立総社北小学校

・概　要　　岡山県立大学消防応援隊 2 名が参加者の体験訓練をサポート

［連携活動において支援を受けたもの］

①　共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【5 月 18 日(水)】

「人間力」（講師：片岡市長）　※ 新入生約 400 名を対象

②　インターンシップの実施【8 月 1 日(月)～9 月 9 日(金)】

2～4 年生が参加、インターンシップ報告会では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ提言を行った。

③　台湾雲林科技大学等の日本語・日本文化生活体験研修

【7 月 20 日(水)～28 日(木)】

本学が語学研修生を受入れ実施

（台湾雲林科技大学 7 名・台湾淡江大学 5 名・中国河南科技大学 1 名）

総社市は市内観光、総社市民との交流やホームステイの実施等で支援

④　ハサヌディン大学民族舞踊グループ受入【11 月 2 日(水)～9 日(水)】

インドネシアハサヌディン大学から約 20 名の学生を受入れ実施

２．３－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係）

本学における平成２８年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　　分	国・独立 行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	０	１５	３２	４７
情報工学部	３	８	３	１４
デザイン学部	０	６	１３	１９
合　　計	３	２９	４８	８０

本学における平成２８年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　　分	国・独立 行政法人	県	市町村	その他	計
保健福祉学部	０	７	１４	０	２１
情報工学部	０	０	４	０	４
デザイン学部	０	５	４	０	９
合　　計	０	１２	２２	０	３４

（注）詳細は巻末資料を参照

２．３－４　共同研究・受託研究等（行政関係）

Ａ．　共同研究

相手方	題目	研究代表者
総社市	ご当地たいそうの作成及びその普及	情報工学部 綾部誠也准教授
総社市	総社市防災情報総合ウェブサイト「家族だそうじゃ！みんなで減災・みんなのために！」のデジタル版ハザードマップ部分の多言語化（日本語・英語・ポルトガル語・中国語）	デザイン学部 齋藤美絵子准教授
総社市	総社市のユニフォームデザインの作成	デザイン学部 野宮謙吾教授
総社市	高齢者等見守り支援ステッカーのデザイン制作	デザイン学部 野宮謙吾教授

Ｂ．　受託研究

相手方	題目	研究代表者
岡山県 （農政企画課）	平成 28 年度県産農林水産物の機能性調査事業	保健福祉学部 伊東秀之教授
岡山県 （産業振興課）	平成 28 年度特別電源所在県科学技術振興事業 「健常高齢者の歩行支援を目的とした杖型ガイドロボットの開発」	情報工学部 井上貴浩准教授
岡山県 （産業振興課）	平成 28 年度特別電源所在県科学技術振興事業 「超音波ニードルパンチ処理による CFRTP の層間衝撃特性および CAI 強度の向上」	情報工学部 小武内清貴助教
岡山県 （公聴広報課）	戦略的な情報発信に係る共同研究事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授

Ｃ．　その他の外部資金

相手方	題目	研究代表者
中国経済産業局	極短パルスレーザーとメッキによるパワー半導体ガラス基板のマスクレス配線工法開発	情報工学部 尾崎公一教授
	3 次元 LSI ウェハ薄化を実現する革新的接合工法の開発	

２．４　企業等への貢献

この章では２．３で述べた自治体以外の共同研究、受託研究等について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の４つに分類できる。学部別の件数は以下のようになっている。金額については第５章を参照されたい。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
共同研究	１３	１９	１２	４４
受託研究	１	１０	３	１４
教育研究奨励寄附金	１３	２７	７	４７
その他	０	０	０	０
合計	２７	５６	２２	１０５

２．５　人材の育成・輩出

２．５－１　保健福祉学部

Ａ．看護学科

昭和 22 年から平成 15 年の間に、保健婦規則による保健婦及び養護訓導の養成では 169 名、岡山県保健婦専門学院・岡山県公衆衛生看護学校における保健師・養護教諭一種の養成では 2,348 名を輩出している。

昭和 37 年の岡山県立高等看護学校開校から平成 27 年までの 52 年間でおよそ 2250 名の卒業生を送り出し、概ね 1,470 名は岡山県内の看護職者として巣立ち、看護実践および教育・研究、行政等の第一線で活躍している。また、平成 5 年の岡山県立大学保健福祉学部看護学科開設時より学部教育の選択制として助産師教育を実施しており、4 年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。平成 27 年までに助産師課程の修了者 76 名の大半は、岡山県内の医療施設等に就職している。

なお、保健師教育は法改正（修業年限延長）を機に、平成 25 年度から大学院前期課程で行っており、全国では 2 番目の開設である。

本学の卒業生は、地域を見守る看護専門職者として、住民の健康増進及び健康回復に貢献している。

（１）過去 5 年間の進路状況

就職および進学希望者の内定率は 100％である。国家試験合格率は、表 2.5-1 のように、看護師・保健師・助産師のいずれにおいても、5 年連続で全国平均を上回っている。就職および進学希望者の内定率とその県内外の割合は図 2.5-2、図 2.5-3 の通りである。

表 2.5-1 国家試験合格率（%）

	看護師				保健師				助産師			
		本学	全国	全国大学		本学	全国	全国大学		本学	全国	全国大学
H23 年度	101 回	100	90.1	97.3	98 回	92.9	86.0	89.2	95 回	100	95.0	96.0
H24 年度	102 回	100	88.8	96.0	99 回	100	96.0	97.5	96 回	100	98.1	99.2
H25 年度	103 回	97.6	89.8	97.0	100 回	100	86.5	88.8	97 回	100	96.6	97.6
H26 年度	104 回	97.7	90.0	96.9	101 回	100	99.4	99.6	98 回	100	99.9	100
H27 年度	105 回	97.6	89.4	97.4	102 回	100	89.8	93.5	98 回	100	99.9	100

注：全国とは全受験者数に占める全合格者数の割合を示す
　　全国大学とは新卒受験者数に占める大学新卒者の合格者数の割合を示す

過去 5 年間の入学生の 67％（142 名）が岡山県出身者であり、過去 5 年間の卒業生の 70.0％（141 名）は、看護職者として岡山大学病院や倉敷中央病院など県内屈指の医療施設や保健所等で活躍している。

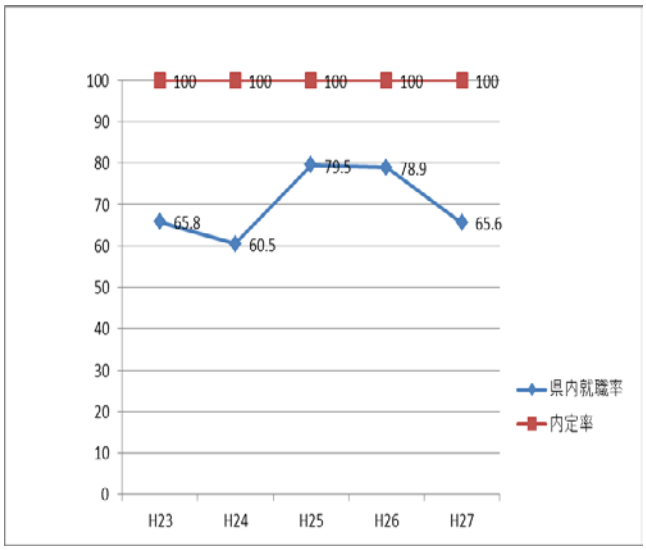


図 2.5-2　就職者の内定率と県内外の割合（%）

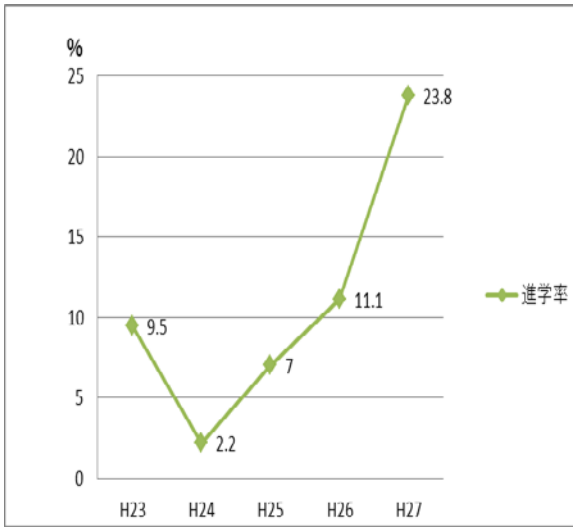


図 2.5-3　進学者の割合（%）

（２）県内看護学校・病院等の看護職者の養成

【主な看護研究支援施設と研究課題数】

患者へより質の高い援助を提供すること（業務改善）、後進の育成能力の向上や臨床現場における看護師の看護研究能力の向上を目的とした看護研究に関する講義および研究の講評などの支援を行っている。本学科教員は平成 23～27 年度の 5 年間でおよそ 500 名の看護師の資質向上の支援へも寄与している。また、臨床アセスメント能力を向上する目的で「卒業生里帰り研修」の事業を平成 26 年度から開始し、学部授業を卒業生が聴講するとともに、在学生とのディスカッションを通して、相互に看護を深める機会を持っている。

◎公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院：23 題

◎日本赤十字社岡山赤十字病院：7 題

【岡山県看護協会との連携】

日本看護協会認定看護管理者規定により認定された教育機関の一つである岡山県看護協会認定看護管理者教育課程委員会の委員として、教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル・サードレベル）の企画・運営・評価を行い、委員会活動の一環として、教育修了者のフォローアップ研究の企画、運営、講評を行っている。平成 23 年から 27 年度の 5 年間にわたり、岡山県看護協会が主催する認定看護師（糖尿病看護分野、皮膚・排泄ケア）の共通科目および糖尿病看護分野の専門科目の講義・演習を行ったが、岡山県の糖尿病分野の認定看護師の充足を持ってその教育を終了した。平成 28 年度からは、「糖尿病看護スキルアップ講座」としてフォローアップを続けて行っている。さらに、岡山県看護協会からの依頼を受けて、研究倫理審査委員、看護師職能集会、岡山県実習指導者講習会、岡山県看護学会のメンバーとして、保健師職能集会等の講師として看護専門職の看護実践能力の開発・向上に努めている。

Ｂ．栄養学科

（１）栄養学科の教育状況

栄養学科では､超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身につけ、栄養学を人の健康・維持増進、疾病の予防、治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。栄養学科で取得可能な資格は表 2.5-4 のとおりである。また、管理栄養士国家試験合格率は、平成 27 年度は 100％であった。これまでも 90％以上の高い水準を保っており（表 2.5-5)、高度な専門知識と技術の習得を行っている。

表 2.5-4 栄養学科で取得可能な資格

・栄養士 ・管理栄養士国家試験受験資格 ・食品衛生管理者（任用資格） ・食品衛生監視員（任用資格） ・栄養教諭一種免許状

表 2.5-5　過去 5 年間の管理栄養士国家試験合格率（％）

卒 業 年 度	H23	H24	H25	H26	H27
本学	97.6	94.7	90.2	95.2	100
管理栄養士養成課程　全国･新卒	91.6	82.7	91.2	95.4	85.1
全体（既卒・栄養士養成校含）	49.3	38.5	48.9	55.7	44.7

（２）栄養学科の就職・進学状況

平成 28 年度の就職・進学希望者の内定率は 1 月末現在で、98％（39 名）である。産業別割合は一般企業 49％（19 名)、病院・社会福祉施設 31％（12 名)、行政・学校 18％（7 名)、大学院 3％（1 名)、未定 1 名である。そのうち大学院を除き、管理栄養士・栄養士として就職するものは 20 名（51％)、一般事務、販売従事者等が 18 名（46％)、その他 1 名（3％）である。主な就職先としては岡山県、神奈川県の栄養教諭および学校栄養職員、行政栄養士として山形県、備前市、医療機関は倉敷中央病院、岡山旭東病院、済衆館病院等であり、企業は兵庫西ＪＡ、信用金庫（姫路・水島)、生活協同組合（山口・岡山)、ザグザグ等多岐にわたる。これらの職務に対応可能な多数の優秀な卒業生を輩出している。

進学は岡山県立大学大学院に 1 名で、28 年度は希望者が少なかった。今後は適切な進路指導を行い、一定人数の確保を行いたい。

（３）岡山県内専門職との連携及び支援

栄養学科教員は各自の専門性を活かし、岡山県内で活躍している卒業生を含む各職域の管理栄養士・栄養士等の専門職と連携して教育・研究事業を実施するとともに、本学保健福祉推進センターの所属組織である栄養学研究会の企画・運営や外部講師として講演する際には研究成果に基づく最新の知見の情報提供や技術支援に努めている。以下にこれまで実施した一例を示す。

・集団給食従事者（保育園、学校、病院、高齢者施設等）に対する支援：各職域別に給食での食物アレルギー対応の実際に関する講演や保育園における食に関する支援計画に基づく食育の実践に関しては、本学地域貢献特別研究で実施した食物アレルギー対応実施時の危機管理に関する研究の成果である「ヒヤリハット報告書」や３歳未満児の食に関する支援表を用いて研修を実施し、栄養管理の向上に努めた。

H21	岡山県保育協議会　笠岡支部研修会
H22	備中保健所井笠支所、吉備中央町 岡山県保育協議会　給食従事者研修会
H23	備前保健所及び備前保健所東備支所 岡山県保育協議会　久米苫田地区研修会 県大・栄養学研究会
H24	岡山県保育協議会　久米苫田地区研修会 県大・栄養学研究会
H25	真庭保健所
H26	真庭市
H27	瀬戸内市、矢掛町
H28	総社市、瀬戸内市、 備北保健所給食従事者研修会

・行政栄養士に対する支援：市町村行政栄養士が行う健康増進計画や食育推進計画の評価・策定業務に関するスキルアップ研修会や栄養改善協議会での研修会、乳児健診における食支援のあり方に関する研修会講師を務めた。

H22	倉敷市保健所　管理栄養士研修会 岡山県市町村栄養士協議会研修会
H23	岡山県市町村栄養士協議会研修会
H24	岡山県市町村栄養士協議会総社支部研修会
H25	岡山県備前市栄養改善協議会
H26	備前市、総社市、美作市栄養改善協議会
H27	備前市、総社市、美作市、浅口市栄養改善協議会
H28	岡山市栄養改善協議会、備前市、総社市

・岡山県との連携

保健福祉行政：保育所での栄養管理や食育推進に関する研修会で講師を務めた。

教育委員会：栄養教諭を中核とした食育推進事業で地域連携検討委員会委員として生活習慣・食生活アンケート調査の分析や事業への助言を実施、また栄養教諭 3 年目研修会講師を務めた。更に教職課程担当教員を中心に栄養教諭免許更新講習を主宰し、栄養教諭のリカレント教育の機会を提供するとともに講師を務めた。

岡山県保育所研修会　乳児栄養（H21～H28）
保育園における食育の推進に関する研修会（岡山県、岡山市、備前市、赤磐市、美作勝英地区、久米・苫田地区、久米南町、総社市、笠岡市、真庭市、瀬戸内市、矢掛町で実施）
寄島鴨方地区、岡山市、総社市内小学校教職員研修会
津山市・総社市・岡山市幼稚園協議会
栄養教諭を中核とした食育推進事業（H23 笠岡市、H24 矢掛町、H25 早島町、H26・27 倉敷市、H28 津山市）
栄養教諭　3 年目研修講習会の講師（H25,26,27 年度）
栄養教諭免許更新講習会の実施（主催県立大）

C．保健福祉学科

（１）保健福祉学科のあゆみと教育実績

複雑化･高度化された社会において､人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として平成 5 年 4 月に開学した｡伝統的な社会福祉学に加え､保健学(健康科学)、心理学、障害科学分野の教員も加わり、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術を有する社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており､彼らの中には現在では､それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍している者も少なくない｡また､平成 9 年度からは大学院修士課程を、平成 15 年度からは博士課程を設置し､高度専門職や教育･研究者を社会に送り出している。施設長、職場の管理職・リーダー、団体代表、大学教員などとして活躍している卒業生の中には、全国レベルで活動している者や、帰国後母国で保健福祉学の教育・実践に携わっている者も多い。さらに、平成 25 年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の 2 専攻に分かれ、それぞれの教育理念に基づき、社会福祉士と介護福祉士、幼稚園教諭と保育士の養成を柱として、少人数制教育による本格的な専門職育成および大学院における高度専門職・研究者育成に取り組んでいる。

社会福祉学専攻の中に設定されている介護福祉士養成教育では、平成 5 年に岡山県立大学短期大学部で養成教育が始まり、13 期生までに約 650 名の介護福祉士を養成してきた。卒業生の中には、大学の教員や施設管理者等、介護福祉の現場でリーダーとして活躍して

いる者が多い。平成 19 年には、短期大学部を発展的に改組し、保健福祉学部保健福祉学科に介護福祉コースを設置し、4 年制教育を開始している。公立 4 年制大学で介護福祉士を養成しているのは、全国でも 5 校のみである。今後深刻化する高齢社会の様々なニーズに対応するため、専攻では「ケアチームリーダー」「ケアマネジメント力」「介護福祉の専門性の向上」「介護福祉士としてのリーダー」等の人材養成に向けたカリキュラムを構築している。講義・演習では、基本的なケア技術の習得に加え、ケア技術の根拠となる原理原則を演習のなかで実験的に検証し、研究に発展させている。介護実習においては、e ラーニングを導入し、実習巡回時の対面指導と遠隔指導を組み合わせ、さらに積極的に学習効果を上げる指導体制を整えている。

子ども学専攻は岡山県における保育士養成事業の伝統を受け継ぐものである。日本では戦後間もない昭和 23 年に児童福祉法が施行され、児童の健全な育成を担う施設としての保育所等の児童福祉施設や、保育に従事する専門職としての保育士（当時は保母）資格の法的基盤が整備された。岡山県における保育士養成事業は、他県の 11 校とともに全国で最も早く、岡山県立保育専門学園において昭和 25 年から開始されている。保育士養成課程が岡山県立短期大学に移行された昭和 43 年からは、幼児の健全育成に携わるもう 1 つの柱である幼稚園教諭の養成課程を設置して、岡山県立大学短期大学部での教育を経て現在に至っている。卒業生の多くは幼稚園・保育園の職員として就職する。その中には、現在では園長などの指導的立場で活躍している者も多い。大学・専門学校で教員研究に従事している者もいる。行政機関で児童育成や子育て支援に関わり、教育委員会の仕事をしている卒業生もいる。そして、平成 19 年からは保健福祉学科の中で保育者育成を行っており、児童養護施設や障害児施設、子育て支援センターに勤務する者も増えている。今後は、未就学児に教育と保育を一体的に提供する認定こども園など、卒業生の活躍の場はますます広がっていくことが期待されている。このような本学科における高い教育力は、実績としても高い就職・進学率、社会福祉士国家試験合格率となって現れている。

（２）就職・進学状況

保健福祉学科の就職率は、直近 3 年間（平成 25-27 年）では 100%である。平成 27 年度の場合（就職希望者 59 名）、①地方公務員（一般事務）2 名、（福祉専門職）5 名、（保育士）2 名、②市町村社会福祉協議会 1 名、③医療機関（医療ソーシャルワーカー）8 名、④社会福祉施設（相談員）3 名、（介護福祉士）18 名、（生活支援員）11 名、（保育士）1 名、⑤私立保育園（保育士）3 名、⑥一般企業（金融機関、ドラッグストア等）2 名、（福祉サービス企業）2 名、⑦非営利法人（一般事務）1 名であった。この内、県内就職者 44 名（内、県外出身者 6 名）、県外就職者 15 名（内、U ターン就職者 9 名）である。

進学は、専門員養成所への進学者 1 名であった。

主な就職活動へのサポートとしては、①本学就職資料室及び就職相談（カウンセラー）の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人 NAVI システム利

用に関する指導、③学科就職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④医療・福祉事業所合同就職説明会の開催、⑤3 年次生就職ガイダンス（4 年生就職体験談）の実施、⑥就職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供など積極的に実施している。

（３）社会福祉士国家試験合格状況

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している（表 2.5-6)。学科では、国家試験合格に向けて模擬試験の実施、学生による自主的な学習会のサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

表 2.5-6　過去 5 年間の社会福祉士合格率

	合格率（%）	全国福祉系大学内順位（10 人以上受験校）	全体合格率（%）
平成 23 年度	81.8	6/216	26.3
平成 24 年度	51.8	18/218	18.8
平成 25 年度	84.5	10/216	27.5
平成 26 年度	76.8	8/219	27.0
平成 27 年度	82.8	10/215	26.2

※合格率は新卒、全国福祉系大学内順位は新卒と既卒を合わせたものである。

ソーシャルワーク演習の授業風景

２．５－２　情報工学部・大学院情報系工学研究科

情報工学部では、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3 つの学科を設置している。すなわち、3 学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、各学科の関連工学分野の知識と、それらを応用できる能力を育成することで、将来を見据えた技術者人材を輩出しており、平成27年度末までに2,349名の卒業生を世に送り出している。

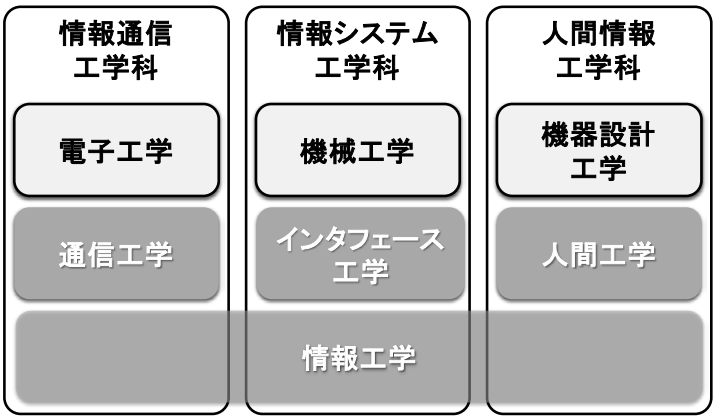


図 2.5-2-1　3 学科の工学分野

大学院情報系工学研究科では、情報工学部における学士課程の教育目標の延長線上にその教育目標を置き、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に大いに貢献できるグローバル人材の育成を目指している。本研究科には博士前期課程(2 年)および、それに続く博士後期課程(3 年)を設置しており、平成 27 年度末までに 846 名に対して修士（工学）の学位を、59 名に対して博士（工学）の学位を授与している。

Ａ．情報通信工学科

（１）教育状況

情報通信工学科は、日々進歩し続ける情報通信技術(ICT)を支えている情報工学、通信工学、電子工学の３つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、情報通信技術(ICT)の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指している。平成 28 年 5 月 1 日現在の在学者数は 250 名である。

（２）就職・進学状況

平成 27 年度には、44 名が卒業し、その内、進学者は 13 名、就職者は 31 名であり、就職希望者に対する就職率は 100%である。岡山県内への就職者は 15 名（就職者の約 48%）である。就職先業種は、図 2.5-2-2 平成 25～27 年度の実績）に示すとおり、情報通信工学科の育成方針に沿った情報・通信業が中心である。

情報通信工学科

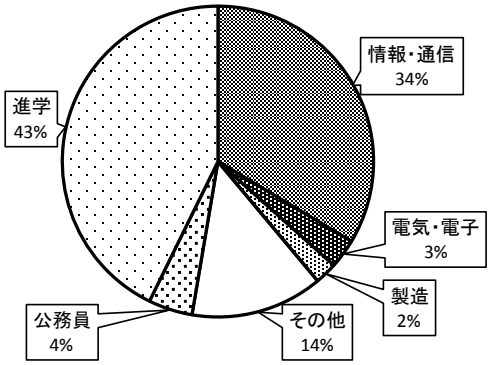


図 2.5-2-2　情報通信工学科の就職・進路内訳

Ｂ．情報システム工学科

（１）教育状況

情報システム工学科は、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を身に付け、領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指している。平成 28 年 5 月 1 日現在の在学者数は 227 名である。

（２）就職・進学状況

平成 27 年度には、66 名が卒業し、その内、進学者は 31 名、就職者は 35 名であり、就職希望者に対する就職率は 100%である。岡山県内への就職者は 18 名（就職者の約 51%）である。就職先業種は、図 2.5-2-3 （平成 25～27 年度の実績）に示すとおり、情報システム工学科の育成方針に沿った情報・通信業および電気・電子、機械、製造業が中心である。

情報システム工学科

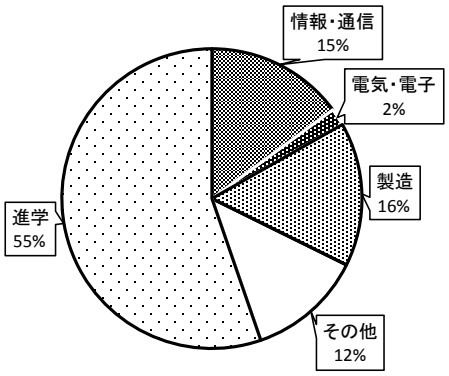


図 2.5-2-3　情報システム工学科の就職・進路内訳

Ｃ．人間情報工学科（スポーツシステム工学科）

（１）教育状況

人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」である。身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び、使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指している。平成 28 年 5 月 1 日現在の在学者数は 191 名である。

（２）就職・進学状況

平成 27 年度には、43 名が卒業し、その内、進学者は 10 名、就職者は 31 名であり、就職希望者に対する就職率は 93.9%である。岡山県内への就職者は 17 名（就職者の約 55%）である。就職先業種は、図 2.5-2-4（平成 25～27 年度の実績）に示すとおり、スポーツシステム工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心である。

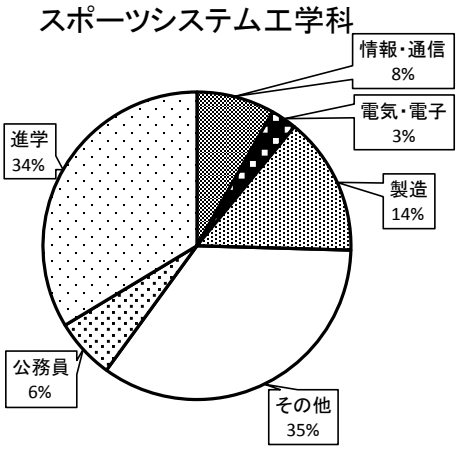


図 2.5-2-4　スポーツシステム工学科の就職・進路内訳

D. 大学院情報系工学研究科

（１）教育状況

システム工学専攻（博士前期課程）では、研究者あるいは技術者の立場から、高度情報化社会の中枢となって産業社会の発展を支えていく人材、幅広い技術的基盤を基に「実システム」の創造的な設計ができる人材、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた人材、環境変化や産業構造の変化に柔軟に適応できる判断力とコミュニケーション能力を持つグローバル人材の育成を目指している。平成 28 年 5 月 1 日現在の在学者数は 114 名である。

システム工学専攻（博士後期課程）では、今後ますます多様化、複雑化する社会からの要請に応えるべく、公的研究機関のみならず民間企業において、情報系の学術分野を現実課題の解決に適応できる研究者及び高度専門技術者を養成することを目標に、専門領域の

深化と統合を通じて、新たな問題を発掘し解決する能力を持つグローバル人材の育成を目指している。平成 28 年 5 月 1 日現在の在学者数は 14 名であり、その大部分は社会人である。

（２）就職・進学状況

システム工学専攻（博士後期課程）では在学生の大部分が社会人のため、就職・進学状況は省略する。

システム工学専攻（博士前期課程）では、平成 27 年度末に 46 名が修了し、その内の 45 名が就職した。就職希望者に対する就職率は 100%である。岡山県内への就職者は 14 名（就職者の約 31%）である。就職先業種は、図 2.5-2-5（平成 25～27 年度の実績）に示すとおり、システム工学専攻（博士前期課程）の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心である。

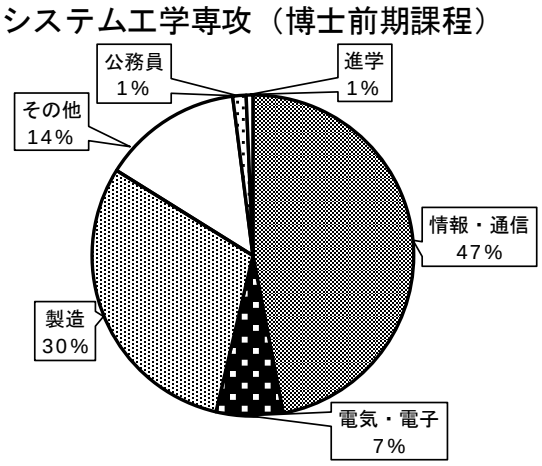


図 2.5-2-5　システム工学専攻（博士前期課程）の就職・進路内訳

２．５－３　デザイン学部

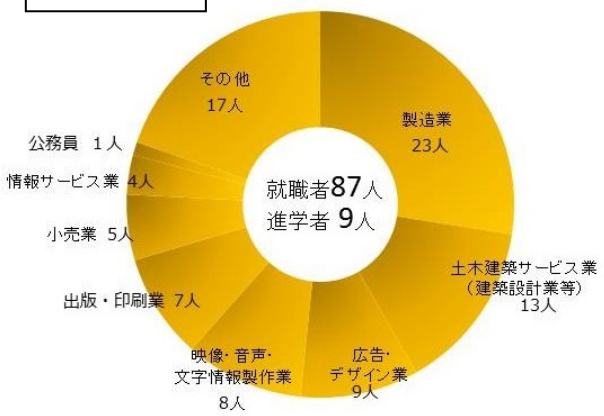
（１）教育状況

デザイン学部では、情報化、グローバル化など刻々と変化する社会にあって、社会動向を的確に把握することにより課題を自ら発見し、それをデザインによって表現・解決することを通じて、豊かで新しい生活と文化の形成に必要なデザイン専門力とマネジメント能力を有する、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している。目指す人材像は次のとおりである。

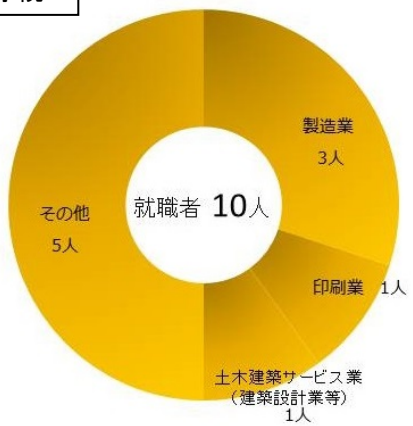
・人間・社会・自然に関する十分な情報分析ができ、それを応用できる構成力及びデザイン力を身に付けている人材。
・豊かな教養と高い人間性を基礎として、新たな生活と文化の価値を創造する能力を身に付けている人材。
・発想・想像力、課題発見・解決力及び企画提案力を身に付けている人材。
・国際化に対応できる外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている人材。
・常に知的好奇心を持ち、学習継続意欲を身に付けている人材。

（２）就職・進学状況

デザイン学部



大学院



平成 27 年度には、106 名が学部を卒業、9 名が大学院（修士課程）を修了した。このうち岡山県内への就職者は学部卒業生 33 名（就職者の約 38%）、大学院修了生 2 名（就職者の約 20%）となっている。岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されている。近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に、取り組んでいく。

２．６　その他の貢献

２．６－１　各種委員等への派遣（行政関係以外）

本学における平成２８年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会・各種団体等	計
保健福祉学部	５	５０	５５
情報工学部	３	２８	３１
デザイン学部	１	９	１０
合　計	９	８７	９６

本学における平成２８年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会・各種団体等	計
保健福祉学部	３３	７１	１０４
情報工学部	５	１０	１５
デザイン学部	５	３	８
合　計	４３	８４	１２７

本学における平成２８年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	非常勤医師	非常勤講師	役　員	計
保健福祉学部	７	３２	０	３９
情報工学部	０	１８	４	２２
デザイン学部	０	１０	２	１２
合　計	７	６０	６	７３

（注）詳細は巻末資料を参照

２．６－２　職員表彰

Ａ．学内表彰

本学の職員表彰規程に基づき、職務上の功績が顕著であった伊東秀之教授（保健福祉学部）、野宮謙吾教授（デザイン学部）、樫尾聡美助教（デザイン学部）が表彰され、１０月１９日に理事長(学長)から表彰状と記念品が授与された。

（表彰理由）

（１）伊東教授

天然物由来の機能性成分の構造決定の分野において、県内外の企業と活発な共同研究を実施し、抗アレルギー剤や終末糖化産物産生抑制剤の発明に結びつくなど、卓越した研究業績をあげたことが高く評価された。

（２）野宮教授

本学ロゴマークの新デザイン等広報デザイン全般での実績が顕著で、その功績は専門的及び社会的に高い評価を受け、ロゴデザインやサインデザインに関する専門的知見を地域社会振興等のために意欲的に提供し、デザイン活動を通じて本学の存在意義を継続的に社会へ発信したことが高く評価された。

（３）樫尾助教

作品制作とその展示による研究活動を社会に精力的に発信し、美術活動を通じて地域文化の向上に大いに寄与し、その研究成果の水準の高さが認められ短期間に連続受賞するなど、文化面で本学の知名度を大いに高めたことが高く評価された。

表彰式後の記念写真

B. 学外表彰

情報工学部	教　授	岩橋　直人	2015 年度人工知能学会論文賞【論文賞】「マルチモーダル LDA と NPYLM を用いたロボットによる物体概念と言語モデルの相互学習」
情報工学部	教　授	金川　明弘	The Thirteenth International Conference on Industrial Management Excellent Paper Award
情報工学部	教　授	尾崎　公一	公益社団法人日本鋳造工学会中国四国支部【片島賞】
情報工学部	教　授	渡辺　富夫	第 18 回（平成 28 年度）日本福祉工学会【論文賞】
情報工学部	准教授	若林　秀昭	The 34th JSST Annual Conference , International Conference on Simulation Technology (JSST2015) 【Outstanding Presentation Award】「Three dimensional analysis of structural coloration in subwavelength gratings」
情報工学部	准教授	福田　忠生	公益社団法人日本鋳造工学会中国四国支部【片島賞】
情報工学部	准教授	綾部　誠也	岡山スポーツ医科学研究会【研究会賞】
情報工学部	准教授	山内　　仁	第 17 回計測自動制御学会システム・インテグレーション部門講演会 SI2016【優秀講演賞】
情報工学部	助　教	滝本　裕則	The Thirteenth International Conference on Industrial Management Excellent Paper Award
情報工学部	助　教	泉　　晋作	2016 年度システム制御情報学会【学会賞推奨賞】
情報工学部	助　教	小武内清孝	公益社団法人日本材料学会複合材料部門委員会【推奨賞】
情報工学部	助　教	瀬島　吉裕	第 18 回（平成 28 年度）日本福祉工学会【論文賞】
デザイン学部	助　教	樫尾　聡美	岡山芸術文化賞美術分野【グランプリ】

※職名は受賞当時のものです。

３．　県立大学の各組織での活動

３．１　地域共同研究機構

３．２　産学官連携推進センター

３．３　地域連携推進センター

３．４　保健福祉推進センター

３．１　地域共同研究機構

３．１－１　体制

地域共同研究機構は、平成 17 年 10 月、県立大学の社会貢献体制を見直した結果、地域貢献活動を全学横断的に強力かつ効率的に推進するために発足した。発足以来、本学の教育研究活動を活性化し、地域社会や行政機関との連携を深め、地域産業の振興や福祉の充実を図るために様々な活動を行ってきた。また、地域連携推進センターを中心に、文部科学省の COC+事業に併せて、本学と自治体との関係の強化に取り組んでいく。平成２８年度地域共同研究機構の体制は以下のとおりである。

所　　属		役　職	氏　名	職　名	学　部　名
地域共同研究機構		機構長	渡 辺　富 夫	教　授	情報工学部
		副機構長	佐 藤　洋 一 郎	教　授	情報工学部
	産学官連携推進センター	センター長	渡 辺　富 夫	教　授	情報工学部
		副センター長	吉 永　早 苗	教　授	保健福祉学部
			伊 藤　信 之	教　授	情報工学部
			村 木　克 爾	教　授	デザイン学部
		幹　事	岡 﨑　愉 加	准教授	保健福祉学部
			山 本　登 志 子	教　授	保健福祉学部
			髙 戸　仁 郎	教　授	情報工学部
			市 川　正 美	准教授	情報工学部
			中 西　俊 介	准教授	デザイン学部
	保健福祉推進センター	センター長	谷 口　敏 代	教　授	保健福祉学部
		副センター長	實　金　栄	准教授	保健福祉学部
		幹　事	池 田　理 恵	准教授	保健福祉学部
			平 松　智 子	准教授	保健福祉学部
			樟 本　千 里	講　師	保健福祉学部
			國 島　丈 生	准教授	情報工学部
			朴　貞 淑	講　師	デザイン学部
	地域連携推進センター	センター長	佐 藤　洋 一 郎	教　授	情報工学部
		副センター長	久 保 田　恵	教　授	保健福祉学部
			徳 田　安 紀	教　授	情報工学部
			山 下　明 美	教　授	デザイン学部
			横 田　一 正	特任教授	地域共同研究機構
		幹　事	佐 々 木　純 子	准教授	保健福祉学部
			京 林　由 季 子	准教授	保健福祉学部
			石　井　裕	准教授	情報工学部
			綾 部　誠 也	准教授	情報工学部
			三 原　鉄 平	准教授	デザイン学部

３．１－２　領域・研究プロジェクト活動

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成 19 年に発足したプロジェクトは 9 年目を迎えた。この「領域・研究プロジェクト」は異分野の教員や学外からも研究者を募って、下表にある「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の 3 つのテーマで 6 つのプロジェクトを実施している。

H28 年度「領域・研究プロジェクト」

領 域	■プロジェクト名、「研究課題」 メンバー（○：代表者）	内　容
健康・福祉	**■健康回復を促進する看護ケアの開発に関する研究** **「末梢血流量の増加が健康指標に与える影響」** ○住吉和子 山口三重子、荻野哲也、谷口敏代、原野かおり、佐藤美恵、佐々木新介、高林範子	抹消血流を改善できる看護ケアを学部教育に取り入れ提供することで健康回復が促進されることを検証し、安全に提供できる看護ケアの確立を目指す。 本年度は主に看護ケアの根拠を構築するための測定・検証を行う。
健康・福祉 地域・環境	**■米粉の幅広い応用に関する研究** **「米粉を利用した加工品の基礎的および応用的研究」** ○伊東秀之 山下広美、岸本妙子、久保田恵、山本登志子、中島伸佳、新田陽子、中西俊介、田淵真愉美、井上里加子、我如古菜月	米の消費拡大を狙った米粉食推進を行うことを目的として以下の研究を行う。 1 米粉麺のさらなる応用研究 2 機能性米粉麺の基礎的研究 3 介護食に適した米粉麺の開発 4 地域貢献岡山県産米粉を使ったレシピ開発
健康・福祉 モノ・コトづくり	**■QOL の向上に向けた産学官連携** **「生活の質の向上を鑑みた移動・歩行支援策の開発・改良と効果検証」** ○犬飼義秀 迫明仁、尾崎公一、佐藤洋一郎、綾部誠也、大山剛史、齋藤誠二、田内雅規、中村孝文、髙戸仁郎	企業と自治体のブリッジ役になることにより、県内企業の活性化と住民の健康づくりの両者を達成し、県内の活性化につなげることを目的とする。具体的には、企業連携により身体機能の向上を意図した運動支援機器の改良と歩行支援のための機器・衣服の開発・改善、自治体連携により開発した支援策を応用した QOL 向上に対する効果検証を行う。
地域・環境 モノ・コトづくり	**■新製品の企画・開発を促進するための産学協働** **「地域創生につながる製品開発を目指した産学連携の実践」** ○村木克爾 山下明美、髙戸仁郎、ｱﾝｿﾆｰ･ﾌﾞﾙﾈﾘ、三原鉄平、山本登志子、市川正美、上田篤嗣、樫尾聡美	MoDD ネットに参加・賛同する企業群を中心に地元中小企業との産学共同活動によって潜在的な技術力を効果的に利用し、グローバルに展開ができる確固たるローカルブランドの創出・定着を図る。 これらの成果は講演会、セミナーなどの各種メディアを通じて本学での事例を外部へと積極的に発信する。

領 域	■プロジェクト名、「研究課題」 メンバー（○：代表者）	内　容
モノ・コトづくり	**■ディジタルエンジニアリング** **「数値解析によるものづくり支援に関する研究」** ○尾崎公一 末岡浩治、佐藤洋一郎、福田忠生、山内仁、芝世弐、小武内清貴、瀬島吉裕、中村浩三（地域共同研究機構・客員教授）、中西亮太（岡山県工業技術センター）、泉妻宏治（グローバルウェーハズ）	複数分野の解析技術を融合して高いレベルの実学を創造するとともに、地域企業の解析ニーズに応えることを目的とする。さらには、新たな数値解析技術を開発し、実用化することも目指す。 本年度は、次の４つのサブテーマに取組む。 1 半導体材料・機器の高機能・高性能化 2 金属材料の高強度化と生産性向上 3 高分子材料の製造・加工プロセスと製品性能の向上 4 画像処理技術による製造工程管理
モノ・コトづくり	**■人がつながる身体性メディア技術** **「身体的引き込みによるインタラクション・コミュニケーション支援」** ○渡辺富夫 佐藤洋一郎、石井裕、瀬島吉裕、 西田麻希子、高林範子、 小川浩基（インタロボット、コアテック）、Irini Giannopulu（Pierre & Marie Curie 大学）	うなずきや身振りなどの身体的引き込みをロボットや CG キャラクタのメディアに導入することで一体感が実感できる身体的コミュニケーション技術と、メディアの場にはたらきかけることで場を盛り上げる身体性メディア場の生成・制御技術を開発展開・統合・実用化して、生活基盤システム・環境としての本格的な感情移入インタフェースを構築する。

３．１－３　ＯＰＵフォーラム 2016

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的として、毎年開学記念日頃に OPU フォーラムを開催している。平成 28 年度は「健康と豊かな暮らし」をテーマとし、本学体育館、講堂において、研究ポスター展示、特別講演、交流会などが行われ、約９５０名の来場があった。また、特別講演は、東京大学名誉教授清水誠氏が「拡がる機能性食品の世界」をテーマに、機能性食品の誕生～現状～未来についての講演が行われた。

○開催概要

日　時　　平成 28 年 5 月 27 日（金）11：00～18：15

テーマ　　健康と豊かな暮らし

プログラム　■特別講演会 13：10～14：10（講堂）

演　題：「拡がる機能性食品の世界」

講演者：東京農業大学教授／東京大学名誉教授　清水誠　氏

■研究展示会　11：00～17：00　（体育館）

展示数 155 件（教員研究 132 件, 企業・団体 17 件, センター活動 6 件）

■地域の食　11：00～売り切れまで（野外テント）

■健康測定コーナー　14：20～16：30（体育館）

■交流会　17：15～18：15　（講堂前広場）

OPU フォーラム 2016　展示テーマ一覧

学科	No	テーマ名	担当者名
看護学科	1	ストレッチャー搬送での頭部の動揺が乗車者に与える影響	荻野哲也
	2	看護技術の可視化による評価と援助用具の開発	佐々木新介
	3	身体性アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システム	高林範子、渡辺富夫、石井　裕、山本真代
	4	2016 年度OPUにおける新カリキュラム:ESP1－4	高橋幸子、杉村　藍、南津佳広、風早由佳
	5	英語学習に影響を与えるメタ認知ストラテジーの研究	高橋幸子
	6	より安全な手術看護を目指して～砕石位の正確な取り方に関する研究	高橋　徹、可児聖史郎
	7	電話相談と緊急時対応の支援ニーズに関する調査	名越恵美、藤田千尋、姫野美香、小山直夏
	8	医療処置を必要とする高齢療養者の在宅療養継続に関する訪問看護師の実践知	名越恵美、山形真由美、難波峰子
	9	甘酒の摂取が体に及ぼす影響	住吉和子、入江康至、中島伸佳、山辺啓三　他
	10	平成 27 年度大学に糖尿病相談室を設置した成果	住吉和子、谷口敏代、沖本克子、岡﨑愉加　他
	11	スピリチュアルケアに関する研究	實金　栄、井上かおり、竹田恵子　他
	12	看護学生のヒューマンケアリング実践力に関する研究	井上かおり、實金　栄、山口三重子、二宮一枝
	13	夏季の敷き寝具と乳児の睡眠	池田理恵、滝川由香里
	14	乳幼児の短期入院に付き添う母親の疲労に関する研究	網野裕子、沖本克子
	15	大学生の家事・育児行動に関する意識	沖本克子、網野裕子、入江麻穂、川上千晶　他
	16	助産師と養護教諭の連携による性教育	岡﨑愉加
	17	高校生対人ストレス尺度開発	石田実知子、山口三重子
	18	子どもの問題行動に関連する要因の疫学的分析と予防対応策の構築	井上幸子　他
	19	訪問看護ステーション管理者の職務環境に関する研究	佐々木純子
	20	ネパール人看護師の災害看護における教育・認識の実態	アルチャナ・シュレスタ・ジョシ、二宮一枝、佐々木純子、ポカレル・ラメショワール
	21	看護職者のワーク・モチベーション測定尺度に関する研究	西村夏代、山本智恵子、山口三重子
	22	客観的臨床能力試験(OSCE)システムを活用した看護専門職の能力開発	杉島訓子、佐田佳子、住吉和子、浅井美穂
栄養学科	1	自然薯の高機能性とレオロジー特性にもとづく嚥下食の開発	山本登志子、木本眞順美、中村孝文、田中充樹　他
	2	慢性炎症性疾患の新規治療法の開発を目指す基礎研究	高橋吉孝、川上祐生、森　香子、大河内脩史　他
	3	根菜類の葉に含まれる抗炎症物質の探索	川上祐生、神崎圭太、伊東秀之、高橋吉孝　他
	4	筋タンパク質分解を抑制する大豆機能性成分に関する研究	神崎圭太、吉村征浩、川上祐生、高橋吉孝　他
	5	酢酸の継続的な摂取が高齢動物の骨格筋に及ぼす影響	山下広美、丸田ひとみ、阿部伶奈、吉村征浩　他

学科	No	テーマ名	担当者名
栄養学科	6	瀬戸内海で養殖されたマガキ含有成分の解析	山下広美、磯野千晶、伊東佳邦、花田恭孝　他
	7	新規短鎖脂肪酸 CoA 合成酵素の遺伝子クローニングと発現解析	吉村征浩、守上奈保子、山下広美
	8	異文化理解のためのハラール食対応レシピに関する食育教材	岸本妙子、平松智子、新田陽子、田淵真愉美　他
	9	出芽酵母の酢酸耐性化における細胞内グリセロールの役割	田中晃一
	10	大量調理時における学生の手指洗浄に関する意識調査	田淵真愉美、有田美知子
	11	岡山県産米を用いた米粉麺の特性および食育に関する研究	伊東秀之、新田陽子、田淵真愉美、中西俊介　他
	12	ヒシに含まれる抗糖化成分	伊東秀之、加藤奈々、河辺聡子、我如古菜月
	13	抗アレルギー作用を有するチシャトウの活性成分の探索	伊東秀之、川脇美祐、我如古菜月、杉本幸雄　他
	14	大学生における野菜ジュース摂取後の血糖値の検討	平松智子、入江康至、小川亜紀、下田将司
	15	ライフスキルの獲得とSCを活用した地域における健康増進活動	井上里加子、久保田恵、但馬康宏
	16	グローバル化推進教育としての豪州での食育実践活動の教育効果	久保田恵、井上里加子、川上貴代　他
	17	地域連携協働事業としての備前市における食育推進活動	久保田恵、井上里加子、森下優枝、豊福敬子
保健福祉学科	1	高齢者の孤立予防に関わるボランティアモデルの研究	村社　卓
	2	地域コミュニティを対象とした認知症が疑われる高齢者を発見した場合の援助希求に関する研究	竹本与志人、中尾竜二、杉山京、三上　舞　他
	3	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の従事者における職業	谷口敏代、米原あき、松田実樹
	4	壮年期知的障害者の家族介護者に対する社会的支援のあり方に関する探索的研究	松田実樹、谷口敏代、原野かおり、佐藤ゆかり　他
	5	造船工場従業員のメンタルヘルスと健康診査結果の関係“2年間の縦断研究”	藤井保人、廣川空美、高木二郎、谷口敏代
	6	社会参加と物忘れとの関連性の検証に関する研究	井上祐介、鄭丞媛、近藤克則他
	7	パーソナリティ特性を支える認知機能の探索	澤田陽一、桐野匡史
	8	県行政史料「社会課関係事務要覧」と施設・団体の形成	井村圭壮
	9	「チームガバナビリティ演習」3年間の成果と課題	桐野匡史、中村　光、住吉和子、久保田恵　他
	10	保育者の力量形成にむけた研修プログラムの開発	池田隆英
	11	幼免特例科目を受講する保育士の意識について	京林由季子、佐藤和順、池田隆英、樟本千里　他
	12	ひとり親家族の子どものニーズに関する研究	近藤理恵
	13	児童生徒の抑うつ状態と問題行動	周防美智子
	14	発達障害児における音楽活動の効果に関する考察	坂野純子、岡﨑順子、森本伊津子、森菜央子
	15	幼児と成人における分配行動の違いについて	樟本千里、今城留奈、沖野亜希子、友竹里咲
	16	思いやりを育む保育の取り組み	樟本千里、京林由季子
	17	介護者の負荷を軽減するティッピングレバー位置決めのシミュレーション解析	中村孝文、髙戸仁郎、田内雅規

学科	No	テーマ名	担当者名
	18	子育て支援としてのコンタクト・インプロヴィゼーション・ダンスの可能性	新山順子、岡崎順子、佐藤和順
情報通信工学科	1	狩野モデルを用いた介護サービス評価とスケジュ―リング	金川明弘、竹原勇朔、山本貴大
	2	線形 SVM による識別器要素モデルの結合係数の最適化	岩橋直人
	3	統計的機械翻訳を用いたロボットの言語獲得	岩橋直人
	4	大量の料理レシピを対象とするレシピ推薦とユーザインタフェースに関する研究	國島丈生
	5	感染症数理モデルを用いた無線 LAN マルチホップ放送型情報配送方	榊原勝己、武次潤平、堀内貴行、磯野竜太郎
	6	左手系フェライト導波路の非可逆伝送特性に関する研究	大久保賢祐、安達太一、八杉奨
	7	透明なポスト壁導波路を用いたチップサイズマイクロ波照射構造	岸原充佳
	8	空間周波数成分に基づく視覚的顕著性を用いた注視誘導	滝本裕則、山内　仁、岸原充佳、大久保賢祐　他
	9	高速かつ高信頼なデータ伝送システムに関する基礎研究	稲井　寛、若林秀昭、荒井　剛
	10	省面積 2 バンド同時受信低雑音増幅器に関する研究	伊藤信之、北野大志
	11	24GHz ドップラーセンサ用要素回路の研究	伊藤信之、佐藤良樹、西野賀雄
	12	K 帯低位相雑音電圧制御発振器の研究	伊藤信之、板野由佳
	13	動的再構成技術を用いた並列処理プロセッサの研究	森下賢幸、中島大輝
	14	投機的 CABAC 処理の研究	小椋清孝
	15	積層型メタルスリットアレイの疑似誘電体的性質	徳田安紀、坂口浩一郎、山口祐生、橋本雅文　他
	16	Penrose 共振器のモード解析	福嶋丈浩、皿田貴寛、坂口浩一郎、徳田安紀
	17	自動車部品検査装置の改良	福嶋丈浩、西田丈男
	18	円筒型音響クローキングの波長依存性と内部共鳴モードに関する研究	坂口浩一郎、藤井佑亮、福嶋丈浩、徳田安紀　他
	19	大口径 Ge 単結晶の高品位化に関する基礎研究	末岡浩治、山岡俊太、小林弘治、Jan Vamhellemont
情報システム工学科	1	エネルギ保存を考慮した画素値分布推定法とその応用に関する研究	尾崎公一、佐藤洋一郎、山内仁、福田忠生　他
	2	身体的引き込みによるインタラクション・コミュニケーション支援	渡辺富夫　他
	3	発話感情推定に基づく身体的キャラクタを介したコミュニケーションシステムの研究開発	石井　裕
	4	食事バランスガイド活用アプリの開発	但馬康宏、久保田恵、井上里加子
	5	余代数の研究	小松弘明
	6	ペダリング運動の制御メカニズムに関する研究	山崎大河、竹下　洋、忻　欣、泉　晋作
	7	コンピュータによる岡山弁の言語処理	菊井玄一郎、福圓琢真
	8	LED 電球使用時の電気回路モデルの推定に関する研究	徳永義孝
	9	流体解析ソフト OpenFOAM の応用	芝　世弐

学科	No	テーマ名	担当者名
情報システム工学科	10	岡山オープンソース技術研究会の紹介	芝　世弐、荒井　剛、天嵜聡介
	11	竹バイオマスからなる熱硬化性成形原料の創生	小武内清貴
	12	微生物の制御器による群ロボットのフォーメーション制御	泉　晋作
	13	高強度・耐水素脆化特性を兼ね備えた鋳造用 Al 合金の開発	福田忠生、尾崎公一、小武内清貴、金築秀樹
	14	センター試験の英語問題を解くロボット	磯崎秀樹、菊井玄一郎
	15	和訳に適した翻訳自動評価法	磯崎秀樹
	16	革新的 CO2 排出量削減に関する研究	中川二彦
人間情報工学科	1	疑似的色覚特性時における人間の顔色変化が与える印象評価	瀬島吉裕、滝本裕則、佐藤洋一郎
	2	腹側被蓋野へ投射するカルビンディンを含有する中脳橋被蓋ニューロンの検索	柳原　衞
	3	定常状態における観測分析に基づく異常検知システムに関する研究	山内　仁、滝本裕則
	4	靴底の摩耗と歩容との関係	齋藤誠二
	5	視覚障害者の道路横断時の安全性を向上させる新たな方向定位方略の検討	髙戸仁郎、中村孝文
	6	ICT活用による「生活支援技術」指導法の開発	迫　明仁
	7	筋機能に着目した利き手と非利き手の運動の違いに関する研究	大山剛史
	8	過疎地域高齢者を意図した実践的サルコペニア肥満の予防解消の支援プログラムの開発	犬飼義秀、綾部誠也
	9	マルチノード人体温熱モデル構築による屋外空間温熱環境評価	島崎康弘、吉田篤正
	10	発泡ウレタンを封入したエアセルを用いた新規力学特性制御システムの開発	大田慎一郎
	11	上肢拮抗筋を模倣できる新アクチュエータ機構	井上貴浩、宮田龍一、植田尊大、佐藤克樹
	12	小径丸ベルト捩り駆動による力・トルク変換機構と制御	宮田龍一、井上貴浩
	13	聴覚障害者スポーツのための報知・警告伝達システムの開発	穂苅真樹
デザイン工学科	1	パンチングメタル技術を活用した用途開発支援に関する研究	森下眞行、金丸敏彦、村木克爾、尾崎　洋　他
	2	中小企業の経営資源充実化を支援するための産学協働活動に関する調査研究	村木克爾、市川正美、山下明美、山本登志子　他
	3	総社旧市街まちなみ調査	西川博美、朴　貞淑、浅野智英
	4	地域資源を活かした持続可能な高齢者の福祉住環境に関する研究Ⅱ	朴　貞淑、森下眞行、中村孝文、上田篤嗣　他
	5	触知ピクトグラムデザイン（適正高さの検討）に関する研究	上田篤嗣、朴　貞淑
	6	墨流し技法を用いたランプシェード作りワークショップの紹介	中原嘉之
	7	生理用品の機能性訴求に関するデザイン研究	三原鉄平
	8	遠隔地域の住民との協働による公園活性化デザイン手法　その2	津田勢太、中原嘉之、伊藤立平、桝田洋子

学科	No	テーマ名	担当者名
造形デザイン学科	1	アメリカ南西部における裂き織り（I）	難波久美子
	2	共同研究「現代日本陶芸のデザインと技法 2016」	久保田厚子
	3	ホスピタルデザイン・アートにおけるビジュアルデザインの研究	山下明美、高杉尚志　他
	4	「環境企業」のイメージ構築に寄与するブランドカラー開発の研究	山下明美、三寺健五
	5	「ホトトギス」の俳人村上鬼城の作風の変遷	柴田奈美
	6	必然性から生まれる独創性とその表現手段としてのドローイングの研究	助川たかね
	7	「三浦印刷所」シンボルマーク・ロゴタイプのデザイン	野宮謙吾
	8	感光性樹脂版を用いたプリンティング表現の研究⑵刷りの手法	関﨑　哲
	9	間伐材の需要を促すため、木育の観点から素材を活かした遊具デザインの研究	南川茂樹
	10	注目させることを意図した写真の見せ方に関する研究	北山由紀雄
	11	体感型展覧会の検証とユニバーサル・ミュージアムの研究	島田清徳
	12	SOJA イルミネーション 2015 における新規作品モデルの研究開発	中西俊介、真世土マウ
	13	古代中南米デザイン研究による国際授業	真世土マウ
	14	気づきのユーモアを対象にしたビジュアルリテラシーの研究（3）	西田麻希子、吉原直彦
	15	総社市 洪水・土砂災害ハザードマップ（デジタル版）の多言語化	齋藤美絵子、菊井玄一郎、但馬康宏、宇田一平　他
	16	リスクコミュニケーションを助ける視覚情報の研究	齋藤美絵子、菊井玄一郎
	17	非漢字圏の日本語学習者に向けた漢字アニメーション教材の制作	山下万吉
	18	積層で創る陶磁器造形の可能性	作元朋子
	19	独自技法による染色造形表現研究	樫尾 聡美
	20	高齢者向けの携帯端末のインタレクションルール研究	石　王美

企業・団体展	㈱英田エンジニアリング、青山茶舗、特定非営利法人アムダ、井原精機㈱、インタロボット㈱、片山工業㈱、倉敷成人病センター、㈱中国銀行、㈱テオリ、林兼産業㈱、冨士ベークライト㈱、㈱フジワラテクノアート、円岩盤石開発センター㈱、㈱マルト水産、わが街健康プロジェクト。事務局、岡山県産業振興課、総社市役所政策調整課	
	津山ホルモンうどん、日生カキオコ、矢掛テンペ、県大米粉麺	地域の食

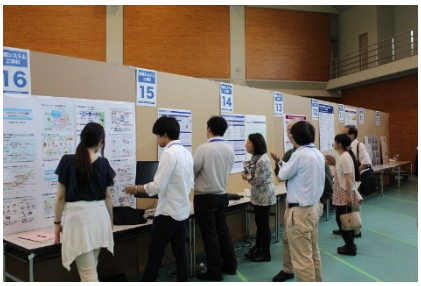
《会場写真》

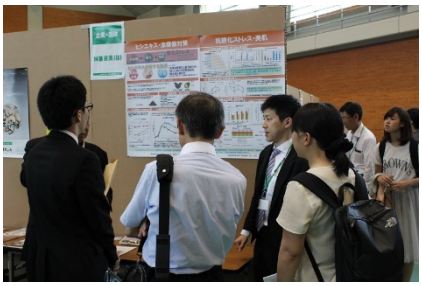
【会場】

【講演会場入口】

【清水氏講演風景】

【展示会場受付】





【パネル展示】

【大学院相談】

【企業展示】

【地域の食】

【健康測定】

【ｳｨﾝﾄﾞｵｰｹｽﾄﾗ】

【交流会】

３．１－４　情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と、学内の教員等の外部情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は以下の取り組みを行った。

（１）県内での本学の研究シーズ等の外部発信

研究シーズ等の情報発信では、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズを発信したものと、本学の産学連携の取り組みを紹介したものについて本年度の主な取り組みを取り纏めた。

本年度は 3 つのイベントで延 28 名の教員が発表を行った。

県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信（学会等の発表を除く）

行事概要	
発表テーマ	教員名
第 21 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会 日時：平成 29 年 1 月 18 日（水）～19 日（木）10：00～17：00 場所：コンベックス岡山（岡山市北区大内田） ※プレゼンテーション実施	
瞳孔反応による共感コミュニケーション技術	佐藤洋一郎　教授 瀬島吉裕　助教
歩行補助車走行時の段差乗り・降りを容易にする人間工学に基づく自在ペダルの開発　※	中村孝文　教授
機械的伸展刺激を利用した心腎連関の新しい in vitro モデル	入江康至　教授
シンボルマーク・ロゴタイプによる組織イメージの創出	野宮謙吾　教授
人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺富夫　教授 石井　裕　准教授
放射光による微細加工と高周波デバイスへの応用	岸原充佳　准教授
人指のような柔らかい把持・操りができるロボットハンドの開発と制御	井上貴浩　准教授
目立ち度の見える化技術と福祉・デザイン支援への応用	滝本裕則　助教
地域資源を活かした持続可能な高齢者の福祉住環境に関する研究	朴　貞淑　講師

行事概要	
発表テーマ	教員名
平成２８年度　県立研究機関協議会研究交流発表会 日時：平成 29 年 2 月 22 日（水）13：40～16：00 場所：岡山県立大学（8901、8902 教室） ※プレゼンテーション実施	
人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺富夫　教授
軽金属鋳造合金の高強度化・高性能への試み	尾崎公一　教授
第五世代携帯電話用高周波集積回路の基礎的研究	伊藤信之　教授
目立ち度の見える化技術と福祉・デザイン支援への応用	滝本裕則　助教
歩行補助車、シルバーカー等の段差乗り・降りを容易にする人間工学に基づく自在ペダルの開発研究　※	中村孝文　教授
機械的伸展刺激を利用した心腎連関の新しい in vitro モデル	入江康至　教授

行事概要	
発表テーマ	教員名
次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会 日時：平成 29 年 3 月 10 日（金）13：00～16：00 場所：岡山プラザホテル（岡山市北区絵図町 2－4） ※印プレゼンテーション実施	
高周波・アナログ LSI の設計・評価　※	伊藤　信之　教授
計算機シミュレーションによる材料機能の予測	末岡　浩治　教授
人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺　富夫　教授
エネルギ保存を考慮した画素値分布推定手法	佐藤洋一郎　教授 山内　仁　准教授
空調機統合型電動式移動体(AI-EV)を用いたスマートシステム	中川　二彦　教授
表計算ソフトに適した変圧器励磁突入電流の数値計算方法に関する検討	徳永 義孝 准教授
鋳造アルミ合金の強度特性評価	福田 忠生 准教授
２次元共振器半導体レーザの設計・評価	福嶋 丈浩 准教授
鋳造解析技術	尾崎　公一　教授
無線 LAN プロトコルの性能評価法、改善法の提案と開発	榊原　勝巳　教授

（２）県外での情報発信の取り組み

本年は下記箇所で発信を行った。（3 つのイベントで 6 回の発信）

ひろしま産業創造センター依頼のプレゼンテーション	
日時・場所・テーマ	教員名
平成 28 年 7 月 27 日　広島市 「医療福祉機器技術事業化交流会」 【健康づくりのための最適な身体活動を定量するために評価すべき生体情報】	綾部誠也　准教授
平成 28 年 9 月 16 日　広島市 「医療福祉機器技術事業化交流会」 【非同期システム化によるデジタル回路の低消費電力化とその医療機器への応用】	佐藤洋一郎　教授
平成 28 年 11 月 12 日　福山市 「電子デバイス事業化フォーラム」 【ロボットによる言語と動作の学習】	岩橋直人　　教授

イノベーション･ジャパン 2016 日時：平成 28 年 8 月 25 日（木）～26 日（金）9：30～17：30 場所：東京ビッグサイト（東京都江東区有明 3－11－1） 展示及び口頭発表	
人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション支援	渡辺富夫　教授
機能性ポリフェノール成分の同定とその生体内代謝産物の機能性	伊東秀之　教授

中国地域さんさんコンソ新技術説明会 日時：平成 28 年 11 月 1 日（火）9：45～16：00 場所：JST 東京本部別館ホール（東京都千代田区五番町７）	
食品素材に含まれる機能性ポリフェノール成分の同定と分析	伊東秀之　教授

３．２　産学官連携推進センター

３．２－１　企業等と連携した研究活動

平成２８年度は第２期中期計画の４年目に当たる。中期計画で他の各研究の目標件数は、それぞれ年平均で共同研究４０件、受託研究４０件、教育研究奨励寄付金等４０件である。

平成２８年度の目標件数と実績について、共同研究は目標４０件に対して実績４８件、受託研究は目標３０件に対して実績１８件、教育研究奨励寄付金等は目標４０件に対して実績４９件となった。金額面で見ると全体で目標１０５，０００千円に対して８８，６４２千円と及ばなかったものの、件数で見ると共同研究、教育研究奨励寄附金等ともに昨年度実績を上回った。

一部を除いて地場の中小企業においては未だ経営環境が厳しく、交流会などでコーディネータに相談はあるものの共同研究又は受託研究に繋がるものは少ない状況であるが、今後とも、地域に根ざした本学の存在感を出すべく活発な産学官連携活動を進めるとともに、相談に対して敷居の低い大学として地元企業に認められるよう一層の努力をしていく。

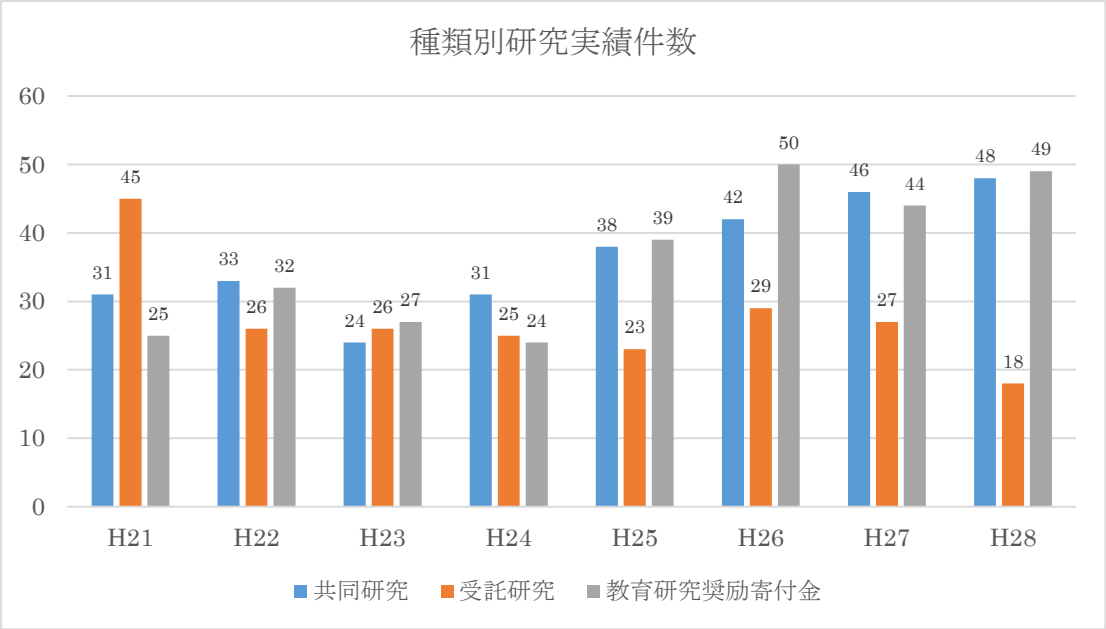


図 3.2-1 種目別研究実績件数

（１）共同研究

産学官連携推進センターは普段からの自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に参加することにより企業ニーズの探求をしてきた。近年、金融機関が産学金官の連携に注力していることから、金融機関からの紹介件数が増えている。各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年の共同研究の件数は４８件となった。

（２）受託研究

受託研究は公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多い。この研究はここ数年１８～２９件で推移している。公的機関からは各種事業に関係した啓発的なデザインの受託研究が多かった。

本年の総数１８件のうち半数以上が情報工学部で実施したものである。

（３）教育研究奨励寄付金等

教育研究奨励寄付金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄付されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。件数は４９件で、目標値の４０件を上回り、過去実績では２番目に多い件数であった。今後ともニーズにあった社会貢献に取り組みたい。

（４）外部競争的資金への応募支援

産学連携コーディネータが関与する外部競争的資金としては JST の A－STEP（シリーズ探索型など)、中国産業創造センターの新産業創出研究会などが該当する。

３．２－２　アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ（出前研究室）は教員とコーディネータが企業・団体に出向き、本学研究シーズ紹介、訪問先企業の抱えている課題ヒアリングや情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先は日常的な技術相談や産業支援機関からの紹介で決まる場合が多い。事前に企業情報を入手して概略の把握をしてから訪問している。

アクティブ・ラボ実施状況

訪問先で意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究をするに到るケースもある。本年度は２４企業・事業所を訪問し延べで３４名の教員が参加した。学部別では保健福祉学部が５名、情報工学部が１８名、デザイン学部が１１名であった。

平成 28 年度　アクティブ・ラボ実績

回	日付	教員	回	日付	教員
1	4 月 15 日	森下眞行 教授（デ） 穂刈真樹 教授（情）	17	10 月 21 日	小武内清貴 助教（情）
2	4 月 27 日	山下明美 教授（デ）	18	11 月 4 日	林秀紀 助教（デ）
3	4 月 27 日	尾崎公一 教授（情）	19	11 月 10 日	林秀紀 助教（デ）
4	5 月 10 日	福田忠生 准教授（情）	20	11 月 16 日	尾崎公一 教授（情）
5	5 月 18 日	高戸教授･市川准教（情） 村木克爾 （デ）	21	12 月 9 日	福田忠生 准教授（情）
6	5 月 23 日	林秀紀 助教（デ）	22	12 月 12 日	伊藤信之 教授（情）
7	5 月 26 日	尾崎公一 教授（情）	23	12 月 27 日	林秀紀 助教（デ）
8	6 月 6 日	林秀紀 助教（デ）	24	1 月 24 日	尾崎公一 教授（情）
9	6 月 8 日	田中晃一 准教授（保）	25	1 月 31 日	林秀紀 助教（デ）
10	6 月 10 日	福田忠生 准教授（情）	26	1 月 31 日	尾崎公一 教授（情）
11	7 月 5 日	尾崎公一 教授（情）	27	2 月 24 日	小武内清貴 助教（情）
12	7 月 29 日	田淵真愉美 准教授（保）	28	2 月 28 日	中西俊介 准教授（デ）
13	9 月 15 日	田中晃一 准教授（保）	29	3 月 8 日	作元朋子 講師（デ）
14	9 月 30 日	田中晃一 准教授（保）	30	3 月 31 日	齋藤誠二 准教授（情）
15	9 月 30 日	福田忠生 准教授（情）	31	3 月 31 日	田中晃一 准教授（保）
16	10 月 7 日	尾崎公一 教授（情）			

（凡例）　(保)：保健福祉学部、(情)：情報工学部、(デ)：デザイン学部

３．２－３　学外組織との連携・協働活動

産学官連携推進センターでは各金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催するセミナー、交流会、相談会等のイベントに積極的に参加した。これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズとのマッチング、情報収集並びに人的交流を行っている。

（１）各種支援機関との協働

① 岡山・産学官連携推進会議

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体、行政、支援機関及び大学等県内の主要機関（２０機関）が連携して平成１５年に設立されたものであり、「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っている。産業界６、大学等１３、行政４、その他６機関の計２９機関で構成されている。

ア　産学官連携交流会

平成２２年度から地域産業団体、企業と大学・研究者との交流を目的として開催されている。近年笠岡市、新見市でも開催されている。

【本年度の活動】

◆産学金官連携フォローアップセミナー　１回

② 岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業・大学・研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われている。第２１回を迎えた本年は本学から１０件の展示を行い、うち１件のプレゼンテーションを行った。また、会場は昨年から開催が始まった「おかやまテクノロジー展２０１７」と同じコンベックスで行われた。

【本年度の活動】

◆研究・展示発表会　１回

③ 県内支援機関

ア　岡山県産業振興財団

【本年度の活動】

◆各種セミナー　４回

◆支援制度説明会　２回

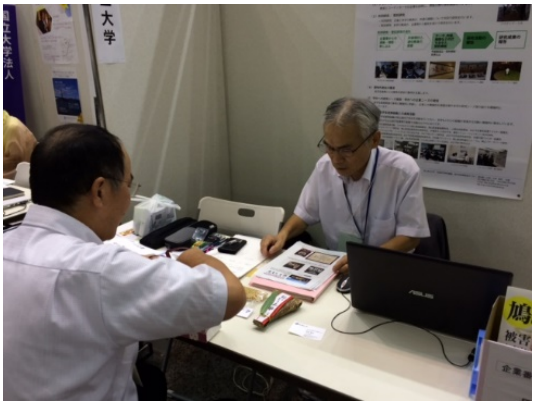
イ　岡山県中小企業団体中央会

【本年度の活動】

◆事業説明会　１回

④ 金融機関との連携活動

本学は平成２０年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の三行と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。本年は中国銀行及びおかやま信用金庫のビジネス交流会に参加した。県内の信用金庫などが合同で行う「しんきん合同ビジネス交流会」にも参加した。昨年から開催が始まった「しんくみビジネスマッチング（笠岡）」にも参加している。



しんきん合同ビジネス交流会

【本年度の活動】

◆おかやましんきんビジネス交流会　１回

第１８回　平成２８年４月１９日　コンベンションセンター　相談件数：３件

◆しんきん合同ビジネス交流会　１回

第２回　　平成２８年１１月９日　笠岡総合体育館　　相談件数：５件

◆中国銀行　６次産業化交流会　１回

平成２９年３月１６日　中国銀行本店　　相談件数：３件

◆トマト銀行　トマト・アグリフードフェア２０１６　１回

平成２８年７月２０日　岡山コンベンションセンター

◆信用組合合同（笠岡）しんくみビジネスマッチング　１回

平成２８年１１月９日　笠岡総合体育館　　相談件数：６件

⑤ 県立研究機関協議会

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り地域振興に資するため設置された協議会である。

【本年度の活動】

◆一般会議　３回

◆機関長会議　１回

◆平成２８年度県立研究機関協議会研究交流発表会

平成２９年２月２２日　岡山県立大学

⑥ さんさんコンソ（中国地域産学官連携コンソーシアム）

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）に、岡山大学・鳥取大学が共同で応募し採択され、平成２０年度から同受託事業として実施されてきた。平成２４年度をもって文科省事業としては終了したが、平成２５年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

【本年度の活動】

◆コーディネータ会議　２回

⑦ その他

その他に以下の機関が主催した交流会やセミナーに参加した。

◆岡山市、◆浅口市、◆農工商ネットワーク、◆鳥取県産業振興機構

◆西日本医系大学知的財産管理ネットワーク、◆津山産業支援センター

◆岡山商工会議所、◆岡山県異業種交流プラザ

（２）技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働

ミクロものづくり岡山推進会議

ミクロものづくり岡山推進協議会は、精密生産技術を核とするミクロものづくり産業クラスターの形成に向け、ミクロものづくりに関係する企業、大学、産業支援機関等で構成されている。地域の総力をあげた取り組みを円滑かつ効果的に展開するため、関係者の意識の統一を図るとともに、事業推進に当たっての基本方向について協議決定することを目的として、平成１６年８月に設立された団体である。

技術別の活動としては「半導体ネットおかやま」、「解析シミュレーションネットＯＫＡＹＡＭＡ」、「おかやま電池関連技術研究会」、「おかやま生体信号研究会」などのサブネットがある。

ア　解析シミュレーションネットＯＫＡＹＡＭＡ

本学情報工学部の福田忠生准教授が副会長を務める会で、本年度は岡山理科大学自然科学研究所と共催でシンポジウムを開き二人の教員が発表をした。

内部に４つの解析グループを持ち講習会やセミナーを行っている。

【本年度の活動】

◆運営委員会等　４回

◆例会　２回

イ　おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関連する技術の研究を対象としている。具体的には、生体信号の計測・処理技術，生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

【本年度の活動】

◆定例会　２回

３．３　地域連携推進センター

３．３－１　地域連携プロジェクト

平成 28 年度初頭、本センター開設にあたり、「戦略的な地域貢献の取組の推進」を実現するための戦略的目標として、以下の 3 つを設定した。

【戦略的目標】

1）すべての世代が住み易く、活力・魅力のある地域づくり

2）地域の特徴を活かした地場産業の創生・成長

3）地域に必要とされる人材の育成・輩出

そして、これらの戦略的目標を実現するための取組として、

・地域の課題の掘り起しとその解決に関する取組

・地場産業の創生・成長に関する取組

・人材の育成・輩出に関する取組

を掲げた。平成 28 年度は、このうち、「地域の課題の掘り起しとその解決に関する取組」の一環として、地域のニーズに対応した本学シーズのプロジェクト化について重点的に活動を行った。

本年 6 月 10 日から 20 日に、学内シーズの把握を目的に、「岡山県内における地域連携活動の実施状況」に関する調査を実施した。この結果、下表のとおり回答があった。

学　　部	学　科　名	活動件数
保健福祉学部	看護学科	13
	栄養学科	7
	保健福祉学科	17
情報工学部	情報通信工学科	0
	情報システム工学科	13
	人間情報工学科	14
デザイン学部	デザイン工学科	8
	造形デザイン学科	12
合　　計		84

ただし、情報通信工学科については、今回の調査が、自治体や地域団体等との連携活動に限定していると勘違いしたため、0 件となっている。

回答のあった活動から、産学官連携推進センターにかかわるものを除いたものを分類した結果、健康増進関連、福祉推進関連、子育て支援関連、学習支援関連、まちおこし関連、地域ブランド化関連、アート関連、食育関連および ICT 関連に分類されることが分かった。

そこで、活動地域等により再分類を行い、下記の 4 つのプロジェクトを立ち上げた。
（１）健康福祉関連プロジェクト（主に、笠岡市）
（２）子ども関連プロジェクト（主に、総社市、岡山市）
（３）まちづくり関連プロジェクト（主に、真庭市）
（４）アート・食育・ICT 関連プロジェクト（主に、備前市）

これらのプロジェクトに対して、同センター幹事を各 2 名割り当て、下記の活動を実施した。

・「おかやま健康応援プロジェクト」（１）の関連
　代表：綾部准教授（人間情報工学科）
　共同実施者数：6 名
・「勝山シェアハウスプロジェクト」（３）の関連
　代表：津田准教授（デザイン工学科）
　共同実施者数：3 名
・「保健師と助産師の連携から相互に向上させる母子保健指導スキル」（２）の関連
　代表：池田准教授（看護学科）
　共同実施者数：2 名
・「勝山における地域資源を活かした持続可能な福祉住環境の構築」（３）の関連
　代表：朴講師（デザイン工学科）
　共同実施者数：1 名
・「生活構成材料の物性評価と生活の質（QOL）・快適性向上への適用」（１）の関連
　代表：島﨑助教（人間情報工学科）
　共同実施者数：4 名
・「ロボットを用いたプログラミング教育支援」（４）の関連
　代表：福田准教授（情報システム工学科）
　共同実施者数：2 名

これらの成果を踏まえ、平成 29 年度岡山県立大学地域連携事業を策定し、平成 28 年 2 月に公募を行った。その結果については、平成 29 年度の本誌で報告を行う。

３．３－２　各種連携活動

（１）COC+事業について

①COC+事業における地域連携推進センターの役割

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業)」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、高等教育機関、自治体、企業、NPO 等と協働して、学生にとって魅力ある雇用を創出・開拓すると同時に、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援するものである。本学が代表校として採択された課題は、「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」であり、教育改革、域学連携及び産学連携の 3 つの主要な活動で構成される。詳細は、本誌 2. 1「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を参照されたい。

地域連携推進センターが主に担当するのは、域学連携であり、以下の項目の実施が計画されている。詳細は、本誌 2.1.3 を参照されたい。

ア　地域創生コモンズの設置と運営

本学と包括提携を締結している総社市、備前市、真庭市及び笠岡市に、域学連携、教育改革及び産学連携の場となる「地域創生コモンズ」を設置した。

イ　地域の課題の掘り起こしと解決

大学、自治体、NPO 団体及び地域が、公開講座や地域協働講座を開催することで、課題の掘り起しや解決策の検討を行った。

ウ　研究シーズの有効利用による地域の活性化

研究シーズを、「地域創生コモンズ」を活用したワークショップを開催することで地域貢献への道筋を議論した。重点テーマとしては、「子育て支援」、「困窮家庭の児童・生徒支援」「高齢者・障害者支援健康づくりとモニター」、「食育支援」、「防災・減災支援」及び「まちづくり支援」等が挙げられる。

②COC+事業に係る活動実績

ア　実施体制の整備について

COC+事業における域学連携活動は、COC+推進企画委員会の下に設置された域学連携 WG が主体となって推進することとなっている。域学連携 WG の業務は、

(1)本学が進める域学連携事業の開発に関すること

であり、

①地域連携推進センター副センター長（グループ長）

②地域連携推進センター幹事（副グループ長）

③地域連携推進センター幹事（2 名）

④本学教員
⑤COC+推進室員
により構成した。本年度は、地域連携推進センター会議と合同で開催し、平成28年4月27日に第1回目を開催し、以後、5月18日、6月8日、7月13日、8月31日、11月10日、12月22日、1月12日、2月16日、3月16日の計10回開催した。

イ　地域創生コモンズについて

下記のとおり開設した。詳細は、本誌2.1-3-1を参照されたい。

・地域創生コモンズ まにわ
開所日：平成28年4月25日（月）
所在地：真庭市勝山振興局1階（真庭市勝山53-1）
担当窓口：真庭市勝山振興局地域振興課

・地域創生コモンズ そうじゃ
開所日：平成28年10月14日（金）
所在地：総社市清音福祉センター2階（総社市清音軽部1135）
担当窓口：総社市総合政策部政策調整課

・地域創生コモンズ びぜん
開所日：平成28年11月9日（水）
所在地：備前市日生地域公民館1階（備前市日生町日生241-87）
担当窓口：備前市総合政策部企画課

・地域創生コモンズ かさおか
開所日：平成29年3月18日（土）
所在地：笠岡諸島交流センター内（笠岡市笠岡2435-2）
担当窓口：笠岡市政策部企画政策課

ウ　研究シーズの有効利用による地域の活性化について

以下のような活動を実施した。詳細は、本誌2.1.3-1を参照されたい。

・高齢者・障害者支援健康づくりとモニター：新規重点枠「笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援活動」として実施。
・食育支援：備前市における地域連携活動による食育の推進　　等

（２）地域連携活動について

主な地域連携活動は以下のとおりである。

①笑顔がすてき健康かつやま 21 大会の共催（平成 28 年 10 月 22 日）

COC＋事業の域学連携の一環として、本学の地域連携推進センターが主体となり、勝山文化センターで「笑顔がすてき健康かつやま 21 大会」を開催した。

約 50 名の住民の方を対象に身体機能の測定（形態・身体組成・血管年齢・柔軟性・足圧分析など）を本学の人間情報工学科（情報系工学研究科）の学生 8 名と教員 3 名が実施した。

第16回
笑顔がすてき健康かつやま21大会
平成28年10月22日(土)
会場：勝山文化センター
テーマ「地域で作る健康づくり」
13:00 受付 測定・試食 ☆健康機器による測定（身体組成、動脈硬化、骨密度 など）
☆試食『朝食を食べるためのひと工夫』
☆地産地消 特産品販売
14:30 開会
14:40 講演「運動とアンチエイジング ～自宅でできる簡単健康法～」
講師 岡山県立大学情報工学部 准教授 綾部 誠也 氏
15:40 閉会
岡山県立大学による身体測定
時間 10:30～14:30
場所 勝山文化センター 憩いの部屋
※動きやすい服装でお越しください。
※身体組成、動脈硬化、骨密度などの測定ができます。
●主 催● 笑顔がすてき健康かつやま21実行委員会
●協 賛● 岡山県立大学地域連携推進センター

②ＤＶ防止及び配偶者暴力相談支援センター周知チラシの作成

倉敷市との協働で、高梁川流域圏域市町※1、岡山県立大学と連携し、配偶者暴力相談支援センターである倉敷市男女共同参画推進センター及び高梁川流域圏域市町における DV 相談窓口の周知と DV 防止の啓発を目的にチラシを作成した。

配布するチラシのデザインは岡山県立大学デザイン学研究科　森本早智さんが担当したオノマトペ※2 の表現を利用した印象的なデザインとなった。

※1：高梁川流域圏域市町…新見市、高梁市、総社市、早島町、倉敷市、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市

※2：オノマトペ…自然界の音・声、物事の状態や動きなどを音(おん)で象徴的に表した語。音象徴語。擬音語・擬声語・擬態語など。

③その他

以下に主な項目のみ示す。

(A) 新規重点枠「笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援活動」(情報工学部・綾部准教授)

(B) 新規重点枠「コミュニティ・パートナー育成事業」
(保健福祉学部・二宮教授)

(C) 真庭市久世地域を拠点とするまちづくり市民団体「まにワッショイ」と連携し、H28 年秋の飲み歩きイベントを見据えた、久世・勝山地域ののみどころ MAP の制作(デザイン学部・三原准教授)

(D) 新庄村「地域おこし協力隊受入態勢事業」への参画
(デザイン学部・三原准教授)

（３）まとめと今後の課題

本年度は、主に、COC+事業の域学連携に係わる活動を行っており、本学が初めて国家的な大型プロジェクトに採択され、貢献できたことは大きな成果と言える。また、COC+事業の目玉である地域創生コモンズについては、計画通り、真庭市、総社市、備前市及び笠岡市に開設することができた。さらに、昨年度実現できなかったプロジェクトの立上げとそれを発展させた公募型の「平成 29 年度岡山県立大学地域連携事業」を策定できたことは、特筆に値する成果と考えている。

しかし、地域のニーズに応え切れていないものもあり、今回対象となっていない本学教員の活動もあり、他大学との協働も十分行えているとは言えない状況である。

以上から、平成 29 年度に向けた主な課題を以下に列挙する。

◇COC+事業における「域学連携」活動との連携強化

◇地域創生コモンズの利用促進

◇地域連携活動の新たなプロジェクトの模索

◇岡山県立大学の地域連携活動の積極的な広報

◇小さな地域連携活動の掘り起こしと支援

３．４　保健福祉推進センター

３．４－１　晴れの国鬼ノ城カレッジ

（１）概要

保健福祉推進センターでは、地域の人々の健康づくりや福祉、地域貢献の推進に資することを目的に、毎年「鬼ノ城カレッジ」を実施している。今年度は、「運動と介護予防　～スロージョギングで人生が変わる～」をテーマにスロージョギング健康法、健康力を上げるスロージョギングについて超高齢化における心地よい暮らしのヒントの講演をしていただいた。

（２）実績

日　時：　平成２８年１１月１２日（土）１０：００～１２：００

場　所：　岡山県立大学　学部共通棟南　8206 大講義室

主　催：　岡山県立大学　保健福祉推進センター

テーマ：　運動と介護予防～スロージョギングで人生が変わる～

講　師：　福岡大学スポーツ科学部教授　田中宏暁

参加者：　７２名

講演内容：　スロージョギングは通常のジョギングよりもゆっくり走るジョギング法で、ためしてガッテンや世界一受けたい授業等多くのメディアでも紹介され、天皇陛下ご夫夫妻の普段着を着用したスロージョギング場面や海外の女優や様々な地域住民がスロージョギングに取り組み健康力を上げている場面を紹介された。

スロージョギングは、年齢を問わず誰でもどこでも気軽に実施できるジョギングで、ダイエット効果だけではなく認知症予防、がん予防、アンチエイジングなど健康の維持増進に効果があることを田中教授の研究結果を基に紹介された。スロージョギングは、①背筋を伸ばしヒジを軽く曲げる　②足の指の付け根が地面に付くようにする　③普段自分が歩く歩幅の半分ぐらいの歩幅でリズムよく走る、身体に縦軸の負荷がかかる軽い運動を続ける走り方で、田中教授が走り方のお手本を示された。運動不足の人や高齢者、膝や腰痛がある人にも「ニコニコペース」でゆっくり走り、自分にあった適切な運動速度で行う走りは健康づくりに最も好ましい有酸素運動であると述べられた。

（３）評価と来年度の課題

平成 29 年からは保健福祉推進センターを廃止し、地域連携推進センターに統合することが予定されているので、鬼ノ城カレッジの開催予定はない。

３．４－２　各種研究会活動

（１）地域看護学研究会

①　概要

本研究会は、地域看護の実践現場で遭遇する課題を研究的な視点から捉え、実践力を高めることを通して、地域の人々へのより適切な支援に資することを目的としている。本年度は、保健師活動の可視化のためのデザインに関する基本を学び、パンフレット作製の成果につながった。また、保健師活動における住民ニーズ等の質的情報を分析するために有用なソフトの活用について学んだ。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	8 月 6 日(土) 13 時～15 時 岡山県立大学保健福祉学部棟 6511 教室	保健師活動の可視化とデザイン（ワークショップ）	本学デザイン学部造形デザイン学科 北山由紀雄 准教授	誰に、何を、どう伝えたいのかの 3 点を明確にし、ストーリーで捉える等、デザインの基本的な知識について学んだ後、「保健師活動の可視化」をテーマにワークショップを行った。結果、高校生を対象に保健師の魅力を発信するパンフレット作製のためのコンセプト案の合意を得た。参加者からは、保健師活動をデザインの力で可視化することの意味や方法に知的刺激をうけ、好評であった。	10 名
第2回	2 月 26 日（日） 10～13 時 ピュアリティまきび	保健師のためのソフト活用による質的分析（ワークショップ）	元神戸市看護大学教授 服部兼敏 先生	保健師活動における住民の声など質的データを整理分析するためのソフト活用について講義をうけ、デモデータを用いて演習した。 事前に資料配布していたが、ソフト活用の意義の理解とデータ分析前の準備操作までの段階にとどまった。しかし、現場のニーズ収集方法等については見識が広がり、有意義であった。	７名

③　今後の展望と課題

本年度は、現場の保健師が直面している課題を解決するための考え方や方法について、ワークショップを行った。少人数ではあるが、実際の成果につながるには有効な方法である。今後は、この学びを活かして成果発表ができるよう計画的な企画・運営に努めたい。

（２）栄養学研究会

①　概要

会員は医療・福祉施設、学校、行政、地域活動栄養士、教育研究機関などに勤務する、あらゆる分野で活躍している栄養士・管理栄養士である。今年度は、昨年度実施したアンケートの結果をふまえ、どの分野でも興味の持てる共通のテーマとして食育、高齢者栄養とコミュニケーションのスキルアップに関する内容とした。また、参加者の交流を深めることを目的として第４回には郷土料理の伝承として調理実習を実施した。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	8月27日（土） 14:00-16:00 岡山県立大学共通棟（東） 8903室 対象:栄養学研究会会員他	在宅における栄養サポート	（医）青木内科小児科医院 あいの里クリニック次長 管理栄養士 介護支援専門員 森光大先生	地域包括ケアシステムにおける要介護者に対する栄養アセスメントの重要性についての講演であった。管理栄養士の介入後、いろいろな改善した症例を提示しながら、一人ひとりにあったアセスメントのポイントをつかむスキルをプロとして備える必要がある。 福祉施設からの参加者が、明日からの仕事へのエネルギーをもらったと好評であった。	9名
第2回	10月1日（土） 9:00-10:30 場所:岡山県立大学共通棟（東） 8904室 対象:栄養学研究会会員･本学学生他	0歳からの食育	県立大学栄養学科教授 久保田恵先生	実際の授乳期や離乳期に食事で困っていることから見えてくる課題を４つ挙げ、どのように指導して行けば良いかをお話いただいた。 ①遊び食い・小食、食事に時間がかかる ②丸呑み、良く噛んでいない	24名

				③偏食 ④料理のレパートリー、調理時間が少ない ５・６ヶ月ごろから１歳半頃、１歳半から２歳頃、３歳頃までの３つのステップに分けての赤ちゃんの咀嚼・嚥下の生理と歯の生え方に関連した具体的な食育のお話であった。	
第３回	11 月 12 日(土) 13：30-15:30 岡山県立大学 8206 対象：一般・栄養学研究会会員・本学学生	鬼ノ城カレッジとの共催 「運動と介護予防　～スロージョギングで人生が変わる～」	福岡大学スポーツ科学部教授 田中宏暁先生	田中先生は天皇皇后両陛下にスロージョギングを指導されている。エビデンスに基づき スロージョギングの効果について講演いただいた。方法は両脇を締め、歩行幅の半分位を 60 秒ゆっくりジョギング、次に 30 秒の歩行を行う。	72 名
第４回	２月４日（土） 10：00-10:40 ①講演 10：50-13：00 ②調理実習 岡山県立大学 8111, 8107 対象:栄養学研究会会員・本学学生他	①コミュニケーションスキルアップ「こんな風に人間関係をくぐりぬけて 50 年」 ②郷土料理、昔の料理を後世に伝えよう	岡山県栄養士会顧問 小林計子氏	管理栄養士の大先輩から多くのことを教えていただいた。 ・人とのかかわりの基本は自分から声をかけること。 ・仕事に対する姿勢として管理栄養士として自分は何ができるかを問いながら常に対象者の気持ちに寄り添うこと。 ・調理実習では、食事はおいしく、楽しいものでないといけない。そのための料理の基本と調理の真髄を教えていただいた。 実習メニュー：蒜山おこわ、ぶり大根、ほうれん草のかき玉汁、イチゴあめ	12 名

保健福祉推進センターの栄養学研究会は今年度で終了とする。専門職としての栄養士・管理栄養士の知識・技術の向上や研究活動により、さらに専門性を高めることを目指して開催したが、当初の目的をほぼ達成できたと思われ、参加者の減少もあり、終了するに至った。

（３）保健福祉研究会

①　概要

保健福祉研究会では、広く保健福祉領域に関心のある専門職の人々を対象に、さまざまな実践現場での疑問（臨床疑問）を手掛かりに、それを研究へと発展させていくための「実践」と「研究」の架け橋となるような研究会の運営を目指している。

本年度は、前半（1 回，2 回）は、「概念と測定」、「研究デザイン」などを中心に、実践現場で生じた疑問を研究疑問へと発展させていくプロセスの中で、研究としての概念の扱い方や測定方法、倫理的課題など、研究計画のあり方への理解を深めることができた。

また、後半（3 回，4 回）では、これまでの研究の進め方を基礎に、実際の資料を用いたデータ解析演習を行い、解析結果の基本的な読み取り方、推測統計の考え方など、量的研究における統計解析の理論と実際について理解を深めることができた。

最後に、質的研究としてインタビュー調査の概要についての講義を交えることで、最終的に量的研究と質的研究のそれぞれの長所や短所、活用場面など、研究会会員の中で共有することができた。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	9 月 3 日（土） 10：00～12：00 保健福祉学部棟 6614 教室	現場で活かす研究の進め方 （Part3）	保健福祉学科 桐野匡史	第 1 回目の研究会では、現場で活かす研究の進め方として、主に「概念と測定」の視点から講義が行われた。また、参加者によるディスカッションの結果、今後は研究の進め方と併せて、調査研究に必要な演習を含めた内容にしていくことが確認された。	3 名（会員）
第2回	10 月 14 日（金） 19：00～21：00 保健福祉学部棟 6614 教室	現場で活かす研究の進め方 （Part4）	保健福祉学科 桐野匡史	第 2 回目の研究会では、第 1 回目の講義に行われた講義の補足に加えて、「研究デザイン」の視点から講義が行われた。併せて、参加者との協議の結果、実際のデータ分析等を通じて、体験的に理解を深めていく内容にすることが確認された。	3 名（会員） 2 名（非会員）

第3回	11月25日（金） 18：30～21：00 保健福祉学部棟 6614教室	データ解析の実際Ⅰ	保健福祉学科 澤田陽一	第3回目の研究会では、これまでの研究の進め方や研究方法を基礎に、データ解析の実際について演習形式で取り組んだ。研究会の前半では、データ解析に必要な基礎知識について振り返り、後半では分析に必要な条件や解析結果の読み取り方等について実際のデータ解析を踏まえて取り組んだ。	3名(会員) 1名（非会員）
第4回	1月19日（木） 18：30～21：00 保健福祉学部棟 6614教室	データ解析の実際Ⅱ インタビューのポイント	保健福祉学科 澤田陽一 保健福祉学科 周防美智子	第4回目の研究会では、前回の研究会に引き続き、実際のデータを用いて演習形式でデータ解析を行った。また後半では、インタビュー（質的研究）の手法についても紹介され、量的研究と質的研究のメリット、デメリットを踏まえた研究のあり方について、討議が行われた。	3名(会員) 1名（非会員）

保健福祉推進センターの保健福祉学研究会は今年度で終了とする。保健福祉領域の専門職としての知識・技術の向上や研究活動により、さらに専門性を高めることを目指して開催したが、当初の目的をほぼ達成できたと思われ、参加者の減少もあり、終了するに至った。

（4）介護福祉研究会

①　概要

日本の介護の最近の大きなトピックは「災害介護」と「認定介護福祉士」ではないだろうか。日本のどこで起きてもおかしくない地震、津波、洪水、大火事など災害に介護福祉はどう向き合っていけばいいのか。事業所の被災、在宅の被災、遠方でのボランティア等々に対して日頃の準備と被災時・被災後の行動のポイントは何なのか。また「認定介護福祉士」の制度、導入の目的、期待される業務、施設内・地域での役割、日本の介護がどう変わるのか。

本年はこの2題について、介護福祉士が今知らなければいけない情報を、専門家から提供していただきました。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	8月6日(土) 岡山県立大学 学部共通棟(南) 8126 AV室	災害ボランティア	大田井 真	演者は総社市社協の福祉活動専門員として災害ボランティアを募集、編成、派遣を行なっている。ボランティアの役割と現地での活動内容、問題点などをご自分の体験をもとに講演いただいた 。	9名
第2回	9月17日(土) 岡山県立大学 学部共通棟(南) 8206講義室	地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割 ～認定介護福祉士の動向～	太田 貞司 池淵美香	認定介護福祉士は、介護福祉士の次のキャリアパスであり、日本の介護職の質と量を確保する為に、介護チームのリーダーとして介護サービスをマネージメントし、介護と医療の連携強化を図る等地域包括ケアシステムの柱の一つとなる人材である。 認定日本介護福祉モデル研修を通じて、現場での具体的な業務内容の実践体験を話された。	58名

保健福祉推進センターの介護福祉研究会は今年度で終了とする。介護福祉領域の専門職としての知識・技術の向上や研究活動により、さらに専門性を高めることを目指して開催したが、当初の目的をほぼ達成できたと思われ、参加者の減少もあり、終了するに至った。現場からの要請があった場合など必要性があれば新たな形で企画する予定である。

（５）子どもと保育研究会

①　概要

子どもと保育研究会は、子どもの育ちをめぐる諸問題や保育の動向・方法・技術など、幅広く多彩な切り口から本学教員と現場実践者による保育･子育て支援のあり方を探求する研究会となることをめざすものである。

今年度も教員が関与する学外の研究会と共催する機会を設けることに加え、昨年度より開始した地域の子育て支援団体のネットワーク作りのためのワークショップを継続して実施する。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	10月22日（土）8901教室	園庭を考える－あそびが生まれる自然・植物環境づくり	ひじりにじいろ保育園園長 出原　大	保育の中でその重要性がなかなか見出されていないものに園庭・自然・植物などの環境があるが、子どもが自然と関わり遊ぶ姿の具体的分析を通して、なぜ幼児期に自然・植物環境が重要であるのかについてご講義頂いた。また、子どもたちと自然とを出会わせる園の環境づくりの実際を写真等で紹介して頂きながら、その創出意義について協議した。	30名
第2回	12月17日（土）清音福祉センター	わらべうた・ペンタトニックで遊ぼう	岡山県立大学 吉永早苗	乳幼児期から児童期にかけての音楽教育勉強会として、トーンチャイムやブームワッカーを用いた「わらべうた・ペンタトニック（５音音階）」の音楽遊びを体験していただき、参加者と共に、実践での応用を模索した。幼児期・児童期、そして特別支援教育におけるわらべうたやトーンチャイム等の楽器を用いた音楽活動の意義および可能性を、幅広く考えることができた。	6名
第3回	1月29日（日）岡山県立図書館	子どもを育てるのに男も女もないじゃろー！お笑いジェンダー論	東京大学 瀬地山　角	＜アクティブキャンパス・子育てネットワーク交流集会2017 との共催＞子育て支援や保育・幼児教育にとっても重要なテーマであるジェンダーについて、自身も２人の	6名

				子の保育園の送迎を一手に担い、今も夕食作りを担当する講師の経験から、日常生活に潜むジェンダーの問題について話題提供頂き、ジェンダー論の視点から次世代の社会の公共性について協議した。	
第4回	2月10日（金）清音福祉センター	子育てcafe	聞かせ屋。けいたろう	日本全国を回って絵本の読み聞かせの公演や読み聞かせ講座を行っている聞かせ屋。けいたろう氏を講師としてお招きし、子育て支援の場における絵本の活用や読み聞かせの工夫について実演を交えながらお話し頂くとともに、各地域での取り組みの紹介や実態について情報交換を行った。	11名

③　今後の展望と課題

「子どもと保育研究会」事業は来年度より、研究会としてではなく子育てカレッジ事業の一事業として、地域の子育て支援者の情報交換の場が創出できるよう継続していく考えである。

（６）コミュニティ家族ケア研究会

①　概要

コミュニティ家族ケア研究会は、地域および学校における看護の実践および研究の発展と向上に努めるため、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康支援や、支援のための他職種間連携について検討し、支援の効果を測定して成果を公表することを目的として活動している。

これまでに、養護教諭と看護職の2 職種の IPE により養護教諭向けの摂食障害児と家族への保健指導プログラムの開発を行い、「摂食障害の子どものこころと家族ケア～保健室でできる早期介入～」のパンフレットを作成したり、思春期女性の食と健康に関する研究成果を様々な角度から分析し、全国学会で発表したりしている。また、年1回研究成果の報告会を兼ねた研修会を大学内で実施している。現在は女性のライフサイクルにおける健康支援を目的とした月経教育について検討するための研究に取り組んでいる。

②　実績

	日・場所	内容	参加者
第1回	6月5日（日）12：30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	アルコール関連問題学会への投稿論文の修正、平成28年度実施予定の月経に関する研究について等。	4名
第2回	7月3日（日）12：30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	平成28年度実施の研究内容の検討等	3名
第3回	8月9日（火）13：00～ 岡山県立大学保健福祉学部棟6315室	学校生活と月経に関するアンケート調査準備、調査の今後の方針等	2名
第4回	11月13日（日）12：30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	研究の今後の進め方、今年度の研修会プログラム、第47回全国性教育研究大会への参加、次年度の計画、新メンバーの勧誘、本研究会の存続について	3名
第5回	1月21日（土）13：00～ 岡山県立大学共通棟 8902室	第3回研修会の実施 講演「女子高校生の食行動と飲酒の関連」山下 研究報告「助産師と養護教諭の連携による性教育～高校文化祭を利用した体験型集団指導の効果と課題～」岡﨑、「月経に関する最近の研究の動向」原、「高校生の現状」妹尾 講演・発表内容に関する意見交換、研修会後にアンケート調査の進捗状況、今年度の予算執行、次年度の活動について話し合った。	5名
第6回	2月12日（日）12：30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	アンケート調査結果の考察と今後の進め方、平成29年度の研究計画の検討、平成29年度の役員と役割の検討等。	6名

③　今後の展望と課題

次年度は、月経教育に関する研究成果の学会発表と、若年女性の飲酒問題に焦点をあてた新たな研究活動を始める予定である。また、8月に開催される第47回全国性教育研究大会の課題別分科会高校の部にて活動の発表が予定されているので全国に向けて情報を発信したい。研究会主催の研修会については、多くの方に参加していただけるよう時期と内容を精選することが課題である。

（７）岡山医療安全研究会

①　概要

本研究会は、研究会の開催、研究活動、会員相互の緊密な交流及び情報交換をとおして、地域の医療安全の推進に努めることを目的とした研究会である。

本年度は、昨年度に引き続き RCA 手法をテーマとした研修会と、医療事故調査制度をテーマとしたシンポジウムを開催した。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	7月2日（土） 岡山県立大学	「RCA手法を学ぶ！第2弾」	丸山雅道氏 （岡山大学病院西２階病棟・看護師長）	インシデントの分析ツールであるRCA（Root cause analysis）の基礎的知識に関する講義後、5～6 名のグループに分かれて演習を行った。演習は、インシデント事例をRCAに基づいて分析し、対策を立てるというものであった。最後に、その成果を発表し、参加者全員で共有した。	73名
第2回	9月24日（土） 岡山国際交流センター イベントホール	医療事故調査制度	北野文将氏 （名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部・弁護士） 東宮淳子氏 （東海大学医学部付属病院医療監査部医療安全対策課専任医療安全管理者・看護師） 永井裕之氏 （患者の視点で医療安全を考える連絡協議会等代表）	北野文将氏は「医療事故調査制度の概要」、東宮淳子氏は「医療安全管理者として医療事故調査制度に備える―東海大学医学部付属病院での取り組み―」、永井裕之氏は「患者・遺族の立場から医療事故調査制度に提言すること」のテーマで講演を行った。 いわゆる東京都立広尾病院事件の遺族である永井氏の講演は、医療安全に込める深い思いの詰まったものであった。	117名

③ 今後の展望と課題

29 年度は、28 年度に引き続き RCA 手法に関する研修会と、シンポジウムの開催を予定している。また、「RCA に基づいたインシデントレポートの分析と医療安全文化の変化」の研究を継続する。

29 年度は、RCA 手法に関する研修会も３回目を迎えるので、参加者をいかに確保するのかが課題である。また、企画・運営に医療施設に勤務するスタッフが新たに加わるので、医療スタッフの視点に基づいた企画の検討を進めていきたい。

（８）メンタルヘルス研究会

① 概要

岡山県内の福祉・行政・教育関係者と当事者のメンタルヘルスの現状に関する情報の共有と相互支援ネットワーク構築をねらいとして、サロン活動と研修会を開催した。

② 実績

ア スヌーズレン歌声広場（会場　県立大学　チュッピーひろば）

多感覚刺激装置（スヌーズレン）と集団歌唱を活用した様々な特性をもつ子どもの交流支援の実践方法を子育て関係者、保護者と共有することをねらいとして、年6回実施した。

・第１回６月１１日（土）、第２回７月１６日（土）、第３回９月３日（土）、
　第４回１０月１日（土）
　場所：チュッピーひろば　時間：１３時から１５時
　参加者：子どもと保護者　約１５名　学生２名　教員２名
・第５回１０月２９日（土）「人と人がつながるコンサート２０１６」出演
　場所:本学講堂　時間１４時から１６時、
　参加者：子どもと保護者約１０名、学生２０名、教員２名
・第６回１２月２４日（土）「クリスマスコンサート」
　場所：チュッピーひろば　時間：１３時から１５時、
　参加者子どもと保護者約２０名、学生１２名、教員３名、行政関係者２名

イ 音楽交流活動

「音の絵本」コンサート：１月２１日（土）場所：リズムダンス室　時間：１３時から１５時参加者：子どもと保護者　約４０名、学生１３名、教員３名、行政関係者２名

③　今後の展望と課題

子ども学コースの授業「子どもの発達と表現」を受講する学生20名の参加支援を行ったことにより、学生に地域における子どものメンタルヘルス支援の必要性を学ぶ機会を提供できた。外部の音楽家と絵本作家と本学教員との共同プログラム「音の絵本」コンサートを実施したことにより、多様な発達段階の子どもと父親を含む保護者のニーズに対応するプログラム開発ができた。

（９）エンド・オブ・ライフ・ケア研究会

①　概要

本研究会は、エンド・オブ・ライフ・ケア（最後の日々の痛みや苦しみが充分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する）に関する基本事項を網羅的に学習して、受講者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的としている。本研究会の交流を通して認定看護師・看護師・介護士・学生が共に学び合える場となるよう事例検討や共同研究、外来講師による学習会を行い、施設を超えてつながりも強まってきた。今年度は、倫理的問題と化学療法の曝露に焦点化した。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	5月14日（土） 13：30～15：00	１．オリエンテーション ２．若年性患者のエンド・オブ・ライフケア	名越恵美	１．今年度の予定 ２．若年性がん患者の特徴 ３．壮年期のがん患者と家族の課題	12名
第2回	7月9日（土） 13：30～15：00	１．研究発表 ２．倫理的問題に関する事例検討	１．八木一江（旭東病院） ２．奥田美香（倉敷成人病センター）	１．「若年性脳卒中患者のマスタリーに関する研究」 ２．看護師が倫理的問題を感じる終末期肝がん患者の看護介入の検討	11名
第3回	9月10日（土） 13：30～15：00	1. 高齢者のエンド・オブ・ライフケア ２．終末期がん患者の希望に関する事例検討	１．井上かおり（岡山県立大学） ２．奥田美香（倉敷成人病センター）	１．ELNEC-J の高齢者のエンド・オブ・ライフを支えるための支援 ２．外出を希望する末期のがん患者の支援について医師とのコミュニケーションの方法	8名
第4回	12月17日（土） 13：30～15：00	抗がん剤による暴露と各施設での取り組み	１．門倉康恵（松田病院） ２．遠藤康恵（岡山市民病院）	１．抗がん剤の曝露とは ２．曝露対策のゴールデンスタンダード ３．各施設での取り組み	33名
第5回	3月4日（土） 13：30～15：00	１．研究発表 ２．倫理的ジレンマに関する事例検討	１．小山直夏（岡山県立大学大学院）	倫理的自連案に直面した際の倫理的意思決定過程に関する研究	7名

③　今後の展望と課題

看取りの場が在宅・施設へ移行していることから、在宅看取りについての学習会や高齢者の看取りに関する知識・技術の共有ができるよう事例検討と共に企画内容を考えたい。

（１０）看護事例研究会

①　概要

患者へのかかわり方に解決志向アプローチを用いた効果について、平成25年から認定看護師教育センターの修了生を中心に、多施設で共同研究を行っている。今後各施設で継続して、その効果について共有し、新たなかかわり方を工夫する場として、事例検討会を活用する予定である。臨地実習の事例やかかわりが困難な事例について検討し、事例分析を通して、看護のあり方を検討する。面接の基本としている解決志向アプローチについて、専門家の講義を聞き、実践に活かす力を養うことを目的とする。

昨年度は、本学で実習の事例を中心に事例検討を行ったが、今年度は、参加希望者の多い病院に出張して、2カ月に一度、事例検討会を開催した。

②　実績

１．　6月20日　水島中央病院　2事例検討　15名
２．　8月30日　水島中央病院　2事例検討　13名
３．　10月25日　水島中央病院　2事例検討　11名
４．　11月21日　第一セントラルビル
　　解決志向アプローチを使った面接　50名（講師：青木安輝）
５．　12月13日　水島中央病院　事例検討を事例研究にするために　8名
６．　3月　6日　水島中央病院　2事例検討　13名

③　今後の展望と課題

臨床の看護師が困難と感じる事例を検討することで、看護本来のあり方を振り返る機会となり、理論と実践の融合を実感できる貴重な機会である。今後は、実習病院での事例検討についても検討していく予定である。

３．４－３　一日保健福祉推進センター

（１）概要

保健福祉推進センターでは、センター業務の一環として、担当教員が県内各地に出向き、県立大学が有する保健福祉分野の知識・技術等を直接地域の専門職や地域住民に幅広く提供して、健康づくりに役立てていただくために「一日保健福祉推進センター」事業を実施している。

（２）実績

	日時・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	6月1日（水） 岡山県立大学	看護研究 指導	保健福祉学部 看護学科 准教授 實金 栄	川崎医科大学附属川崎病院の看護職員（手術室）に対して看護研究、分析指導を行った。	1名
第2回	8月15日（月） 倉敷中央病院	看護研究 指導	保健福祉学部 看護学科 准教授 實金 栄	倉敷中央病院の看護職員(心臓血管外科集中治療室）に対して、看護研究計画書、倫理審査委員会申請書類作成の指導を行った。	3名
第3回	9月2日（金） 倉敷中央病院	看護研究 指導	保健福祉学部 看護学科 准教授 實金 栄	倉敷中央病院の看護職員(3棟6階）に対して、看護研究計画書、倫理審査委員会申請書類作成の指導を行った。	3名
第4回	9月15日（木） 岡山県立大学	看護研究 指導	保健福祉学部 看護学科 准教授 實金 栄	川崎医科大学附属川崎病院の看護職員（ICU）に対して看護研究、分析指導を行った。	2名
第5回	9月30日（金） 岡山県立大学	看護研究 研修会	保健福祉学部 看護学科 准教授 井上幸子	倉敷中央病院看護部門では、看護の質向上をめざし看護研究に取組み、院内発表会を行っている。本研修では、研究のまとめ方を講義した。	50名
第6回	10月24日（月） 岡山市保健所 健康づくり課 保健福祉会館	地域包括ケアシステムの構築における保健師の役割	保健福祉学部 看護学科 特任教授 二宮一枝	保健師に必要とされる公衆衛生看護診断からシステム構築に至る基本的理解を講義し、実際活動に関するグループワークにより、助言指導を行った。	25名
第7回	10月27日（木） （福）敬友会	看護師のキャリアアップについて	保健福祉学部 看護学科 教授 高橋 徹	社会福祉法人敬友会に勤務する看護師を対象に、看護師の生涯学習・教育の方策について講演を行った	20名

（３）今後の展望と課題

平成29年からは保健福祉推進センターを廃止し、地域連携推進センターに統合することが予定されている。一日保健福祉推進センターの業務のうち、必要なものについて地域連携推進センターに引き継いで実施する予定である。

３．４－４　岡山県立大学子育てカレッジ

（１）概要

大学を核とした産・学・官・民協働による子育てカレッジは、岡山県独自の子育て支援の取組である。開設７年目となる今年度は、親子交流広場と授業との連携や親子交流のための企画を推進し、また専門的な学びの機会である「保育ステップアップ講座」、地域の子育て支援活動を支えるネットワーク研修会等を実施した。

（２）実績

①　子育てカレッジの実施体制

子育てカレッジを保健福祉推進センターの事業に位置づけ、その運営は「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。実行委員会は、本学教職員、地域子育て支援者、総社市、備中県民局、チュッピーひろば利用者等で構成され本年度は計５回の実行委員会を開催し事業の充実を図った。

②　子育てカレッジの取組内容

１．大学の学生が参加して実施する親子交流等
２．保育士、幼稚園教諭、その他地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取組
３．子育てや子育て支援に関する相談の実施
４．子育てや子育て支援に関する情報発信
５．子育て支援に関するボランティア・NPO や企業の活動への支援
６．地域の子育て支援関係者の情報交換
７．その他子育て関連事項の調査等

③　親子交流広場の設置

親子交流広場（チュッピーひろば）を週に１回程度、年間 56 日開設し、利用者は 950 組（のべ参加者数　総社市内 1,001 名・市外 205 名）であった（1 月末現在）。またひろばと連携して栄養学科、保健福祉学科子ども学専攻学生の実習や、授業成果発表会等を実施した。

○協働授業

日	テーマ	授業との関係	担当教員
6月15日（水） 6月22日（水）	おはなしの会2016	「保育内容Ⅰ（言葉）」とひろばとの協働授業	樟本
8月5日（金）	子どものためのアートパフォーマンス2016	「総合表現」「音楽表現A」「音楽Ⅰ」「体育Ⅰ（表現運動）」など、表現系授業の成果発表会	吉永 新山 樟本
9月7日（水）	チュッピーなつまつり	チュッピーひろば企画の事業に協力	
10月～12月の中で適宜	チュッピーひろばの参観	「保育内容Ⅰ（人間関係）」とひろばとの協働授業	京林
12月7日（水） 12月13日（火）	親子で楽しむミニクリスマス	「保育内容Ⅰ（人間関係）」とチュッピーひろばとの協働授業	京林
1月18日（水）	チュッピーひろばでからだわくわく遊び	授業「体育Ⅱ」（運動遊び）」とひろばとの協働授業	新山
2月1日（水）	救急医療紙芝居の試作実演と意見交換	授業「保育・教職実践演習」、デザイン学部授業、ひろばとの協働授業	山下、京林
2月10日（金）	絵本読み聞かせ講座	授業「保育内容Ⅰ（人間関係）」、「幼児理解の理論と発達」、「乳児保育Ⅱ」とひろばの協働授業	京林、柏

ほか

○公衆栄養学実習Ⅰ

日　時：平成28年6月15日（水）、23日（木）、29日（水）

場　所：岡山県立大学学部共通棟（西）5128遊戯室（チュッピーひろば）、5127会議室

内　容：ライフステージ別演習の一環として備中県民局及び総社市の子育て支援事業の現状と母子の実態について学ぶため、子育てひろばのスタッフや参加している母親及びその子どもとの交流を図った。

参加者：親子24組（3日間延べ）、栄養学科3年生43名

担　当：保健福祉学部栄養学科　久保田恵、井上里加子

○スヌーズレン歌声広場

日　時：定例会：6月11日（土）、7月16日（土）、9月3日（土）、10月1日（土）

場　所：チュッピーひろば

人と人がつながるコンサート：10月29日（土）於：講堂

クリスマスコンサート：12月24日（土）於：チュッピーひろば

「音の絵本」コンサート：1月21日（土）於：リズムダンス室

参加者：定例会：子どもと保護者　計15名程度。人と人がつながるコンサート：約15名

クリスマスコンサート：約30名　「音の絵本」コンサート：約50名

担　当：保健福祉学科　坂野純子　吉永早苗

④　保育ステップアップ講座

子育てカレッジの取組内容２として、保育士、幼稚園教諭、その他の子育て支援者に対し、今日的なテーマや課題、現場の保育に直結する実践的な講座を大学内で開催した。

回	日時	テーマ	講師	参加者
第1回	9月24日（土） 10：30～12：00	子どもの気になる言動への見立てと対応	岡山県立大学保健福祉学部 保健福祉学科講師 周防美智子	14名
第2回	10月22日（土） 14：00～15：30	園庭を考える ―あそびが生まれる自然・植物環境づくり	ひじりにじいろ保育園 園長 出原　大	30名
第3回	10月29日（土） 10：00～12：00	県大版画工房 ～版表現を楽しむ～	岡山県立大学デザイン学部 造形デザイン学科准教授 関崎　哲	5名

⑤　子どもと保育研究会

保健福祉推進センターの各種研究会活動のひとつであるが、同時に子育てカレッジの取組内容６に位置づけ、地域で活動している子育て支援者等の情報交換と研修の場として研究会を実施した。（詳細については、子どもと保育研究会の欄、参照）

⑥　総社市委託：子育て支援者研修事業

総社市から委託を受け、親子支援および子育て支援者研修事業として下記の事業を実施した。

ア　ＮＰ（ノーバディーズパーフェクト）プログラム

日　時：平成28年9月8日（木）、15日（木）、23日（金）、29日（木）、
10月6日（木）、13日（木）、平成29年3月2日（木）計7日 10:00～12:00

場　所：岡山県立大学 講堂内会議室

参加者：11名（延べ62名）、延べ託児数：79名、学生ボランティア27名

イ　親子で楽しむ音楽会 ～0歳児からのコンサート～

日　時：平成28年11月27日（日）11:00～12:10

場　所：岡山県立大学 講堂

内　容：乳幼児期の子育て期にある親子に、音楽および歌を通じた親子交流の大切さを伝えることを目的に、岡山フィルハーモニック管弦楽団の協力を得て親子で楽しめるクラシックコンサートを開催した。シュトラウス作曲の「鍛冶屋のポルカ」、ビゼー作曲「カルメン組曲」などのクラッシックの名曲に加え、「ミッキーマウスマーチ」や「運動会メドレー」などの子どもにも馴染みのある曲が演奏され、オーケストラによる美しい楽器の響きや豊かな音量による生き生きとした演奏を鑑賞した。また、“ゆるキャラの

チュッピー、ももっち、うらっちも登場し、「アイアイ」、「チュッピーDE ハッピー」などを学生とともに全員で歌い楽しんだ。

参加者：約 700 名

ウ　総社市子育て支援ネットワーク研修会

日　時：平成 28 年 12 月 17 日（土）　13:30～16:00

場　所：岡山県立大学 学部共通棟（西） 5107 講義室

内　容：１．教育と福祉の源流・前史・制度化

２．親と子のかかわり

３．プロとしての指導・支援

４．実際の支援に当たる場合

講　師：岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科　准教授　池田隆英

参加者：　13 名

エ　子育て cafe

日　時：平成 29 年 2 月 10 日（金）12：30～13：30

場　所：清音福祉センター2 階ホール（総社市清音軽部 1135）

内　容：子育て支援の場における絵本の活用

講　師：聞かせ屋。けいたろう

参加者：　11 名

⑦　子育て中のママのためのダンスワークショップ

日　時：平成 28 年 12 月 1 日（木）11：00～11：45　「くるんころん　くるんころん」

平成 28 年 12 月 1 日（木）14：20～15：50　「ママのためのダンス」

場　所：岡山県立大学学部共通棟（西）5201 教室（リズムダンス室）

内　容：コンタクト・インプロヴィゼーションの手法による交流とリラクゼーションを目的としたダンスワークショップを開催した。

講　師：勝部ちこ、鹿島聖子（C.I.co）　即興演奏：岩本象一

参加者：（午前）親子 8 組、学生 21 名、スタッフ 1 名、学外からの視察 1 名

（午後）母親 14 名、学生 1 名、教員 2 名、学外からの視察 1 名

⑧　その他

ア　「第 24 回県大祭　子ども体験広場」

日　時：平成 28 年 11 月 6 日（日）9：00～20：00

場　所：岡山県立大学　体育館

内　容：学生（学友会）からの協力希望により学生企画のイベントを開催した。

イ　「音が音楽になってゆく時～岡山フィルハーモニック管弦楽団の演奏家による特別授業～」

日　時：平成 28 年 11 月 27 日（日）13：00～14：30

場　所：岡山県立大学　講堂

出演者：岡山フィルハーモニック管弦楽団団員 3 名、歌手　岡崎順子

参加人数：保健福祉学科子ども学専攻 4 年生 21 名、その他参観者 8 名

内　容：保育者としての表現力や指導法等の定着を確認し、より発展させることを目的とした特別授業を企画し、学生が身近な楽器を用いて創作した音楽物語が岡フィル演奏家のアドバイスにより変貌してゆくプロセスを公開した。

⑨　視察

ア　皇太子殿下行啓

日　時：平成 28 年 7 月 28 日（木）

場　所：岡山県立大学学部共通棟（西）5201 教室（リズムダンス室）

参加者：親子 10 組、学生 10 名、その他関係者

イ　ウソン大学スタディツアー

日　時：平成 28 年 8 月 24 日（水）

参加者：17 名

ウ　子育て中のママのためのダンスワークショップ視察

日　時：平成 28 年 12 月 1 日（木）

場　所：岡山県立大学学部共通棟（西）5201 教室（リズムダンス室）

参加者：田中ありさ氏（北九州芸術劇場）

エ　チュッピーひろば見学

日　時：平成 29 年 3 月 15 日（水）

参加者：倉敷南高校 2 年生 7 名

（３）評価と来年度の課題

開設 7 年目の今年度は、産・学・官・民の協働による様々な取り組みがさらに定着・深化した年といえる。中でも、大学構内に開設した「チュッピーひろば」の存在が「親子への支援」と「学生の学びの実践」の両面により有効に活用されてきたことは学内外から評価されていると考える。「親子で楽しむ音楽会～０歳児からのコンサート～」は乳幼児対象の希少な音楽会として盛況であり、継続的に実施したいと考えている。また「総社市子育て支援ネットワーク研修会」のように、地域の子育て支援活動を支える取り組みが子育てカレッジの場で行われることの意義は大きい。昨年度より「おかやま子育てカレッジ」備中県民局管内ネットワーク会議等が開催され、本実行委員会よりも実行委員・学生が参加し、他大学と意見交換及び情報交換を行った。

一方で「保育ステップアップ講座」は、多彩な講師陣によって現職者のニーズやタイムリーな課題に対応した講座を開催したが、広報等に今後検討が必要であると考える。「子どもと保育研究会」事業は来年度より、研究会としてではなくカレッジ事業の一事業として継続していく考えである。

今後も、地域貢献と学生の学びの「場」を念頭に、学生の更なる参加の推進と他大学との連携等を視野に事業展開する必要がある。

４．　外部資金

４．１　平成 28 年度の実績

４．２　科学研究費

４．３　今後の課題

４．１　平成 28 年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金等の４つに分類される。合計金額の平成 19 年度から平成 28 年度までの獲得実績は図１と表１のとおりで、平成 28 年度は獲得件数が過去最高となったが、獲得金額は前年度と比較して減少した。

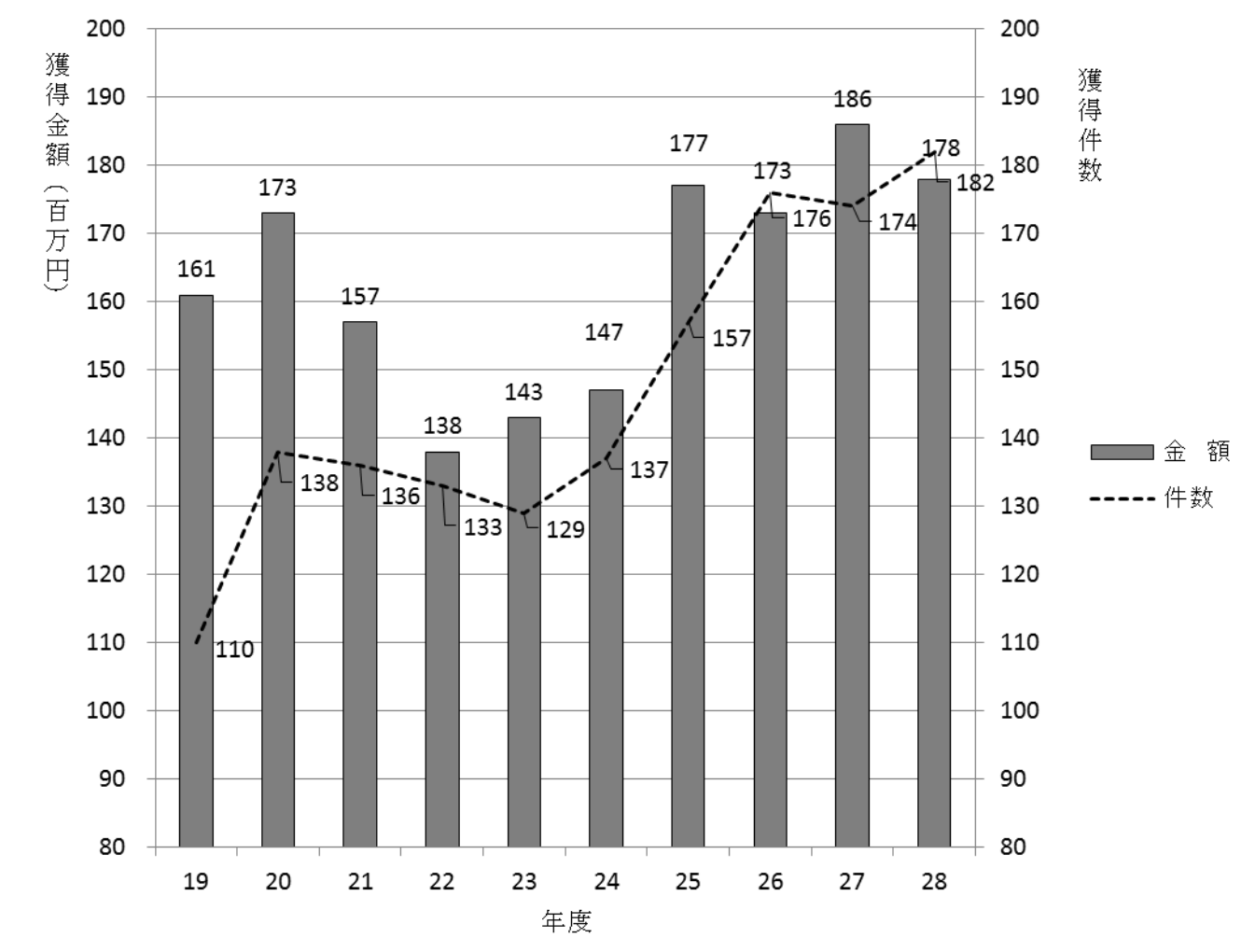


図１　外部資金獲得実績の推移

表１　外部資金獲得実績の推移（金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入）

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
件数	110	138	136	133	129	137	157	176	174	182
金　額	161	173	157	138	143	147	177	173	186	178

外部資金の種類別のデータは表２のとおりである。

表２．　外部資金獲得実績（金額の単位は千円で、千円未満切捨）

年度	科学研究費		共同研究		受託研究		教育研究奨励寄附金等		合計	
	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額
19	34	73,725	23	11,575	21	61,499	32	13,782	110	160,581
20	39	84,503	31	12,100	38	62,248	30	14,636	138	173,487
21	35	67,376	31	12,125	45	67,397	25	9,639	136	156,537
22	42	70,110	33	13,490	26	39,027	32	15,427	133	138,054
23	47	73,177	24	8,338	26	40,633	32	20,873	129	143,021
24	51	84,727	32	10,288	26	35,514	28	16,012	137	146,541
25	57	87,100	38	20,928	23	43,923	39	25,453	157	177,404
26	55	90,381	42	24,536	29	32,592	50	25,787	176	173,296
27	57	82,917	46	31,649	27	52,959	44	18,153	174	185,678
28	**67**	**89,440**	**48**	**21,000**	**18**	**45,926**	**49**	**21,716**	**182**	**178,082**

表２の中で網掛けの部分が過去最高の件数と金額であるが、平成 27 年度と比べて科学研究費の獲得件数、金額ともに増加したが、共同研究、受託研究については獲得金額が減少した。

第２期中期計画、平成 28 年度計画及び獲得実績の一覧は表３のとおりである。

平成 28 年度計画と獲得実績を比べると、共同研究の件数は目標を達成したが、獲得金額は目標に及ばなかった。受託研究は件数、獲得金額ともに目標に及ばなかったものの、教育奨励寄付金等、科学研究費については件数、獲得金額ともに目標を上回った。

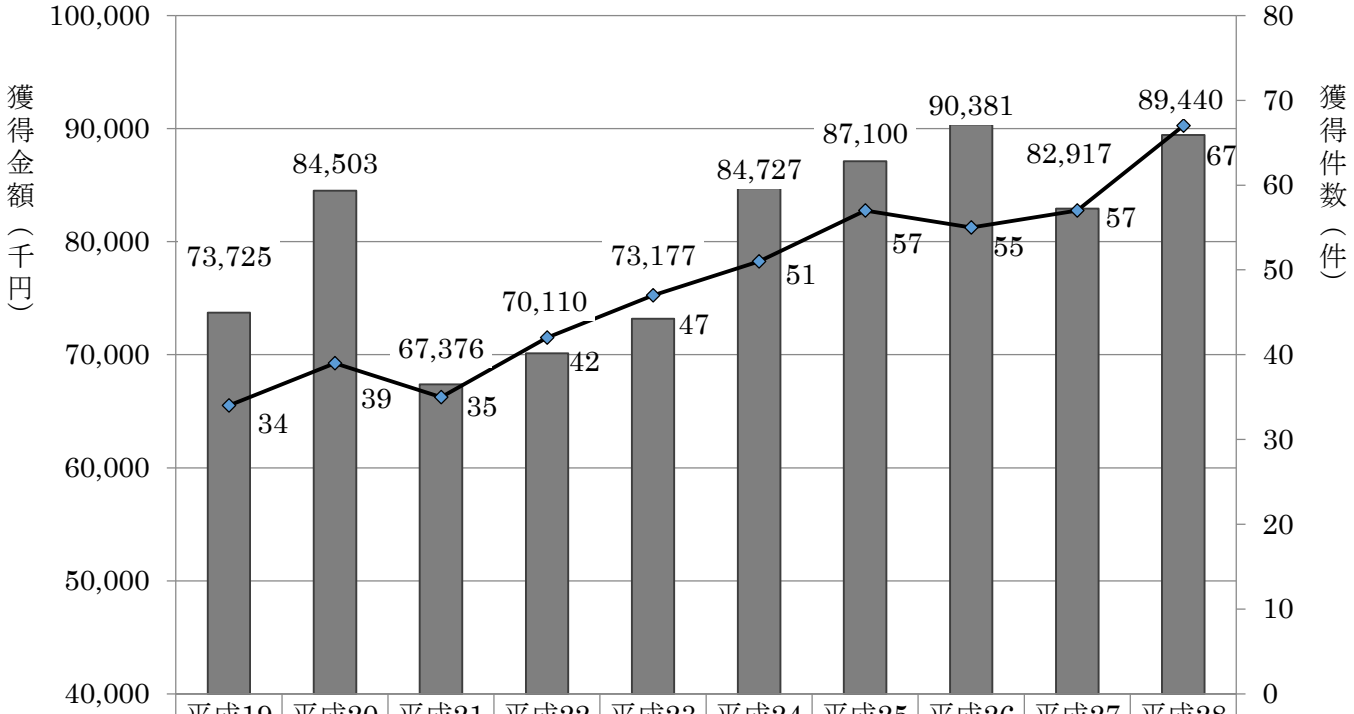
表３　中期計画および年度計画の目標との比較（金額の単位は千円）

種別	中期計画		H28 年度計画		現状	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	40	16,000	40	30,000	48	21,000
受託研究	40	70,000	30	55,000	18	45,926
教育研究奨励寄附金等	40	16,000	40	20,000	49	21,716
合計	120	102,000	110	105,000	115	88,642
科学研究費	90	124,000	57 以上	82,917 以上	67	89,440

４．２　科学研究費

科学研究費は獲得件数、獲得金額の推移は図４のとおりである。

平成 28 年度は、昨年度と比較すると、獲得件数、獲得金額はともに増加したが、日本学術振興会から１研究課題あたりに交付される研究金額は減少傾向が続いていることもあり、獲得金額については、これまでの最高金額には及ばなかった。



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
金額	73,725	84,503	67,376	70,110	73,177	84,727	87,100	90,381	82,917	89,440
件数	34	39	35	42	47	51	57	55	57	67

図４　科学研究費の獲得推移

４．３　今後の課題

これまで述べたとおり、科学研究費は、昨年度より獲得件数、獲得金額ともに増加したが、共同研究、受託研究及び教育研究奨励寄付金等については、昨年度と比較して獲得件数は横ばいであるが、大型外部資金の獲得件数が減少し、獲得金額は減少している。

今後、運営費交付金等の削減に伴う研究資金不足により研究の質を低下させないためにも、外部資金及び競争的資金の獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを継続していく必要がある。

巻末資料

２．３－３　各種委員の応嘱（行政関係）

講師派遣（行政関係）

２．６－１　各種委員の応嘱（行政関係以外）

講師派遣（行政関係以外）

非常勤医師（行政関係以外）

非常勤講師・役員（行政関係以外）

参考資料

２．３－３　各種委員の応嘱（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　理恵	総社市	総社市妊産婦支援検討会議スーパーバイザー
伊東　秀之	岡山県	岡山県環境審議会委員
		岡山県農林水産総合センター生物科学研究所 外部評価委員会委員
井上　幸子	岡山市教育委員会	岡山市問題行動等対策委員会委員
	総社市	総社市障害支援区分認定審査会委員
		総社市障害者施策推進協議会委員
井村　圭壮	総社市	総社市国民健康保険運営協議会委員
川上　貴代	岡山県教育庁	平成 28 年度岡山県食育スクールプロジェクト事業推進委員会委員
		岡山県教育委員会連携会議委員
岸本　妙子	岡山県	農林水産総合センター外部評価委員会委員
		岡山県食の安全・食育推進協議会委員
京林　由季子	総社市	総社市人権教育推進協議会委員
桐野　匡史	総社市	総社市障害支援区分認定審査会委員
久保田　恵	備前市	備前市健康づくり推進協議会委員
近藤　理恵	岡山県	岡山県人権政策審議会委員
		岡山県公益認定等委員会委員
	総社市	第1.2回全国屈指福祉会議委員
		総社市特別職報酬等審議会委員
		総社市指定金融機関選定委員会委員
		総社市子ども・子育て会議委員
		総社市民間保育所施設運営事業者選定委員
		総社市総合計画委員
	笠岡市	笠岡市子ども・子育て推進会議委員
坂野　純子	岡山県	岡山県職業能力開発審議会委員
	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
佐々木　純子	岡山県	岡山県建築審査会委員（公衆衛生分野）
	総社市	総社市介護認定審査会委員
佐藤　和順	岡山県	岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員
		岡山県子ども・子育て会議委員
	真庭市	真庭市未来を担う人応援基金活用事業に関する審査会委員
佐藤　ゆかり	浅口市	浅口市介護認定審査会委員
周防　美智子	総社市	ひきこもり支援等検討委員会委員
	滋賀県守山市	守山市いじめ問題第三者調査委員会委員
	滋賀県大津市	大津市立小中学校いじめ等事案対策検討委員

氏名	従事先	従事内容
周防　美智子	奈良県生駒郡三郷町	三郷町介護保険運営協議会委員
高橋　　徹	岡山県	岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員
滝川　由香里	総社市	総社市妊産婦支援検討会議スーパーバイザー
竹本　与志人	美作市	美作市介護保険事業計画策定委員会委員
田淵　真愉美	倉敷市教育委員会	小．中．高．特別支援学校給食献立審査委員会委員
中野　菜穂子	岡山県	岡山県社会福祉審議会委員
		おかやま子ども応援推進委員会委員及び 放課後・土曜日等支援推進部会委員
中村　孝文	岡山県	倉敷地区福祉有償運送運営協議会会長
		備前市・赤磐市・和気郡和気町福祉有償運送運営協議会会長
	浅口市	浅口市障害支援区分認定審査会委員
中村　　光	岡山県	岡山県介護保険審査会委員
新山　順子	総社市	子育て王国総社まちづくり実行委員会委員
二宮　一枝	岡山県	岡山県備中保健所運営協議会委員
		岡山県医療費適正化推進協議会委員
		岡山県医療審議会委員
		岡山県自然環境保全審議会委員
		岡山県都市計画審議会委員
	岡山市	岡山市開発審査会委員
	総社市	総社市医療費適正化推進委員会委員
		総社市介護保険運営協議会委員
		第1．2回全国屈指福祉会議委員
	津山市	津山市健康づくり推進審議会委員
	早島町	早島町子ども・子育て会議委員
原野　かおり	美作市	美作市包括支援センター運営協議会委員
		美作市介護保険運営会議並びに地域密着型サービス運営委員
平松　智子	岡山県	健康おかやま21推進会議委員
	総社市	総社市働く婦人の家運営委員会委員
藤井　保人	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
山下　広美	岡山県	岡山県環境審議会委員
		岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議委員
		岡山県農林水産総合センター外部評価委員
		岡山県准看護師試験委員
山本　登志子	岡山県	岡山県農林水産総合センター　外部知見活用型・産学官連携推進事業　外部評価委員
山本　浩史	総社市	総社市生涯現役促進協議会委員
	倉敷市	倉敷市介護認定審査会委員
樂木　章子	総社市	日本語教育事業運営委員会委員
		総社市教育振興基本計画検討会議委員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	総社市	総社市体育施設の指定管理選定委員会
稲井　　寛	岡山県	ファイル浄化システム構築業務業者選定委員会における特別委
		岡山県高度情報化推進協議会幹事
		岡山県基幹システム共通基盤更新及び運用保守業務業者選定委員会における特別委員
		岡山県インターネット接続系端末環境導入及び運用保守業務業者選定委員会における特別委員
	鳥取県・岡山県	鳥取・岡山自治体情報セキュリティクラウド構築業務に係る業者選定委員会委員
尾崎　公一	岡山県	岡山県産業労働部ミクロものづくりブランド戦略委員会委
金川　明弘	岡山県	岡山県企業誘致推進協議会　企業誘致アドバイザー
菊井　玄一郎	岡山県	岡山県高度情報化推進協議会幹事
		岡山県公有財産台帳管理システム再構築業務業者選定委員会における特別委員
		ファイル浄化システム構築業務業者選定委員会における特別委
岸原　充佳	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
佐藤　洋一郎	備前市	行政評価市民委員会市民委員
髙戸　仁郎	岡山市	岡山市スポーツ推進審議会委員
滝本　裕則	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
但馬　康宏	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
	岡山県	公有財産台帳管理システム再構築業務業者選定委員会における特別委員
渡辺　富夫	岡山県	岡山県工業技術センター外部評価委員会委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
久保田　厚子	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会委員
	総社市教育委員会	総社市文化財保護審議会委員
齋藤　美絵子	岡山県	岡山県環境文化部環境企画課　景観対策推進アドバイザー
	岡山市	岡山市景観審議会委員
		岡山市都市・消防政策審議会委員
	総社市	総社市放送番組審議会委員
	浅口市	浅口市都市計画審議会委員
		浅口市都市計画マスタープラン策定委員会委員
柴田　奈美	美咲町教育委員会	「第１９回さくらのうた」俳句選者
西田　麻希子	岡山県	「禁煙啓発ポスターコンクール」審査委員
		「平成２８年度岡山県統計グラフコンクール」審査員
朴　　貞淑	倉敷市	ＳＴＯＰ温暖化くらしき実行委員会委員
	亀山市	亀山市総合環境研究センター委嘱委員

氏名	従事先	従事内容
福濱　嘉宏	備前市	備前市庁舎建設基本設計業務委託プロポーザル選定委員会選定委員
	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
三原　鉄平	新庄村	新庄村地域おこし協力隊活動支援委員会委員
森下　眞行	岡山県	おかやまUDシニアアドバイザー会議委員
		岡山県環境審議会景観部会委員
		景観対策推進アドバイザー
	総社市	総社市吉備線整備方針等検討委員会委員
山下　明美	岡山県	岡山県都市計画審議会委員
		岡山県土地開発審査会委員
		岡山県環境影響評価技術審査委員
	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
吉原　直彦	岡山県	岡山県屋外広告物審議会委員
	総社市	総社市総合計画審議会委員

２．３－３　講師派遣（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	宮崎県えびの市	「子どものつまづきと保育」
井村　圭壮	岡山県消防学校	消防学校教育課程「社会福祉原論」
柏　まり	岡山県備中県民局	早島ふれあい・サポートセンター会員研修及び子育て支援講習会
我如古　菜月	備中保健所	給食施設研修会
川上　貴代	倉敷市教育委員会	平成28年度給食関係職員夏季研修会
久保田　恵	岡山市	岡山市栄養改善協議会学区・地区会長研修会
	総社市ファミリーサポートセンター	保育サービス講習会
佐藤　和順	岡山県	「子育ての現状と課題～地域で子どもを育てる意義～」
	真庭保健所	真庭保健所管内愛育委員連合会及び真庭市愛育委員会総会並びに研修会
	高梁市	高梁市縁結びサポーター・結婚推進委員研修会
	真庭市	真庭市未来を担う人応援基金活用事業
	津山市	津山市縁結びサポーター登録研修
周防　美智子	岡山県	「顔が見える子どもの人権サポーター事業」に係る子どもの人権サポーター
	奈良県教育委員会	奈良県スクールソーシャルワーカー活用事業におけるスーパーバイザー
		就学前の家庭教育支援研修講座
		ブラッシュアップ研修講座・10年経験者研修講座
		不登校等要因調査
	草津市教育委員会	草津市グレードアップ連絡会
		草津市学校問題サポートチーム会議・スーパーバイザー
	大津市教育センター	「教育相談～教育相談の実際～」

氏名	従事先	従事内容
周防　美智子	大津市	「一人ひとりの人権～なぜ、いじめはなくならないの？」
田淵　真愉美	総社市	がん予防をめざす食事～肝臓にやさしい食生活編
二宮　一枝	岡山市	階層別研修「地域包括ケアシステムと地域づくり」
山本　浩史	岡山県総合教育センター	「高齢社会と人権～学校教育の視点から～」
吉永　早苗	岡山県総合教育センター	岡山県経験年数研修講座「幼児と遊び」

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	真庭市	第16回「笑顔がすてき健康かつやま21大会」における講演
髙戸　仁郎	岡山市	平成２８年度健康運動指導者研修会 講演と実技
	倉敷市教育委員会	「岡山発の点字ブロック！その大切さを学ぼう」
渡辺　富夫	倉敷市	平成２８年度高梁川流域連携中枢都市圏ビジョン懇談会

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
風早　由佳	総社市教育委員会	山田幼稚園・維新幼稚園合同園内研修会講師
		総社市教育委員会指定幼稚園教育研究発表会講師
北山　由紀雄	岡山県	「宇野港フォトコンテスト2016」審査会審査員長
齋藤　美絵子	岡山県	景観対策推進アドバイザー
		土砂災害防止「全国の集い」パネルディスカッションのパネリスト
関﨑　　哲	倉敷市立美術館	「銅版画・石版画」実技講座
西田　麻希子	岡山市教育委員会	はぐくむ心・あったかハート事業「あの人の生き方に学ぶ講演会」
南川　茂樹	岡山県立美術館	岡山県立美術館こんにちは美術事業　コレクション活用ＢＯＸ－日本画編－お披露目会
三原　鉄平	倉敷市教育委員会	平成28年度ライフパーク冬講座「3Dプリンターの造形の仕組みを覗いてみよう！」
森下　眞行	岡山県	景観対策推進アドバイザー
吉原　直彦	岡山県	屋外広告物講習会

参考資料

２．６－１　各種委員の応嘱（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	総社市立神在小学校	学校評議員・学校関係者評価委員
	総社市立山手小学校	学校評議員・学校関係者評価委員
	岡山県保育士養成協議会	第 2･4 回保育実習委員会委員
池田　理恵	（公社）岡山県看護協会	社会経済福祉委員会委員
井上　里加子	（株）タニタヘルスリンク	岡山淳風会タニタ食堂カウンセラー
井村　圭壮	（福）岡山県共同募金会	評議員・配分委員
	日本福祉図書文献学会	査読委員
		評議員
	中国四国社会福祉史学会	論文・機関誌等の掲載の審査委員
		原稿依頼・研究・学会理事
荻野　哲也	岡山大学医学部	岡山大学病理専門研修プログラム管理委員会委員
柏　まり	岡山県保育士養成協議会	第 4 回保育実習委員会委員
桐野　匡史	総社市社会福祉協議会	評議員
	（一社）日本認知症ケア学会	「日本認知症ケア学会誌」査読委員
	（一社）日本社会福祉学会	機関誌「社会福祉学」査読委員
	（福）岡山県社会福祉協議会	岡山県福祉・介護人材確保対策推進協議会委員
近藤　理恵	総社市社会福祉協議会	総社市生活困窮支援センター協議会委員
	日仏社会学会	日仏社会学会誌　編集委員長
		日仏社会学会理事
佐々木　純子	（公社）岡山県看護協会	教育委員
	（一社）岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	病棟師長・ステーション管理者交流会ファシリテーター
佐々木　新介	（公社）岡山県看護協会	学会委員
佐藤　和順	くらしき幼児教育ネットワーク	平成 28 年度くらしき幼児教育ネットワーク委員
佐藤　ゆかり	日本介護福祉学会	機関誌「介護福祉学」査読委員
		評議員
佐藤　美恵	岡山大学大学院	岡山大学大学院保健学研究科看護学分野倫理審査委員会委員
住吉　和子	（一社）日本糖尿病教育･看護学会	日本糖尿病教育・看護学会理事
高橋　　徹	（医）三樹会 梶木病院	倫理委員会外部委員
竹本　与志人	（一社）日本認知症ケア学会	各種褒章等委員
	日本在宅ケア学会	日本在宅ケア学査読委員

氏名	従事先	従事内容
谷口　敏代	日本介護福祉学会	機関誌「介護福祉学」の編集および投稿論文の査読委員
中村　　光	（公財）岡山県福祉事業団	岡山県福祉事業団臨時評議員会委員
	日本高次脳機能障害学会	日本高次脳機能障害学会委員
	総社市社会福祉協議会	第三者委員（苦情解決委員）
	（一社）日本言語聴覚士協会	代議員選挙管理委員
		研究倫理検討ワーキンググループ委員
		生涯学習委員
	（財）岡山県建設技術センター	評議員
	ハートフルビジネスおかやま	ハートフル商品化支援委員会委員
名越　恵美	日本がん看護学会	代議員・査読委員
	日本看護研究学会	査読委員
二宮　一枝	岡山県老人クラブ連合会	健康づくり推進委員会委員
	（公社）岡山県看護協会	公益社団法人岡山県看護協会理事
		会長・副会長会議及び訪問看護ステーション運営会議委員
		保健師職能委員会委員
原野　かおり	日本介護福祉学会	中国四国ブロック担当理事
松田　実樹	（福）旭川荘　障害者支援施設愛育寮	第三者委員
山口　三重子	（公社）岡山県看護協会	研究倫理審査委員会委員
		認定看護管理者教育課程運営委員会委員
山下　広美	岡山科学技術専門学校	教育課程編成委員
山本　浩史	（福）倉敷市社会福祉協議会	倉敷市社会福祉協議会・地域福祉活動計画評価委員
		法人後見運営委員会委員
	（福）岡山県社会福祉協議会	本会経営企画委員会委員
		岡山県運営適正化委員会委員
		岡山県福祉人材センター運営委員会委員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	日本体力医学会	評議員
	日本肥満学会	評議員
	岡山スポーツ医科学研究会	幹事（監査）
磯崎　秀樹	AAMT/JAPIO 特許翻訳研究会	拡大評価部会部会長
伊藤　信之	早稲田大学情報生産システム研究科	博士学位申請論文審査委員

氏名	従事先	従事内容
稲井　　寛	（財）八雲環境科学振興財団	(財)八雲環境科学振興財団選考委員会選考委員
尾崎　公一	日本鋳造工学会 中国四国支部	理事
菊井　玄一郎	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ(株)AVC ﾈｯﾄﾜｰｸｽ社技術本部技術開発研究所	「多言語音声翻訳技術」研究開発運営委員会委員
	岡山県立大安寺中等教育学校	学校評議員
岸原　充佳	（一社）ﾌﾛﾝﾃｨｱものづくり研究開発機構	理事
	IEEE 広島支部	理事
佐藤　洋一郎	岡山県立総社南高等学校	学校評議員
忻　欣	計測自動制御学会	計測自動制御学会論文集　制御分野アソシエイトエディタ
		非線形制御調査研究会メンバ
	（一社）電気学会	電気学会制御技術委員会委員
	IEEE	IEEE Control Systems Letters アソシエイトエディタ
末岡　浩治	㈱日本学術振興会	The 7th International Symposium on Advanced Science and Technology of Silicon Materials のprogram chair
瀬島　吉裕	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員
髙戸　仁郎	全日本学生ハンドボール連盟	平成 28 年度高松宮記念杯男子第 59 回・女子第 52 回全日本学生ハンドボール選手権大会役員
	中四国学生ハンドボール連盟	理事
徳永　義孝	（一社）電気設備学会中国支部	2016 年（第 34 回）電気設備学会全国大会実行委員
福田　忠生	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員
山内　　仁	ﾚｽｷｭｰﾛﾎﾞｯﾄｺﾝﾃｽﾄ実行委員会	レスキューロボットコンテスト実行委員（副実行委員長）
横川　智教	（一社）電子情報通信学会	和文論文誌Ｄ　編集委員
		和文論文誌Ｄ学生論文特集号　編集委員
		システム数理と応用研究会　専門委員
	（一社）情報処理学会	ＳＥＳ2016　ワークショップ委員長
		ＳＥＳ2016　プログラム委員
		ＳＥ教育委員会　委員
	（一社）日本ソフトウェア科学会	第 23 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ　プログラム委員長
		コンピュータソフトウェア誌「ソフトウェア工学の基礎」特集号　編集委員
渡辺　富夫	ヒューマンインターフェース学会	評議員
	日本機械学会	日本機械学会設計工学・システム部門運営委員

氏名	従事先	従事内容
渡辺　富夫	子ども学会	常任理事
	日本赤ちゃん学会	理事
	（公財）岡山工学振興会	評議員
	岡山医用工学研究会	幹事
	（公財）ウエスコ学術振興財団	選考委員
	（公財）画像情報教育振興協会	協会委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
北山　由紀雄	夢二郷土美術館	「夢二のふるさとフォトコンテスト」の審査員
柴田　奈美	特定非営利活動法人日本語検定委員会	日本語検定研究委員
津田　勢太	(一社)岡山県建築士事務所　協会	岡山県建築物耐震診断等評価委員会委員
	岡山県建築住宅センター(株)	構造計算適合性判定専門委員
ﾌﾞﾙﾈﾘ・ｱﾝｿﾆｰ	香川高等専門学校	「第23回ｽﾋﾟｰﾁｺﾝﾃｽﾄ(自由弁論・暗唱弁論)」部門の審査員
三原　鉄平	新庄村	新庄村地域おこし協力隊活動支援委員会
森下　眞行	龍の仕事展実行委員会	龍の仕事展実行委員会委員
山下　明美	呰部商店会	呰部商店会の昭和ロマン街並み再生事業に向けた調査事業検討委員会招聘委員
吉原　直彦	山陽新聞社	第６７回岡山県美術展覧会第７部デザイン部門審査員
	株式会社アイディーエイ	IDA DESIGN AWRD 2016の外部審査員

２．６－２　講師派遣（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	大分県保育連合会	平成28年度保育者の就業継続研修会
	社会福祉法人浄信会	まがた保育園研修会
	（一社）宮崎県保育連盟連合会	保育士研修会「指導原理の基本要素」
	瀬戸内市保育協議会	リーダー研修会
		瀬戸内市保育協議会総会
	特定非営利活動法人 ほっとはあと	「発達と愛着形成」
	高梁市保育協議会	高梁市立鶴鳴保育園
	総社市教育研修所	総社市教育研修所幼児教育班研修会
	岡山県私立幼稚園連盟	特別支援についての講話とワークショップ
	福岡県保育協議会	「職員専門研修会」

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	美作市・勝田郡保育協議会	美作市・勝田郡保育協議会総会記念講演
	(公財)岡山県市町村振興協会	「新規採用保育士研修」「マネジメント研修」
	岡山県保育協議会	「保育者を育てる職場づくり」
	玉野市立荘内小学校	小学校不登校対策実践事業
	玉野市立玉原小学校	「小学校における不登校対策実践研究事業における不登校児童を生まないための楽しい授業づくり研修」
	つしま幼稚園	つしま幼稚園園内研修
	勝央町立高取保育園	平成 28 年職員研修
	あいあい保育園	「子どもを取り巻く社会環境の変化～家庭でのメディアとの接し方～」職員の資質向上・園児の観察
	（学）浄信学園	浄信学園・浄信会研修
池田　理恵	（公社）岡山県看護協会	「看護研究の実践」研修
石田　実知子	岡山県私学協会	第 49 回岡山県私学教育研修会
伊東　秀之	NPO 法人中国四国アグリテック	「チシャトウの抗アレルギー作用の鍵物質」
	（公財）岡山県産業振興財団	「ザクロポリフェノールの化学構造と機能性」
	県立広島大学	生命システム科学特別講義
	岡山県私立清心女子高等学校	「食品の機能性を測定する実験方法」
井上　幸子	（一社）日本産業カウンセラー協会中国支部	「産業カウンセラー養成講座」
井上　祐介	吉備創生カレッジ	「高齢社会と地域ー日韓比較ー」
井村　圭壮	エフエムゆめウェーブ(株)	「高校生などに向けた福祉の仕事の紹介」
	岡山県立倉敷鷲羽高等学校	「福祉・看護系に進む高校生に伝えたいこと」
	岡山龍谷高等学校	「福祉・保育・看護・栄養への進学」
	進徳女子高等学校	「福祉系・保育系・看護系等」
	兵庫県立太子高等学校	「社会福祉・看護の仕事」
	広島県私立武田高等学校	「福祉系の仕事内容と進路指導について」
	広島県立西城紫水高等学校	「地域の医療・介護等を学ぶ」
	岡山県立和気閑谷高等学校	「研究学習講師インタビュー」
	岡山県立邑久高等学校	社会福祉系学部で学べること、社会福祉士、看護師の仕事内容等について
岡﨑　愉加	吉備創生カレッジ	「思春期の性に関する子育て」
	岡山県立瀬戸南高等学校	性教育講演
	就実高等学校	性教育講演
沖本　克子	（公社）岡山県看護協会	岡山県看護協会教育研修・実習指導者講習会

氏名	従事先	従事内容
柏　まり	岡山県保育協議会保育会	保育研究講演
	赤磐市立山陽西幼稚園	「子どもと共につくり出す楽しい遊びについて」
川上　貴代	吉備中央町ＰＴＡ連合会	子育て講演会
	岡山県立倉敷南高等学校	「キャリアⅠ」学問の哲人講座
神崎　圭太	山口県立大学	桜栄会活動報告会
京林　由季子	岡山家庭裁判所	「共生社会の形成に向けて～障害者の理解と支援～」
樟本　千里	岡山市保育協議会	「見える化した保育評価を保育の質の向上」
佐々木　純子	（公社）岡山県看護協会	訪問看護師養成講習会
佐々木　新介	（公社）岡山県看護協会	「看護研究の実践」研修
	赤磐医師会病院	平成 28 年度赤磐医師会病院看護部看護研究発表会
佐藤　和順	和気町青少年指導センター	「地域ぐるみの家庭教育支援」
	岡山県保育協議会	中国地区保育研究大会における研究発表講評
	（一社）岡山県婦人協議会	「今どき子ども・子育て一課題からみえてくるもの一」
	おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク	「今　子どもの育ちに大切なこと」
	勝央愛育委員連合会事務局	「地域における子育て支援～地域のお母さんとして出来ること～」
	鏡野町立認定こども園 芳野保育園	「父親の子育て参加」
佐藤　ゆかり	服部地区地域づくり協議会	「認知症とともに地域で暮らしを続ける」
佐藤　美恵	（公社）岡山県看護協会	「実習指導原理と評価・指導案作成」実習指導者講習会
	岡山県立倉敷古城池高等学校	「研究関連の講義（学部紹介を含む）」
周防　美智子	（福）滋賀県社会福祉協議会	福祉用具プランナー研修・集合研修「対人援助技術」
	岡山県聴覚言語情緒障害教育研究会	「子どもの発達につながるアセスメント」教師・保護者・地域の力を活かすかかわり
	倉敷市子育て支援センター	「子どもの発達を知ることで拓く可能性」
	大津市立真野北小学校	「人間らしい生き方を求めて～人権教育の今日までの成果を継承、深化することによりすべての子どもが光り輝く教育を確立しよう～」
	大津市立仰木の里小学校	「思春期の入り口に立つ子ども達をサポートするために～親として、教師として、人生の先輩として～」
	倉敷市立庄幼稚園	「幼児期の子どもへのかかわり」

氏名	従事先	従事内容
高橋　　徹	（独）国立病院機構　福山医療センター	「卒後研修医のみなさんへ：臨床医に基礎研究は必要ですか？」「看護師教育について」
	日本看護研究学会中国・四国地方会	「周手術期管理のグローバリゼーション」
谷口　敏代	（一社）岡山県介護福祉士会	介護福祉士実習指導者講習会
		ファーストステップ研修会「介護職の健康・ストレスの管理」
	（福）天神会	チームケアにおける中間管理者の在り方
	（福）香川県社会福祉協議会	平成 28 年度日常生活自立支援事業生活支援員等集合研修会
	岡山県介護福祉士会倉敷地区	平成 28 年度倉敷地区研究会
	岡山県老人福祉施設協議会	職員研究発表の向上に関するご講義
		中国地区老人福祉施設研修大会 in 岡山にかかる分科会助言者
		平成 28 年度岡山県老人福祉施設職員研究発表会助言者
竹本　与志人	認定社会福祉士認証認定機構	スーパービジョンに関すること
	岡山県医療ソーシャルワーカー協会	岡山県医療ソーシャルワーカー協会基礎コース研修「自己覚知」
中野　菜穂子	おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク	「地域子育て支援のあゆみと現在・視点の倫理」「ネットワークづくりとコミュニティの再構築」「これからの地域子育て支援拠点」
	岡山大学大学院	「子育て支援における助産師の役割」
中村　　光	愛知県言語聴覚士会	平成 28 年度成人分野専門研修会
	富山県言語聴覚士会	「失語症の評価と訓練ー音声単語の理解・表出の障害を中心にー」
	（一社）日本言語聴覚士協会	基礎講座 6「研究法序論」
	（一社）日本高次脳機能障害学会	「錯語とジャルゴン」講演会
名越　恵美	心臓病センター榊原病院	看護研究指導
	福山市民病院	広島県東部がん看護研修会
	山陽学園大学	「看護教育論」
新山　順子	備南東地区中学校体育連盟	ダンス実技講習会及び総会「体ほぐしから動きの表現へ」
	（社福）立正会 たちばな上中野保育園	保育園講演
二宮　一枝	（公団）岡山県看護協会	地域包括ケア推進フォーラム座長
		保健師のキャリア形成（キャリアラダーの現状と課題）
	岡山県保健福祉学会	第２分科会「老人保健福祉・地域保健福祉」座長
平松　智子	岡山県備北保健所	糖尿病生活習慣病予防研修会
	（公団）浅口市シルバー人材センター	「薄味でおいしく食べるコツ」

氏名	従事先	従事内容
實金　　栄	（公社）岡山県看護協会	「看護研究の実践」研修
山口　三重子	（公社）岡山県看護協会	岡山県看護協会教育研修　実習指導者講習会
山本　浩史	岡山県障害者スポーツ協会	岡山県障害者スポーツ指導員初級養成講習会　　「ボランティア論」
	岡山県立西大寺高等学校	「社会貢献活動の意義について」
吉永　早苗	（福）夢工房	法人内研修会「乳幼児期に望ましい音・音楽環境」
	岡山県保育協議会	「歌遊びを通して子どもの音楽的感性を育む」
		中国地区保育研究大会における分科会助言
	岡山大安寺中等教育学校	第１学年「コミュニケーション」特別授業
	岡山県国公立幼稚園・こども園音楽リズム部会	「子どもたちへのリズム指導」
	岡山県立岡山操山中学校	社会人特別授業「ディベート」
	なかよし保育園	「幼児期における“語りかけ”“歌いかけ”の大切さ」

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	医療福祉交流会講師
	岡山県医師会	ＩＴフェアー医療分野における第４次産業改革 IoTー
荒井　　剛	岡山県立玉野光南高等学校	「プログラミングの学習と実践～Android アプリを作ろう～」
有本　和民	明石工業高等専門学校	「豊かな人間生活を支える IoT 時代の組込みシステムの可能性ー未来型エンジニアを目指してー」
伊藤　信之	電子デバイス産業新聞・事業開発部	ビギナーのためのアナログ半導体セミナー
井上　貴浩	吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム岡山）	「人とロボットの類似点相違点」
大田　慎一郎	岡山県立倉敷天城高等学校	専門職講話「プロフェッショナルを招いて」
尾崎　公一	一般社団法人日本鋳造協会	鋳造カレッジ「コンピューターシミュレーション概論」
菊井　玄一郎	株式会社テクノアクセルネットワークス	「ＡＩ、自然言語理解等の原理と応用」
佐藤　洋一郎	岡山県立玉野光南高等学校	平成２８年度　２年次生高大連携出前講座
滝本　裕則	岡山県立玉野光南高等学校	「プログラミングの学習と実践～Android アプリを作ろう～」
徳永　義孝	吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム岡山）	「再生可能エネルギー発電」
中川　二彦	新日鐵住金株式会社	技術講座「製銑プロセス工学」

氏名	従事先	従事内容
横川　智教	株式会社ベリサーブ	ベリサーブアカデミックイニシアティブ 2016in 大阪「形式仕様記述を用いたモデルベースのソフトウェア検証技術」
渡辺　富夫	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	2017 年ビジネスマッチング交流会（研究開発成果事業化発表会）

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
嘉数　彰彦	岡山県立玉野光南高等学校	「効果的な情報発信」
作元　朋子	岡山県立倉敷南高等学校	「キャリアⅠ」学問の哲人講座
柴田　奈美	赤磐市立磐梨中学校	模範授業　俳句の学習に関すること
	学校法人みつ朝日学園 朝日塾中等教育学校	朝日塾“ゆめ”俳句大賞選考会・表彰式
島田　清徳	岡山県立総社南高等学校	第２９回総社南高校美術工芸系作品展講評会講師
関﨑　　哲	社会福祉法人日本保育協会	第３８回全国青年保育者会議岡山大会分科会講師
福濱　嘉宏	吉備創生カレッジ (大学コンソーシアム岡山)	「小石川養成所の建築」
益岡　　了	吉備創生カレッジ (大学コンソーシアム岡山)	「日本の工業デザイン史」

２．６－１　非常勤医師（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
荻野　哲也	鳥取生協病院	病理医として生検材料及び外科材料の診断、臨床各科との症例検討
	岡山市医師会総合メディカルセンター	病理医（生検材料・外科材料の診断等）
	三原赤十字病院	生検材料・外科材料の診断・臨床各科との症例検討
高橋　　徹	（医）盛全会岡山西大寺病院	日本麻酔科学会認定麻酔科指導医・専門医
	（医）三樹会梶木病院	日本麻酔科学会認定麻酔科指導医・専門医
	（医）水島中央病院	麻酔科医師として手術症例の術前・術中・術後管理および卒後研修医に対する教育指導
藤井　保人	日立造船健康保険組合	嘱託産業医

２．６－１　非常勤講師・役員（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	岡山赤十字看護専門学校	「英語Ⅳ」
	岡山労災看護専門学校	「教育学」
柏　まり	就実大学	［乳児保育Ⅱａ・ｂ］
	姫路大学	乳幼児保育・乳児保育
樟本　千里	川崎医療短期大学	「教育心理学」
坂野　純子	東京大学	「健康教育」「社会福祉・社会保障論」
佐藤　和順	佛教大学	保育内容研究「人間関係」Ａ
	兵庫大学	「男女共同参画社会の構築」
佐藤　美恵	放送大学学園	「家庭におけるケア」
澤田　陽一	中国短期大学	「社会心理学」
周防　美智子	龍谷大学	「ソーシャルワーク演習Ⅲ」
高橋　幸子	ノートルダム清心女子大学	英語英文学科　卒業論文指導・卒業論文（副査）審査
高橋　吉孝	香川大学	「生化学」
谷口　敏代	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解Ⅱ」
趙　敏廷	関西福祉大学	「高齢者福祉論」
中野　菜穂子	岡山大学大学院	「リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ」
	岡山大学	「社会的養護内容」
中村　　光	愛知淑徳大学	「言語聴覚病理学持論１」
	（一社）操風会岡山旭東病院	言語聴覚士としての臨床業務（リハビリテーション課　言語聴覚部門）
名越　恵美	岡山労災看護専門学校	「看護研究の基礎」
二宮　一枝	岡山労災看護専門学校	「公衆衛生学」
	ノートルダム清心女子大学	「家庭看護学」
原野　かおり	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解Ⅰ」
藤井　保人	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解Ⅰ」
松田　実樹	日本福祉大学	「福祉現場の人材養成」
		「ケアマネジメント入門」
南津　佳広	岡山大学	「総合英語５」 「英語コミニュケーション」
	長崎外国語大学	「通訳論」「同時通訳実習Ⅲ・Ⅳ」 「英語逐次通訳演習Ⅱ」
村社　　卓	東洋大学	「社会福祉基礎特論Ⅵ」
山形　真由美	岡山県済生会看護専門学校	「在宅看護概論・在宅介護援助論Ⅰ・Ⅱ」
山本　浩史	倉敷翠松高等学校	看護科５年生対象「社会福祉学」
吉永　早苗	岡山大学	「幼児の音楽表現・幼児音楽Ⅱ」

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	学校法人就実学園就実大学	「スポーツ１」「スポーツ２」
有本　和民	㈱テクノアクセルネットワークス	技術顧問　技術コンサルタント等
伊藤　信之	慶應義塾大学大学院	「システムＬＳＩ設計」
	Epoch Microelectronics, Inc.	理事　指導・助言等
井上　貴浩	津山工業高等専門学校	「メカトロニクス」「機構学」
大久保　賢祐	岡山理科大学	「電気電子計測」
尾崎　公一	岡山大学大学院	「産業技術実践」
國島　丈生	学校法人中内学園流通科学大学	「モバイルコミュニケーション」 「ネットコミュニティ論」
小椋　清孝	岡山大学	「微分方程式１」「微分方程式２」
榊原　勝己	愛媛大学大学院	「ディジタル通信特論」
	岡山理科大学	「コンピュータネットワーク」
佐藤　洋一郎	岡山理科大学	「情報処理工学Ⅱ」
忻　　欣	神戸大学	「計算生体力学」
瀬島　吉裕	津山工業高等専門学校	「数値計算」
髙戸　仁郎	岡山大学	「するスポーツ演習」「健康・スポーツ科学Ｂ」
但馬　康宏	山陽学園大学	「データベース」
柳原　　衞	倉敷市立短期大学	「身体科学論」
	学校法人本山学園ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ岡山歯科衛生専門学校	「生命科学」
	旭川荘厚生専門学院	「体のしくみとはたらきⅠ」 「体のしくみとはたらきⅡ」「解剖生理学」
山内　　仁	一般社団法人アール・アンド・コミュニティー	理事　事業の計画・立案・実施およびこれに関する業務
渡辺　富夫	京都工芸繊維大学	認知的インタラクションデザイン学
	インタロボット株式会社	技術顧問　技術指導・アドバイス

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
岩本　弘光	(株)岩本弘光建築研究所	代表取締役 建築設計監理およびこれに関連する業務
風早　由佳	学校法人作陽学園	「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」
樫尾　聡美	岡山大学大学院教育学研究科	ダンス創作作品の衣装・美術に関する指導・助言
西川　博美	京都造形芸術大学	「環境デザイン演習［建築］Ⅱ-2/Ⅲ－2」
	ＷＲ一級建築士事務所	代表　自営する建築設計事務所の監理およびこれに関連する業務

氏名	従事先	従事内容
西田　麻希子	関西学院大学	「目的をもって伝えるグラフィックスデザイン」
樋笠　勝士	東京大学大学院人文社会系研究科	「原典講読」
	東京藝術大学美術学部	「美学特講」
	慶應義塾大学	「哲学倫理学特殊」「美学特殊」
ﾌﾞﾙﾈﾘ・ｱﾝｿﾆｰ	岡山大学	「総合英語５（ﾘｽﾆﾝｸﾞ）１」 「総合英語５（ﾘｽﾆﾝｸﾞ）２」
山下　明美	金沢美術工芸大学	「視覚デザイン演習（二）」
山下　万吉	吉備国際大学	「アニメーション概論」 「動画像基礎」